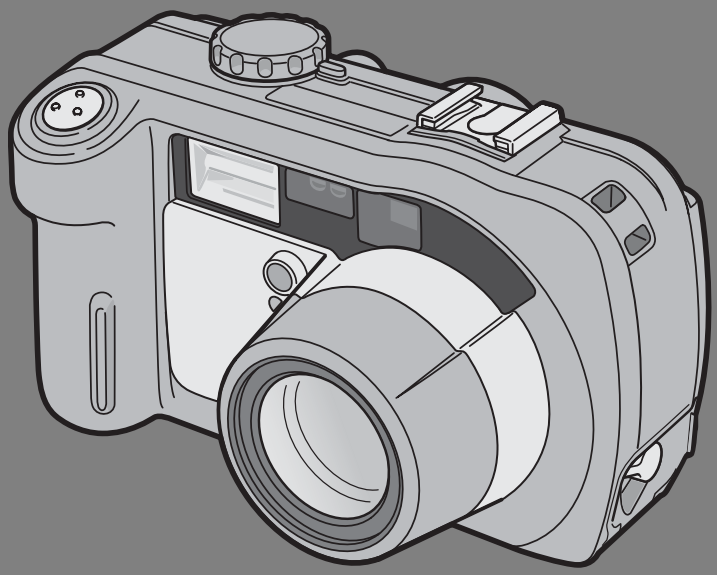
Caplio
500G wide

RICOH

使用説明書　カメラ・導入編



本製品のシリアル番号は、
本体底面に記載されています。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります。

応用編

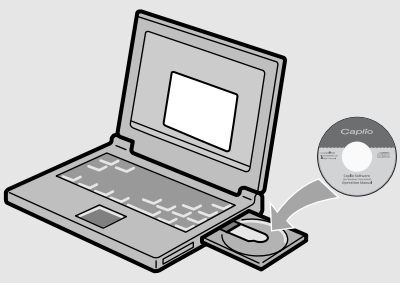
目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能の他、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています。

お願い

カメラとパソコンを接続するのは、ちょっとお待ちください。

付属のソフトウェアをパソコンにインストールする前に、カメラとパソコンをUSB ケーブルで接続すると、カメラとパソコンを接続するためのソフトウェアが適切にインストールされない場合があります。付属のソフトウェアをインストールしたあと、カメラとパソコンを接続してください。(☞P.135)



はじめに

この使用説明書には、本製品を使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。
本製品の機能を十分にご活用いただくため、ご使用の前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

安全上のご注意について	安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。
テスト撮影について	必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。
著作権について	著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽等の著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変等することは禁じられています。
ご使用に際して	万一、本製品などの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。
保証書について	本製品は国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
電波障害について	他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。 ・テレビやラジオなどからできるだけ離す ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える ・コンセントを別にする <電波障害自主規制について> この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。
© 2006 RICOH CO.,LTD.
本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。
本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたら、巻末をご覧の上ご連絡ください。
Microsoft、MS、Windows、DirectXは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Macintosh、Power Macintosh、Mac OSは米国およびその他の国で登録されているApple Computer,Incの商標です。
AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
会社名、および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

使用説明書の構成について

Caplio 500Gwideには、次の2種類の使用説明書が付属しています。

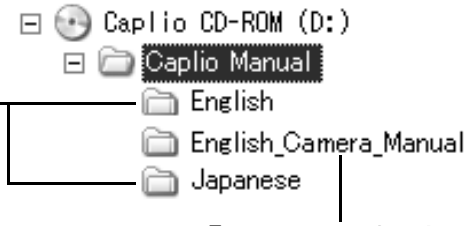
『使用説明書（カメラ・導入編）』（本書）

カメラの使いかたや機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。
※英語版の『使用説明書（カメラ・導入編）』はPDFファイルで、付属のCD-ROMに収録されています。

『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）

付属のソフトウェアを使って、カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。
『使用説明書（ソフトウェア編）』は、付属CD-ROM内の次のフォルダに収録されています。

日本語版および英語版の『使用説明書（ソフトウェア編）』が、フォルダに収録されています。



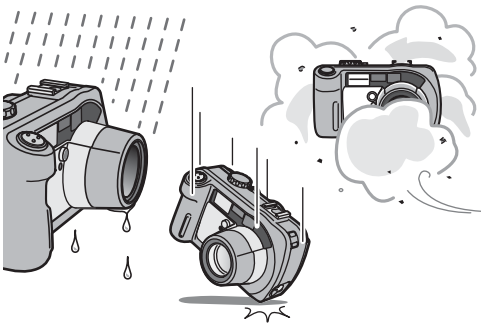
英語版の『使用説明書（カメラ・導入編）』（PDFファイル）

使用説明書（ソフトウェア編）をハードディスクにコピーするには上記のフォルダからPDFファイルをハードディスクにコピーしてください。

本機には、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェア ImageMixer が付属しています。ImageMixer の使いかたについては、ImageMixerの画面上に表示される［?］ボタンをクリックして表示されるマニュアルを参照してください。
ImageMixerについてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

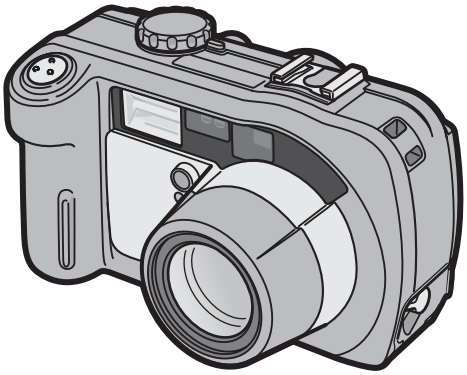
株式会社ピクセラ　ユーザーサポートセンター
TEL：06-6633-3900
FAX：06-6633-2992
〒556-0011
大阪府大阪市浪速区難波中2-10-70パークスタワー 25F
受付時間：月曜日～日曜日
10：00～17：00
（年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）
また以下のページで、ImageMixerの最新情報が閲覧できます。
http://www.imagemixer.com/

このカメラでできること



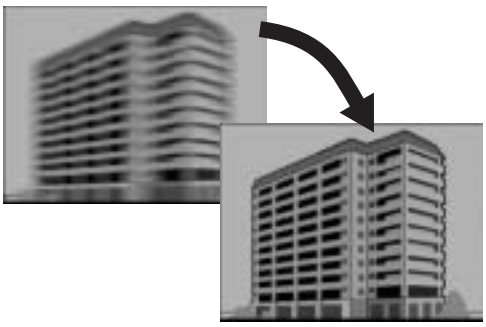
防水・防塵対応、衝撃対応のタフなボディ

防水機能（JIS保護等級7）、防塵機能（JIS保護等級6）、高さ1メートルからの落下に耐える耐衝撃機能を備えたカメラです。



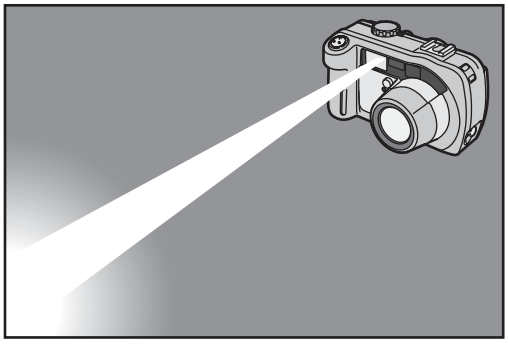
広い範囲を写しこむワイドズームレンズ

28～85mm*の広い撮影範囲をカバーする光学3倍ワイドズームレンズ搭載。ワイドコンバージョンレンズ（オプション）を取り付けると広角側22mm*となり、さらに広角で撮影可能です。
*35mm判カメラ換算値です。



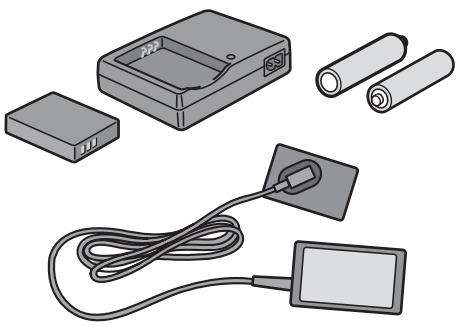
ブレ軽減機能でブレを制する（P.63）

ブレ軽減機能をオンにすると、ISO感度を上げて高速で撮影することにより、撮影した画像のブレが軽減されます。



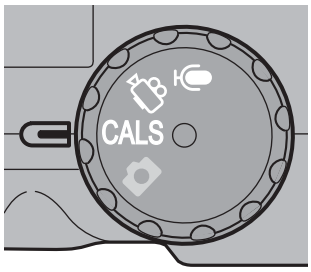
到達距離最大10mの内蔵フラッシュ搭載（P.38）

フラッシュは広角時10m、望遠時6.5mの距離まで対応。撮影可能なシーンがさらに広がります。外部フラッシュを取り付けることもできます。



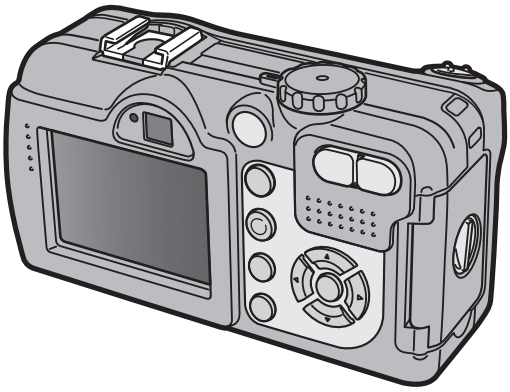
撮影タイミングに合わせた3電源方式（P.20）

リチャージャブルバッテリー（同梱）、単三アルカリ乾電池／ニッケル水素乾電池、ACアダプターの3種類の電源を利用できるので、どんな地域・場所でも撮影できます。



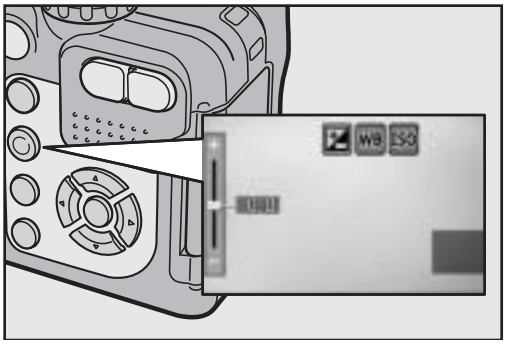
工事写真の電子化をサポートするCALSモード（P.43）

モードダイヤルをCALSに合わせるだけの簡単な操作で、工事写真提出用に適した写真（国土交通省、東・中・西日本高速道路株式会社提出準拠：1M、400K以下）が撮影できます。



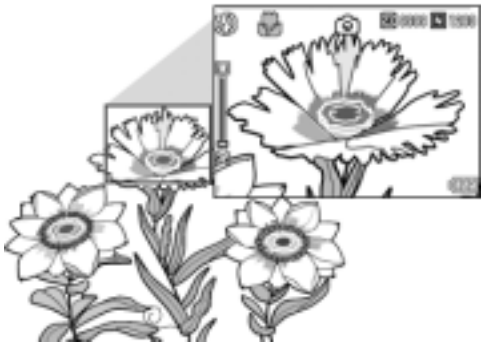
大型液晶モニターと光学ファインダー搭載

撮影対象や状況により、2.5インチ液晶モニターまたは実像式光学ズームファインダーを使い分けて撮影。撮影した画像は大型・高輝度の液晶モニターで確認できるので、確実です。



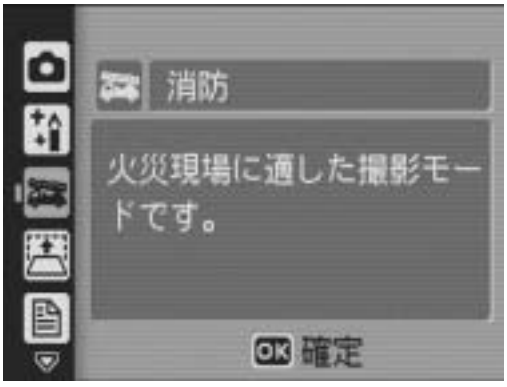
ADJ.（アジャスト）ボタンでカメラ操作がより簡単に（P.56）

通常のボタン操作を短縮させてくれるのがADJ.ボタン。露出補正やホワイトバランスの設定も、少ないボタン操作でラクラク設定できます。また、必要に応じて機能を割り当てることもできます。



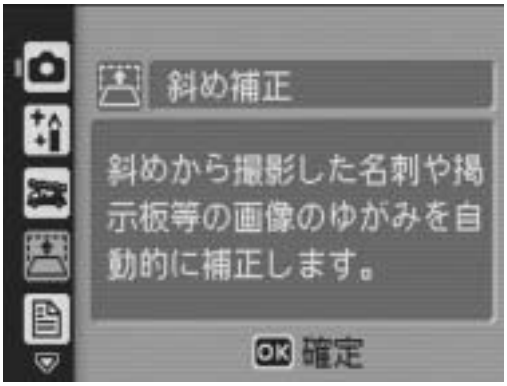
1cm（カメラ前端より5mm）接写できるマクロ（P.37）

被写体まで約1cm（カメラ前端より5mm）の超アップで撮影可能な接写機能を搭載。



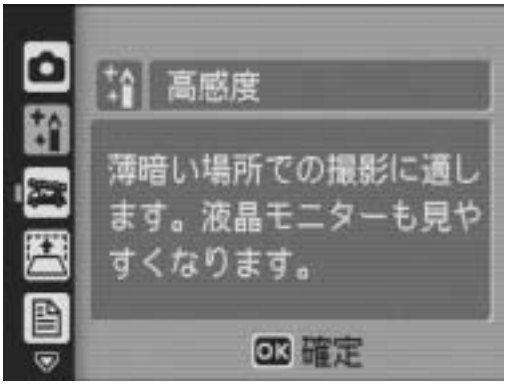
消防対応の高感度モード搭載（P.39）

炎が上がり、煙が充満した火災現場でもボケることなくシャープに撮影。薄暗い場所でも液晶モニターの感度がアップするので、被写体をはっきりと映し出します。



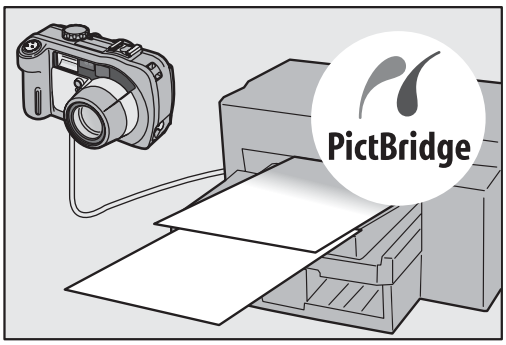
ゆがみを簡単に補正する斜め補正モード搭載（P.39）

斜めから撮影した四角い被写体を、正面から撮影したように補正する「斜め補正モード」を搭載。簡単なボタン操作で補正ができ、掲示板や展示パネル、名刺など、さまざまな被写体の撮影に活躍します。



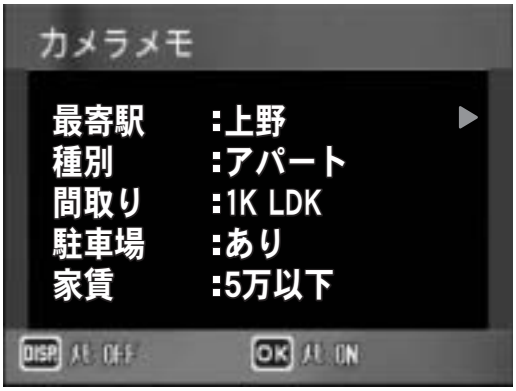
暗い場所では高感度モードを使って構図もしっかり確認（P.39）

シーンの高感度モードは、薄暗い場所で撮影するときに威力を発揮します。液晶モニターで明るく表示されるので、撮影対象をしっかりと確認して撮ることができます。



パソコンなしでも印刷できるダイレクトプリント機能（P.104）

カメラとダイレクトプリント対応プリンターを直接USBケーブルで接続して、画像を転送。パソコンを使わずに手軽に画像が印刷できます。
帳票印刷や、カメラメモ印刷も可能です。



画像の分類・検索など、管理に便利なカメラメモ

あらかじめパソコンで登録したメモ項目を呼び出して、静止画に付加することができます。カメラメモには、文字のメモと音声のメモの2種類があります。
カメラメモについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイルP.30）をご覧ください。

もくじ

使用説明書の構成について……1
このカメラでできること……2
もくじ……5

基本編 11

はじめてお使いのときは必ずお読みください

パッケージを確認する……12
カメラの各部の名称……14
モードダイヤルの使い方……16
液晶モニターの表示……17
準備をする……20
　電池について……20
　SDメモリーカード（市販）について……22
　リチャージャブルバッテリーを充電する……24
　バッテリーとSDメモリーカードをセットする……25
　ACアダプター（別売り）を使う……27
　電源をオン／オフする……29
　日時を合わせる……30
撮影する……31
　カメラの構えかた……31
　撮る……33
　ズームを使って撮る……36
　接写で撮る（マクロ撮影）……37
　フラッシュを使って撮る……38
　撮影シーンに合わせて撮る……39
　CALSモードで撮る……43
　セルフタイマーを使う……44
再生する……45
　撮った静止画をすぐ確認する（クイックレビュー）……45
　撮った静止画を見る……46
　3コマ表示／一覧表示する（サムネイル表示）……47
　静止画を拡大表示する……49
削除する……50
　1ファイルを削除する……50
　すべてのファイルを削除する……50
　複数のファイルを一度に削除する……51
DISP.ボタンで画面表示を切り替える……53
　画面の輝度を最大にする……53
　ヒストグラム表示について……54

応用編 55

目的に応じて必要なときにお読みください

1　いろいろな撮影 56

ADJ.ボタンの機能 56
　モード別設定可能な機能について 56
　文字濃度を変える（SCENE） 57
　AFターゲットを移動する（マクロ） 58
撮影設定メニューについて 59
　メニューの操作方法 60
画質モード／画像サイズを選ぶ（画質・サイズ） 61
ブレ軽減機能で撮影する（ブレ軽減） 63
ピント合わせの方式を変える（フォーカス） 64
　手動でピントを合わせて撮影する（MF） 65
測光方式を変える（測光方式） 67
静止画の質感を変える（シャープネス） 68
連写で撮る（連写／S連写／M連写） 69
　S連写／M連写した静止画を拡大して見る 72
色の濃さを設定する（色の濃さ） 73
露出を変化させて連続撮影する（オートブラケット） 74
　ホワイトバランスを変化させて連続撮影する
　（WB-BKT：ホワイトバランスブラケット） 75
長時間露光を設定する（長時間露光） 77
一定間隔で自動撮影する（インターバル撮影） 78
音声付き撮影をするには（音声付き撮影） 80
静止画に日付を入れるには（日付入れ撮影） 81
露出を変える（露出補正） 82
自然光や照明光を使う（ホワイトバランス） 83
　ホワイトバランスを手動設定する（手動設定） 84
撮影感度を設定する（ISO感度） 85
撮影設定メニューの設定を元に戻す（撮影設定初期化） 86

2　動画を撮影・再生する 87

動画を撮影する 87
フレーム数を設定する（フレームレート） 88
動画を再生する 89

3　音声を記録・再生する 90

音声を記録する 90
音声を再生する 91

4　いろいろな再生　92

再生設定メニューについて……92
　メニューの操作方法……92
自動的に順に表示する（スライドショー）……93
削除できないように設定する（プロテクト）……94
　1ファイルをプロテクトする……94
　すべてのファイルをプロテクトする……95
　複数のファイルを一度にプロテクトする……96
プリントサービスを利用する（DPOF：ディーポフ）……97
　表示している静止画にDPOF設定する……97
　すべての静止画にDPOF設定する……98
　複数の静止画にDPOF設定する……99
画像サイズを縮小する（画像サイズ変更）……100
内蔵メモリーの内容をカードへコピーする
　（CARDへコピー）……101
テレビの画面で見る……102

5　ダイレクトプリントで印刷する　104

ダイレクトプリント機能について……104
カメラとプリンターを接続する……105
静止画を印刷する……106
　1枚またはすべての静止画を印刷する……106
　複数の静止画を印刷する……108
　帳票印刷する……110
　帳票印刷にカメラメモを印字する……111

6　カメラの設定を変える　112

セットアップメニューについて……112
　セットアップメニューの操作方法……113
SDメモリーカードを使えるようにする（初期化［カード］）……115
内蔵メモリーを初期化する（初期化［内蔵メモリー］）……116
液晶モニターの明るさを調節する（LCD輝度調節）……117
ADJ.ボタンに機能を設定する（ADJ.ボタン設定）……118
オートパワーオフの設定を変える（オートパワーオフ）……119
ブザー音の設定を変える（ブザー音）……120
ブザー音の音量を変える（操作音音量設定）……121
画像確認時間を変える（画像確認時間）……122
ファイル名の設定を変える（CARD連続NO.）……123
日付・時刻を設定する（日時設定）……125
表示言語を変える（LANGUAGE／言語）……126

テレビで見るときの再生方式を変える（ビデオ方式）.....127
ステップズームの設定を変更する（ステップズーム）.....128
設定変更の警告を表示する（撮影設定警告）.....129
USB通信方式を変える（USB接続）.....130
アイコンを大きく表示する（撮影アイコン拡大）.....132
電源投入時の設定を登録する（マイセッティング登録）.....133
起動時の設定を変更する（起動時設定）.....134

7　画像をパソコンに取り込む　135

Windowsをご使用の場合.....135
Caplio Software CD-ROMの構成.....136
Caplio Softwareを使うために必要な環境.....139
Caplioソフトウェアをインストールする.....140
その他のソフトウェアをインストールする.....142
ソフトウェアを削除（アンインストール）する.....146
Macintoshをご使用の場合.....148
Caplio Software CD-ROMの構成.....148
Caplio Softwareを使うために必要な環境.....150
Caplioソフトウェアをインストールする
（Mac OS 8.6～9.2.2の場合）.....151
Caplioソフトウェアをインストールする
（Mac OS X 10.1.2～10.4.5の場合）.....152
ソフトウェアを削除（アンインストール）する.....154
カメラとパソコンを接続する.....155
ソフトウェアを使って画像を取り込む.....156
マスストレージモードで画像を取り込む.....157
カメラとパソコンの接続を解除する.....159

8　付録　160

お困りのときは……160
エラーメッセージが表示されたら……160
カメラ本体のトラブル……161
ソフトウェア／パソコンのトラブル……166
主な仕様……169
内蔵メモリー／SDメモリーカードの記録可能枚数……171
別売り品について……172
ワイドコンバージョンレンズの使い方……172
外部フラッシュの使いかた……173
電源オフで設定値が初期値に戻る機能……174
シーンモードについて……176
シーンモードの撮影設定メニュー……176
海外でお使いのときは……177
使用上のご注意……178
お手入れと使用／保管場所について……180
アフターサービスについて……182
索引……183

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください

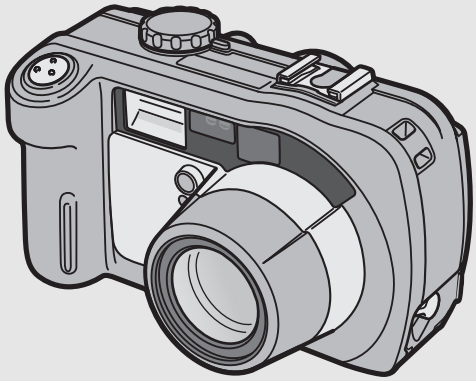
パッケージを確認する..... 12
カメラの各部の名称..... 14
モードダイヤルの使い方..... 16
液晶モニターの表示..... 17
準備をする..... 20
撮影する..... 31
再生する..... 45
削除する..... 50
DISP.ボタンで 画面表示を切り替える..... 53

パッケージを確認する

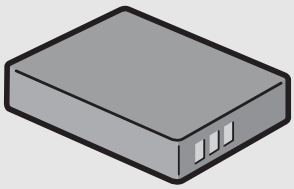
パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。

Caplio 500Gwide

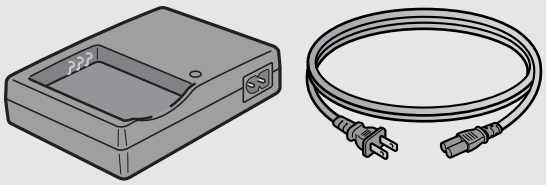
本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。



リチャージャブルバッテリー

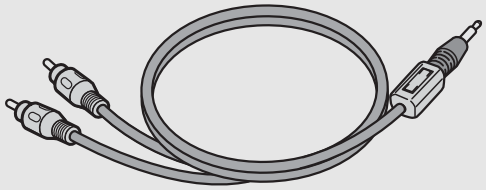


バッテリーチャージャー



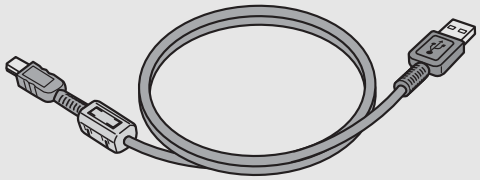
AVケーブル

テレビで画像を見るときに使用します。

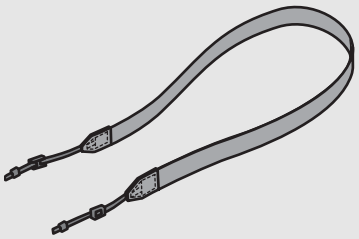


USBケーブル

カメラをパソコンやダイレクトプリント対応プリンターと接続するときに使用します。



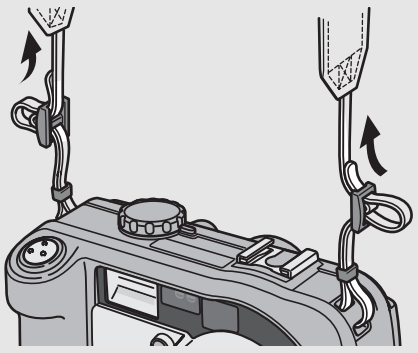
ネックストラップ



メモ----------

ネックストラップのつけかた

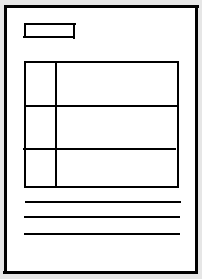
ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。



使用説明書（カメラ・導入編）

（本書）

保証書



安全上のご注意

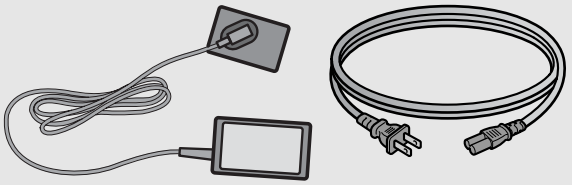
Caplio Software CD-ROM

ソフトウェアと『使用説明書（ソフトウェア編）』などが含まれています。

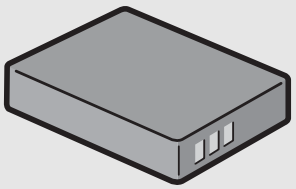
別売り品について

ACアダプター（AC-4d）

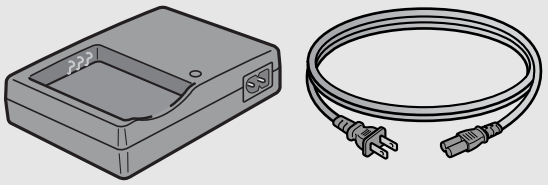
家庭用コンセントからカメラへ電源を供給するときに使用します。長時間の再生、パソコンへの画像の転送時などにご利用ください。



リチャージャブルバッテリー（DB-43）



バッテリーチャージャー（BJ-2e）



ワイドコンバージョンレンズ（DW-5）

ソフトケース（SC-500）

リチャージャブルバッテリーセット（BS-3e）

リチャージャブルバッテリー（DB-43）と、バッテリーチャージャー（BJ-2e）のセットです。

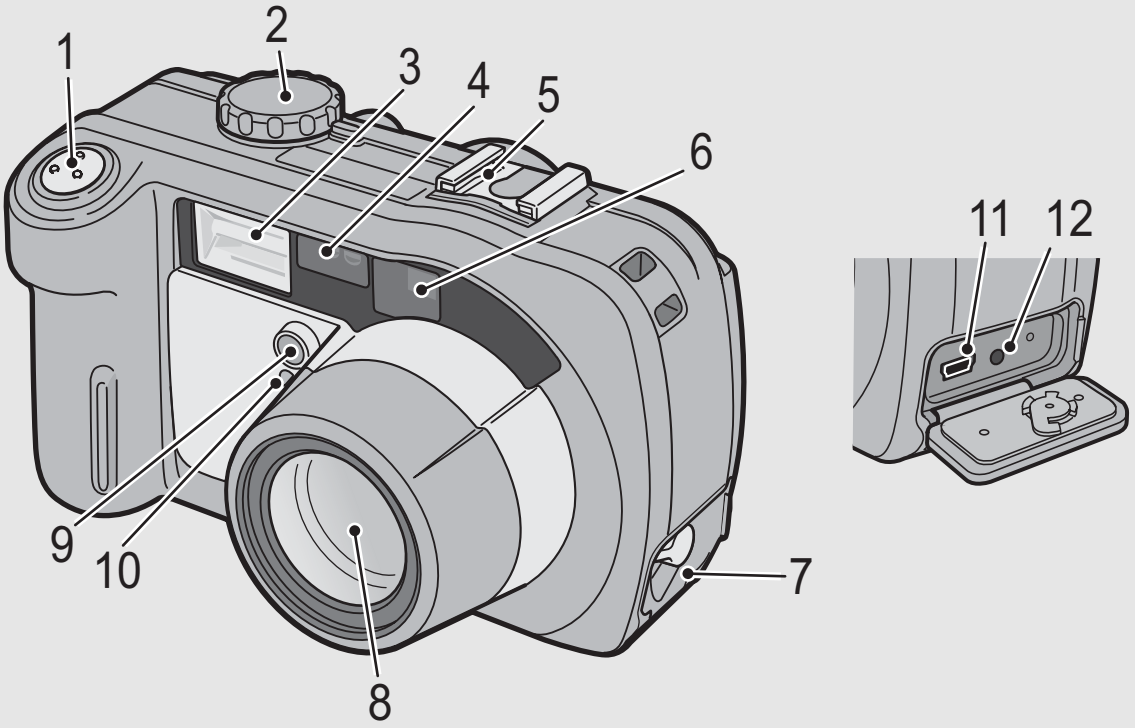
メモ----------

別売り品についての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/dc）をご覧ください。

カメラの各部の名称

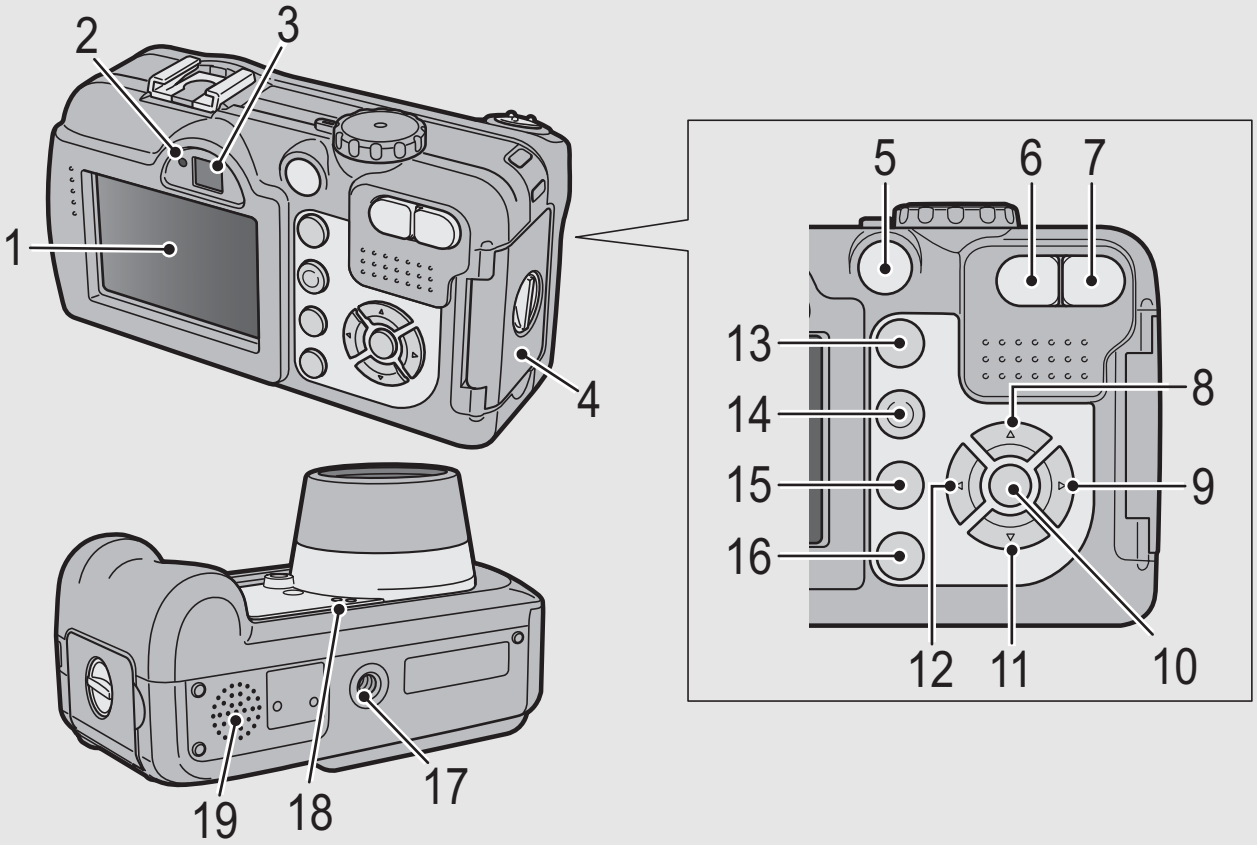
カメラ本体

前面



	名称	参照先
1	シャッターボタン	P.33
2	モードダイヤル	P.16
3	フラッシュ発光部	P.38
4	AF窓	―
5	アクセサリーシュー	P.173
6	ファインダー	P.31
7	端子カバー	P.102、105、155
8	レンズ	P.31
9	調光窓	―
10	AF補助光	―
11	USB端子	P.105、155
12	AV出力端子	P.102

背面

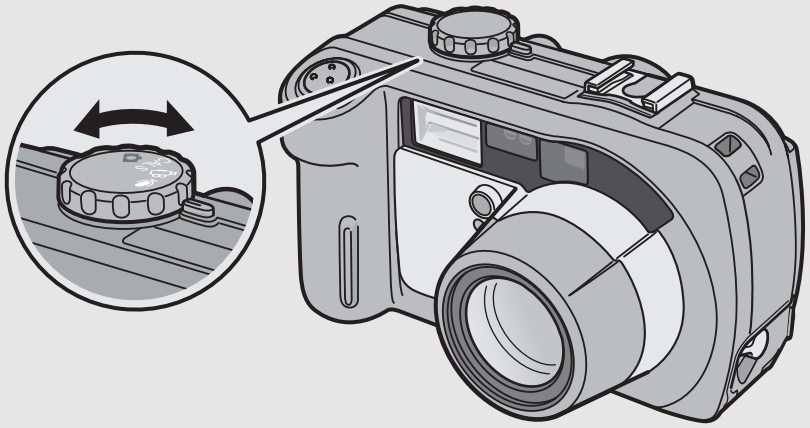


	名称	参照先
1	液晶モニター	P.17
2	オートフォーカス／フラッシュランプ	P.34、38
3	ファインダー	P.31
4	バッテリー／カードカバー	P.25、27
5	電源ボタン	P.29
6	[広角]（広角）／▪（サムネイル表示）ボタン	P.36、47
7	[望遠]（望遠）／🔍（拡大表示）ボタン	P.36、47
8	▲／SCENEボタン	P.39
9	▶／ϟ（フラッシュ）ボタン	P.38
10	MENU/OKボタン	P.60、92、113
11	▼／🌷（マクロ）ボタン	P.37
12	◀／⟲（クイックレビュー）ボタン	P.45
13	▶（再生）ボタン	P.46
14	ADJ.／MEMOボタン	P.56
15	🗑（削除）／⏲（セルフタイマー）ボタン	P.50、44
16	DISP.ボタン	P.53
17	三脚ねじ穴	P.169
18	マイク	P.90
19	スピーカー	P.89、91

モードダイヤルの使い方

撮影や録音などのカメラの操作は、モードダイヤルを切り替えてから行います。

1 モードダイヤルを回して、使用する機能のマークに合わせる

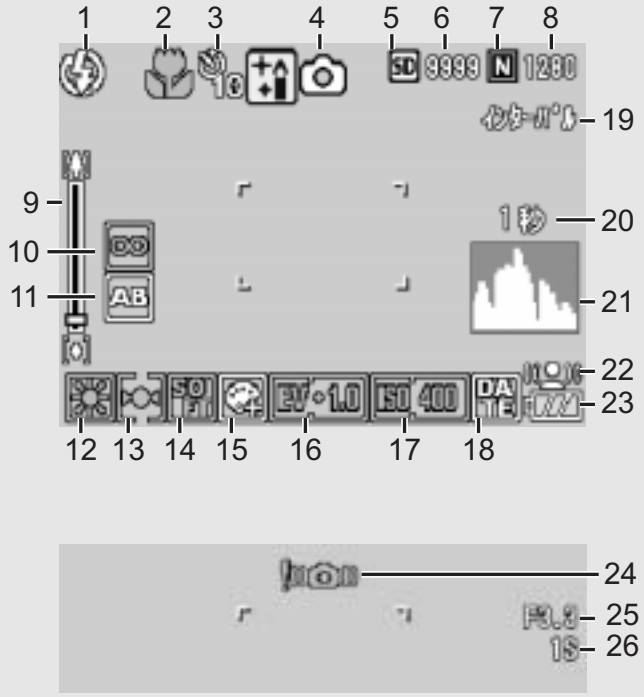


モードダイヤルのマークと働き

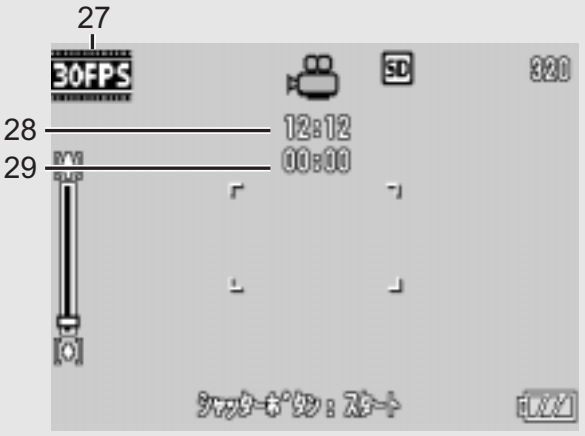
マーク	機能	働き
	静止画モード	静止画を撮影します。
CALS	CALSモード （キャルス）	工事用の静止画撮影時の［画質・サイズ］を［N1280］に固定します。
	動画モード	音声付き動画を撮影します。
	音声モード	音声を記録します。

液晶モニターの表示

撮影するときの画面



静止画モード



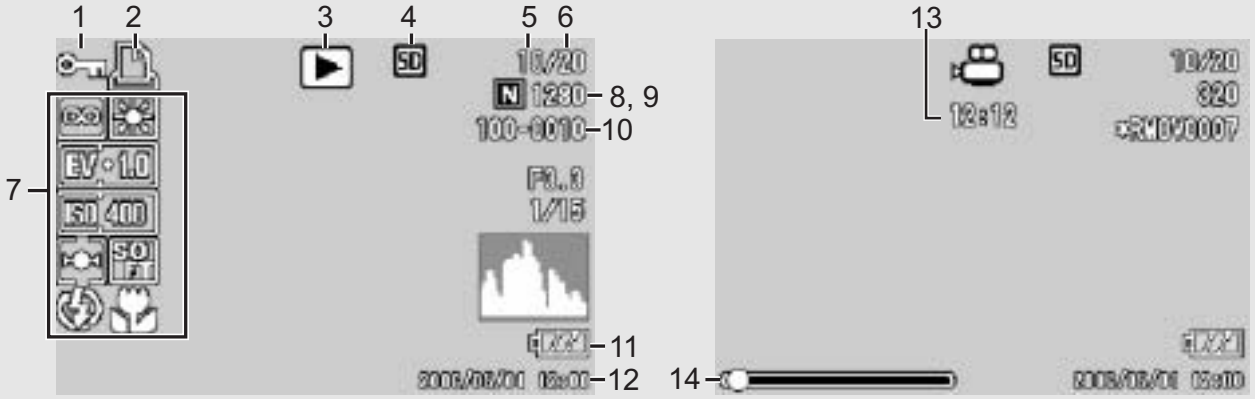
動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	フラッシュ	P.38	16	露出補正	P.82
2	マクロ撮影	P.37	17	ISO感度	P.85
3	セルフタイマー	P.44	18	日付入れ撮影	P.81
4	モードの種類	P.16、39	19	インターバル撮影	P.78
5	記録先	P.22	20	長時間露光	P.77
6	残り記録枚数	P.171	21	ヒストグラム表示	P.54
7	画質	P.61	22	ブレ軽減	P.63
8	画像サイズ	P.61	23	電池マーク	P.19
9	ズームバー	P.36	24	手ブレ注意マーク	P.32
10	フォーカス	P.64	25	絞り値	P.169
11	オートブラケット	P.74	26	シャッタースピード	P.169
12	ホワイトバランス	P.83	27	フレームレート	P.88
13	測光方式	P.67	28	残り記録時間	P.171
14	シャープネス	P.68	29	記録時間	P.171
15	色の濃さ	P.73			

メモ----------

- 残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画・音声の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 残り記録枚数が1万枚以上のときは「9999」と表示されます。

再生するときの画面



静止画モード　　動画モード

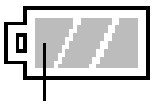
	名称	参照先		名称	参照先
1	プロテクト	P.94	8	画質	P.61
2	DPOF	P.97	9	画像サイズ	P.61
3	モードの種類	―	10	ファイル番号	―
4	再生元	P.46	11	電池マーク	P.19
5	再生ファイル数	―	12	撮影した日付	P.81 P.125
6	総ファイル数	―	13	記録時間または経過時間	―
7	撮影時（記録時）の設定	―	14	インジケーター	―

メモ----------

使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

電池の残量表示

液晶モニターの右下に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電するか、または新しい電池に交換してください。

電池マーク	説明
 緑色	電池の残量はまだ十分あります。
	電池の容量が減りはじめました。充電または新しい電池に交換することをお勧めします。
	電池の残量がわずかになりました。充電または新しい電池に交換してください。

注意----------

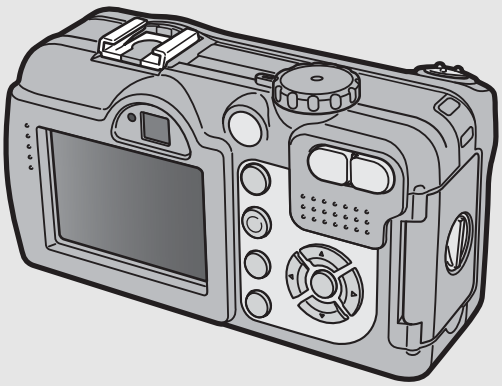
ACアダプターをご使用の場合、 表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。

準備をする

電源を入れて撮影できるように準備します。

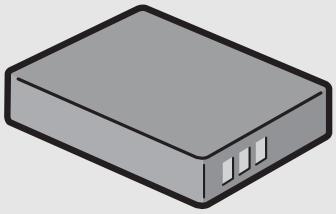
メモ----------

- すでにお使いのお客様は、電池を着脱する前に、電源がオフになっていることを確認してください。
- 電源をオフにする方法については、P.29をご覧ください。



電池について

リチャージャブルバッテリーDB-43（付属）
リチウムイオン電池です。バッテリーチャージャーで充電して繰り返し使用できるので、経済的です。持続時間が長いので、旅行のときなどに便利です。



メモ----------

以下の電池も使用できます。

- **単三アルカリ乾電池（市販）**
  どこでも入手しやすいので、旅行のときなどに便利です。
  ただし、寒冷地などの低温環境では、撮影可能枚数が少なくなります。電池を手で温めるなどして使用してください。より長い時間カメラをご使用いただくには、リチャージャブルバッテリーの利用をお勧めします。
- **ニッケル水素電池（市販）**
  充電して繰り返し使用できるので、経済的です。充電には市販の充電機をご使用ください。

撮影可能枚数----------

- 撮影可能枚数（電池の持続）の目安

電池の種類	通常時の枚数
リチャージャブルバッテリー(DB-43)	約400枚
単三アルカリ乾電池（市販）	約80枚

- 撮影枚数はCIPA規格に準拠した測定条件によるものです。（温度23°C、液晶モニターオン、30秒ごとに望遠端と広角端で交互に撮影、2回に1回フラッシュ発光、10枚撮影するごとに電源をオフ／オンを繰り返し）
- シンクロモニターモードにすると、さらに撮影可能枚数を増やすことができます。（☞P.53）
- 枚数はあくまでも目安です。設定、再生等の動作時間が長くなると、その分撮影可能時間（枚数）が短くなります。

注意----------

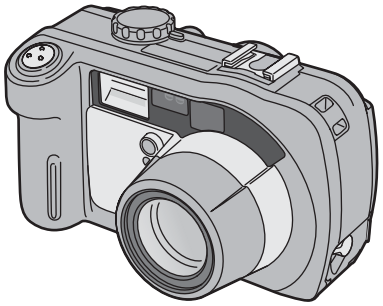
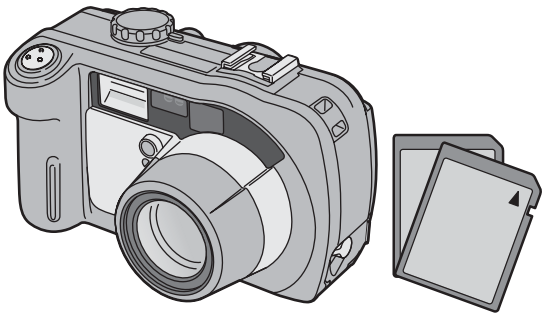
- 市販のニッケル水素電池はご購入時には充電されていません。ご使用の前に充電してお使いください。
- ニッケル水素電池の場合、ご購入直後や1ヶ月以上使用しないで放置すると“不活性状態”となっている場合があり、そのときには電池本来の性能が発揮されません。このような場合には2〜3回充電を繰り返してから再度ご使用ください。また、カメラを使用しないでいるときも、自己放電により容量が徐々に低下するため、ご使用の前には再度充電を行ってください。
- 単三アルカリ乾電池の場合、電池の銘柄、製造日からの保存期間により電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ乾電池はその特性上、低温時には使用時間が極端に短くなります。
- マンガン乾電池およびニッカド電池は、ご使用になれません。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長い期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。

SDメモリーカード（市販）について

記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーか、SDメモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、26MBです。
静止画・動画・音声をたくさん撮りたい場合や、高画質で撮りたい場合には、容量の多いSDメモリーカードを使うと便利です。

記録先について----------

SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードに記録されます。

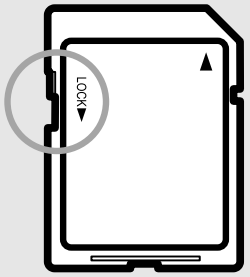
本体のみのとき	SDメモリーカードがセットされているとき
	
内蔵メモリーに記録	SDメモリーカードに記録

注意----------

- SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- SDメモリーカードの金属端子部を汚さないように注意してください。

誤って記録データを消さないようにするには----------

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除も初期化もできるようになります。
大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。
なお、「LOCK」の状態にするとSDメモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。



メモ----------

- 再生時のSDメモリーカードと内蔵メモリーの切り替えについては、P.46をご覧ください。
- 静止画の撮影可能枚数や動画・音声の記録時間は、SD メモリーカードの容量によって異なります。(☞P.171)
- 新しいSDメモリーカードを使用する場合は、本機で初期化してからお使いください。(☞P.115)
- 本カメラ以外で使用したSDメモリーカードを使用する場合は、必要なデータを保存の上、初期化してからお使いください。

リチャージャブルバッテリーを充電する

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。

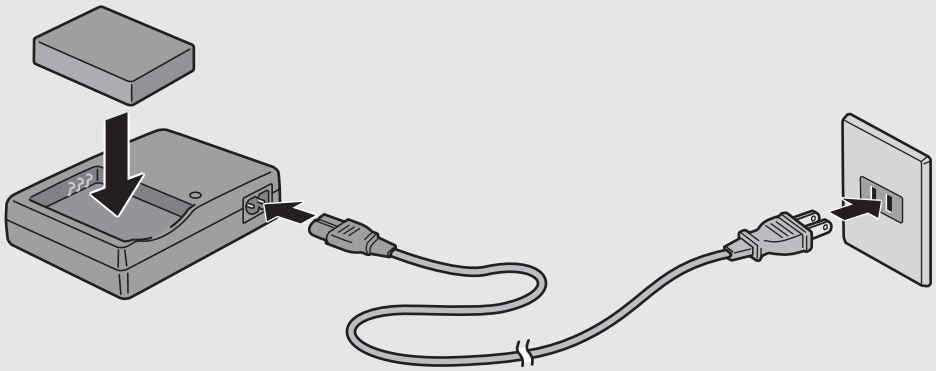
1 バッテリーの⊕⊖印とバッテリーチャージャーの⊕⊖印を合わせてセットする

- この時、バッテリーの印刷面は上になっています。

注意----------

⊕と⊖を逆にセットしないでください。

2 バッテリーチャージャーと電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む



- 充電には専用バッテリーチャージャー（BJ-2e）をご使用ください。
- 充電が開始されます。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、コンセントから抜いてください。

充電ランプ	説明
赤色点灯	充電開始
緑色点灯	充電完了
点滅	バッテリーチャージャーまたはバッテリーの異常（バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外してください。）

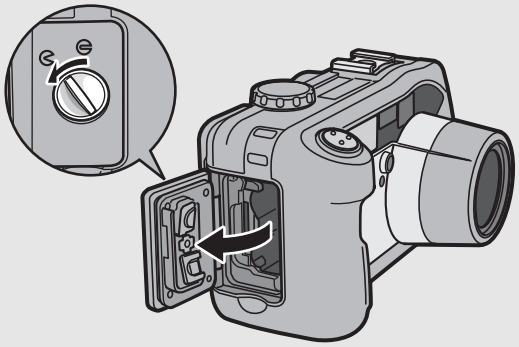
- バッテリーの残量により充電時間は異なります。

リチャージャブルバッテリーの充電時間	
DB-43	約220分(25°C)

バッテリーとSDメモリーカードをセットする

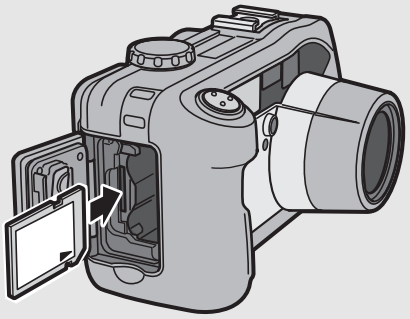
リチャージャブルバッテリー（DB-43）は、本カメラで使用できる充電池です。持続時間が長く、充電により繰り返し使用でき便利です。すでにお使いのお客様は、バッテリーとカードをセットする前、または取り出す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1 バッテリー／カードカバーのつまみを⊖側に回してカバーを開ける



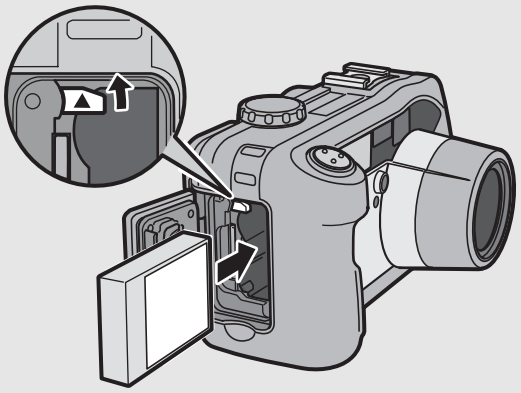
2 SDメモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまでSDメモリーカードを奥へ挿入する

- 先にリチャージャブルバッテリーをセットしてもかまいません。



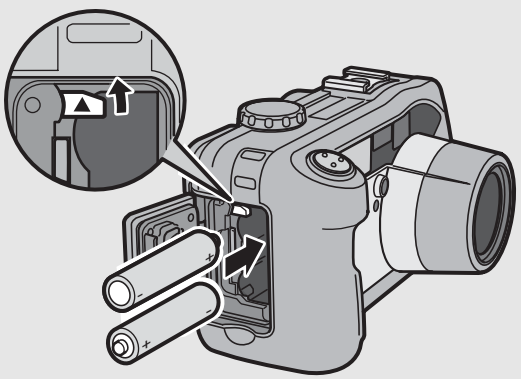
3 リチャージャブルバッテリーを挿入する

- ロックツメをバッテリー側面で押し上げながら奥まで入れます。
- セットすると、ロックツメでロックされます。

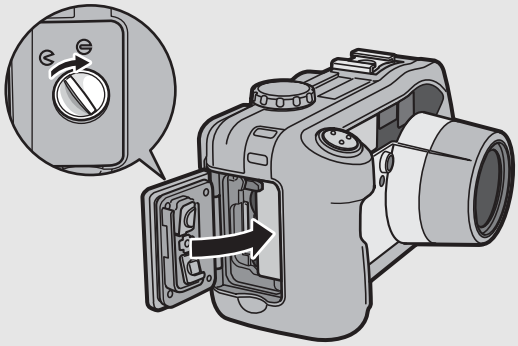


単三アルカリ乾電池（市販）の場合

- 電池の向きに気をつけて、図のように挿入します。
- 上側の電池は、ロックツメを電池側面で押し上げながら入れます。



4 バッテリー／カードカバーを閉じて、つまみを㊀側に回す



SDメモリーカードを取り出すときには

バッテリー／カードカバーのつまみを㊁側に回してカバーを開けます。SDメモリーカードを押し込んで指を静かにはなすと、SDメモリーカードが押し出されますので、つまんで取り出します。

リチャージャブルバッテリーを取り出すときには

バッテリー／カードカバーのつまみを㊁側に回してカバーを開けます。ロックツメを押しながらずらすとバッテリーが押し出されますので、つまんで取り出します。このとき、バッテリーが落下しないよう十分に注意してください。

単三アルカリ乾電池を取り出すときには

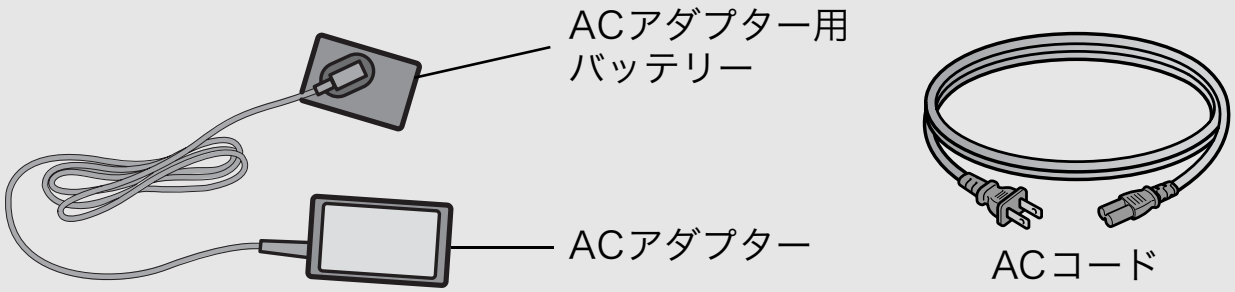
バッテリー／カードカバーのつまみを㊁側に回してカバーを開けます。ロックツメを押しながらずらすと乾電池が押し出されますので、つまんで取り出します。このとき乾電池が落下しないよう十分に注意してください。

注意----------

- バッテリー／カードカバー、端子カバーを確実に閉めてください。水や埃がカメラ内部に入ることがあります。
- バッテリー／カードカバー、端子カバーを開閉する場合、カメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所をさけて開閉してください。
- 長時間カメラをご使用にならない場合は、電池を抜いてカメラを保管してください。抜いた電池は涼しい場所に保管してください。
- リチャージャブルバッテリー、およびSDメモリーカードをセットするときは、挿入する向きを間違えないようご注意ください。向きを間違えたまま無理にバッテリー／カードカバーを閉じると、カメラ本体やリチャージャブルバッテリー、SDメモリーカードを破損する恐れがあります。

ACアダプター（別売り）を使う

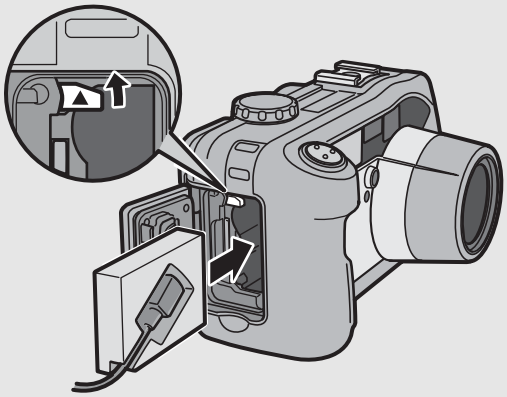
撮影や静止画を見るために長時間使用したり、パソコンと接続する場合は、ACアダプター（別売り）を接続して、家庭用コンセントから電源をとることをお勧めします。すでにお使いのお客様は、ACアダプターをセットする前に、電源がオフになっていることを確認してください。



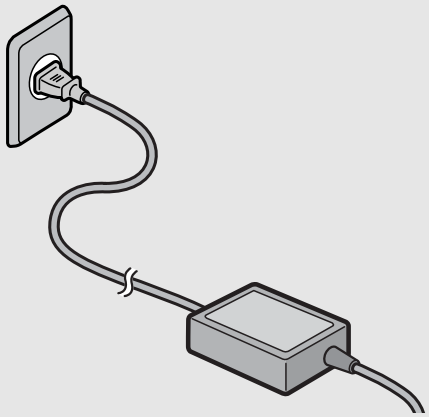
1 バッテリー／カードカバーのつまみを㊀側に回してカバーを開ける

2 AC アダプター用バッテリーの側面でロックツメを押し上げながら奥まで入れる

- ロックツメでロックされるまでしっかり挿入してください。



3 AC アダプターと AC コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む



注意----------

- 電源プラグやACコードは、しっかりと差し込んでください。
- カメラをご使用にならないときには、ACアダプターをカメラや電源コンセントから抜いておきましょう。
- カメラを使用中にACアダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターは、バッテリー／カードカバーを開けたまま使用します。無理に閉じないでください。
- ACアダプターをご使用の際は、電池残量マークがフルにならないことがあります。

ACアダプターを取り外すには

ACアダプターを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1 電源プラグをコンセントから抜く

2 ロックツメを押しながらずらすとアダプターが押し出されるので、つまんで取り出す

3 バッテリー／カードカバーを閉じて、つまみを㊀側に回す

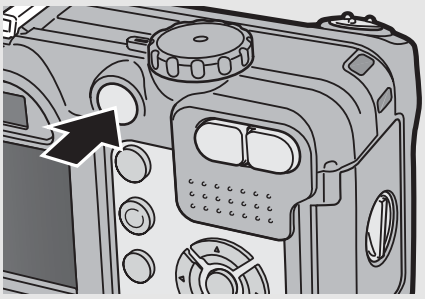
注意----------

バッテリー／カードカバー、端子カバーを開閉する場合、カメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所をさけて開閉してください。

電源をオン／オフする

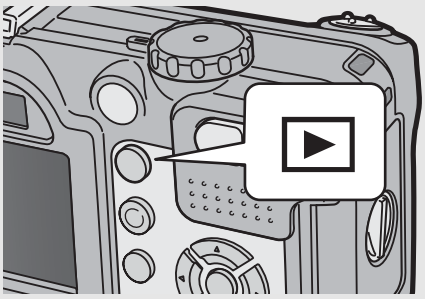
電源をオンにする

1 電源ボタンを押す



- 起動音が鳴り、オートフォーカス／フラッシュランプが、数秒間点滅します。

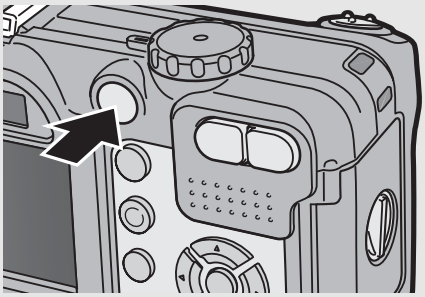
再生モードで使うときには



- ▶（再生）ボタンを約 1 秒以上押し続けると、再生モードの状態で電源がオンになり、カメラを再生モードで使用できます。

電源をオフにする

1 電源ボタンを押す



注意----------

- ▶（再生）ボタンで電源をオンにした場合は、もう一度 ▶（再生）ボタンを押すと、記録モードになります。
- フラッシュを使用する設定になっている場合は、フラッシュを使用しない設定の場合よりも、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、長くかかります。

オートパワーオフについて----------

- 設定した時間内にカメラのボタンを押す操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
- オートパワーオフの設定は変更することもできます。（☞P.119）

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 ▲▼◀▶ ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ▲▼で数値を変更し、◀▶で項目を移動します。

出荷時の設定

2 [書式] で日時の書式を選ぶ

- ▲▼で書式を選択します。

3 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- 日時が設定されます。
- この画面でDISP.ボタンを押すと、設定をキャンセルできます。

メモ----------

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、充分に残量のある電池をカメラに2時間以上セットしてください。
- 設定した日時は後で修正することができます。(☞P.125)
- 日時を入れて撮影することができます。(☞P.81)

撮影する

準備ができたら、さっそく撮影してみましょう。

カメラの構えかた

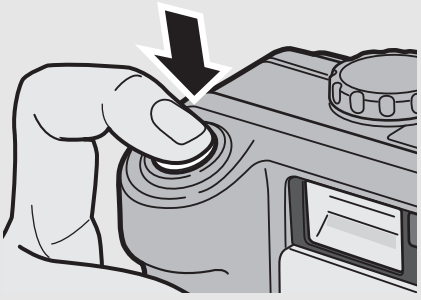
カメラは次のように正しく構えて撮影しましょう。

1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける

液晶モニターを見ながら撮る

ファインダーを見ながら撮る

2 シャッターボタンに指を当てる



メモ----------

指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。

手ブレを防ぐには----------

シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画が鮮明に撮れません（手ブレ）。
次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。

- フラッシュを使わずに暗い場所で撮る
- ズームを使って撮る
- 長時間露光を設定して撮る（☞P.77）

液晶モニターに マークが表示されたときは、手ブレしやすい状態ですので次の方法を試してください。

- ブレ軽減機能を使う（☞P.63）
- フラッシュを［AUTO］または［強制発光］にする（☞P.38）
- ISO感度を上げる（☞P.85）
- セルフタイマーを使う（☞P.44）

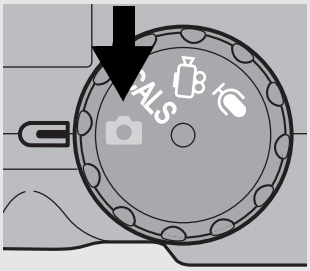
撮る

シャッターボタンを押す操作は、2段階になっています。一気にシャッターボタンを押しきる操作を「一気押し」、半分まで押す操作を「半押し」といいます。

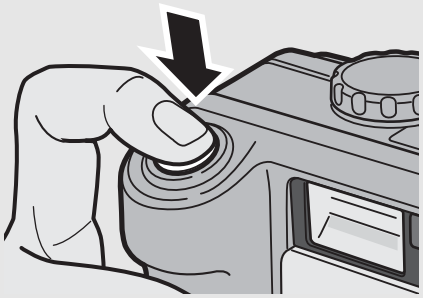
シャッターチャンスを逃さず撮る（一気押し）

高速でピント調整が行われ、撮りたい瞬間を逃さず撮影できます。

1 電源をオンにして、モードダイヤルを📷/CALSに合わせる



2 液晶モニターまたはファインダーを見ながら構図を決め、被写体を中央に合わせてシャッターボタンを静かに押しきる（一気押し）



- 撮影した画像が液晶モニターに表示され、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。

注意----------

一気押しで撮影すると手ブレを起こしやすくなります。カメラを両手でしっかりと持って撮影してください。

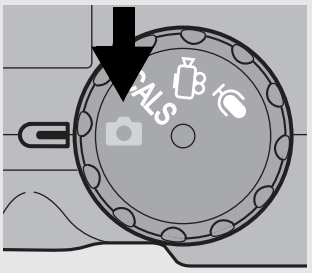
メモ----------

撮影後、液晶モニターに画像が表示される時間を設定することができます。表示しないこともできます。（☞P.122）

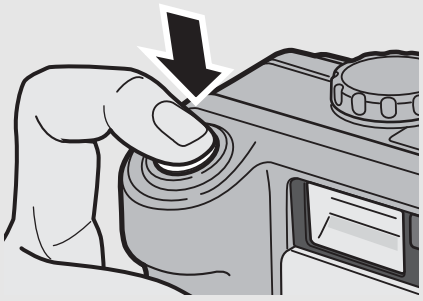
ピント合わせを確認して撮る（半押し／フォーカスロック）

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押しきると撮影されます。被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めます（フォーカスロック）。

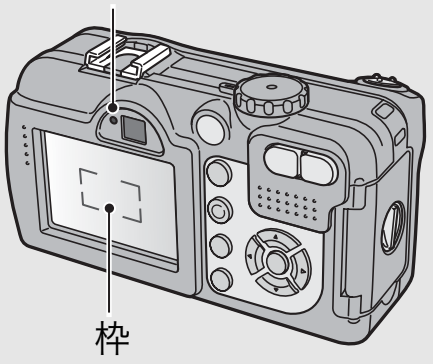
1 電源をオンにして、モードダイヤルを /CALSに合わせる



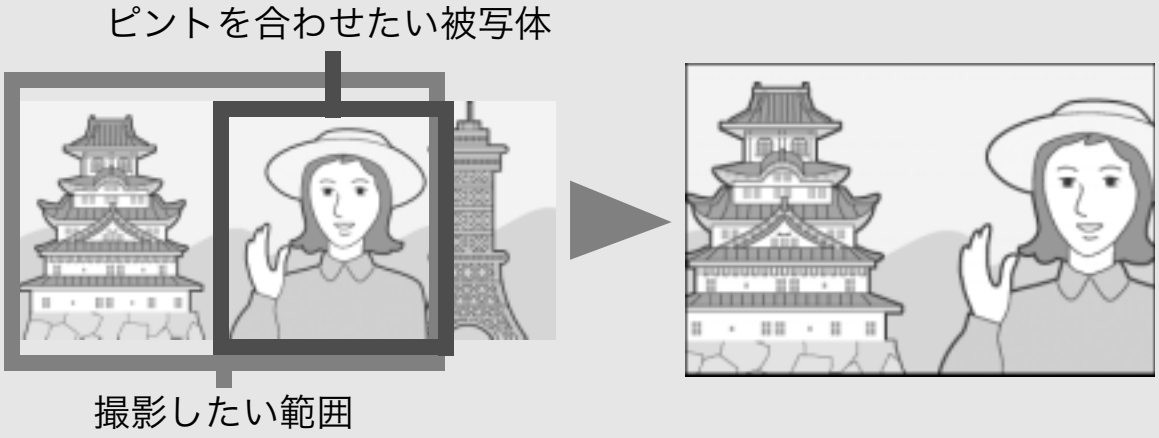
2 液晶モニターの中央に被写体をあわせ、シャッターボタンを半押しする



- ピント合わせが行われ、露出が固定されます。
- ピントが合わない場合は、液晶モニター中央部の枠が赤く点灯し、オートフォーカス／フラッシュランプが緑色に点滅します。
- 最大5点で測距され、どの位置にピントを合わせているかが、緑の枠で表示されます。

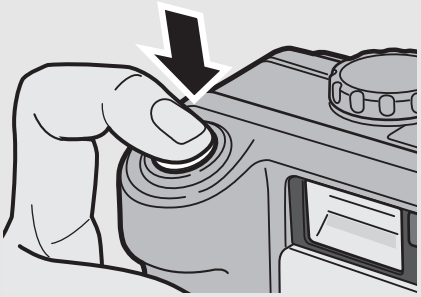


3 被写体にピントを合わせた状態で背景を撮りたい場合などは、半押しのままカメラを動かして構図を決める



4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 撮影した画像が液晶モニターに表示され、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。



ピント合わせについて----------

ピント合わせの状態は、液晶モニター中央の枠の色とオートフォーカス／フラッシュランプで確認することができます。

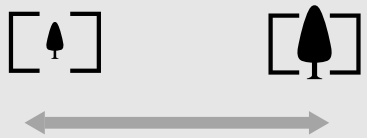
ピント合わせの状態	枠の色	オートフォーカス／フラッシュランプ
ピント合わせ前	白	消灯
ピントが合ったとき	緑	緑点灯
ピントが合わなかったとき	赤点滅	緑点滅

メモ----------

- 手ブレを防ぐために、シャッターボタンを押すときは、静かに押しましょう。
- マークが表示された場合には、手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。また、ブレ軽減機能をオンにすると、手ブレを起きにくくすることができます。（☞P.63）
- フラッシュ発光時は、AE／AF（自動露出／オートフォーカス）の精度を上げるため、2回発光します。

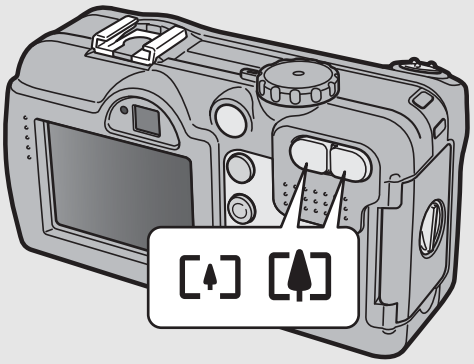
ズームを使って撮る

[▲]（広角）ボタンを押すと、広い範囲を写すことができます。
[▲]（望遠）ボタンを押すと、被写体を大きく写すことができます。



1 撮影できる状態で、[▲]（広角）ボタンや[▲]（望遠）ボタンを押す

- 液晶モニターのズームバーでズームの状況が確認できます。



2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る

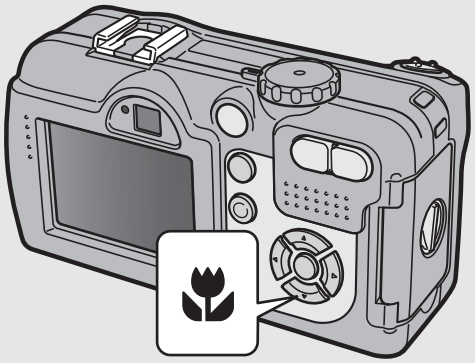
デジタルズームを使う----------

デジタルズームを行うと、[▲]（望遠）ボタンを押して設定した拡大倍率（最大3.0倍）より、さらに被写体を拡大できます（最大4.0倍まで）。デジタルズームを使うには、ズームバーの表示で、ズームが[▲]（望遠）側の端まできたときに、いったん[▲]ボタンから指を離し、再び[▲]ボタンを押し続けます。

接写で撮る（マクロ撮影）

（マクロ）ボタンを使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます（マクロ撮影）。
最短約5mm（カメラ前端より）まで近づけることができるので、小さな被写体の撮影に便利です。

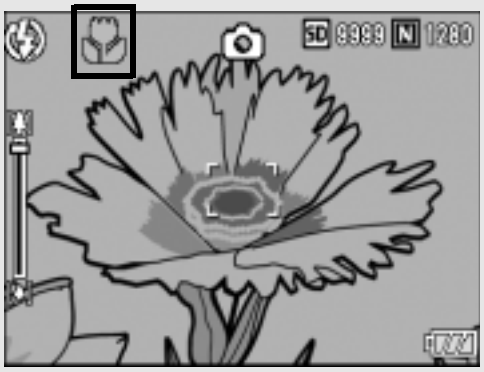
1 撮影できる状態で、（マクロ）ボタンを押す



- 液晶モニター中央に一瞬 が大きく表示され消えた後、上部にが表示されます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る



- マクロモードを解除するには、もう一度（マクロ）ボタンを押します。

メモ----------

- ズームを使用しているときには、次の距離までのマクロ撮影ができます。

広角時	約5mm （カメラ前端より）	撮影範囲：約27×20mm
望遠時	約10cm （カメラ前端より）	撮影範囲：約51×38mm （デジタルズーム未使用時）
		撮影範囲：約12.8×9.5mm （デジタルズーム4倍時）

- マクロ撮影では、カメラを動かさずにカメラのボタン操作だけでフォーカスロックができるAFターゲット移動機能が使用できます。三脚を使った撮影時に便利です。（☞P.58）
- マクロ撮影で、より被写体を大きく撮りたいときには、シーンモードの［ズームマクロ］を使います。（☞P.39）

フラッシュを使って撮る

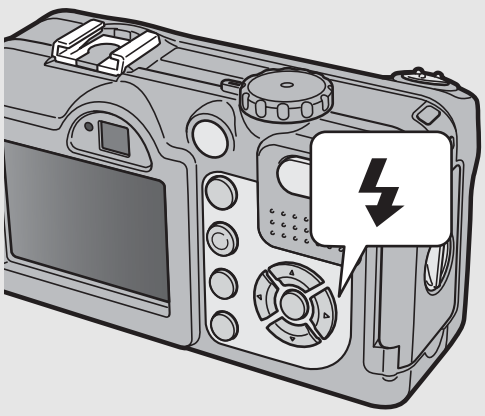
ϟ（フラッシュ）ボタンを使うと、フラッシュモードを切り替えることができます。購入時には、発光禁止に設定されています。フラッシュの光が届く距離（レンズ先端より）は、ISO感度の設定が［AUTO］の状態で、約0.2～10.0m（広角）、約0.2～6.5m（望遠）です。

フラッシュモードの種類

	発光禁止	フラッシュを発光しません。
AUTO	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
	強制発光	必ずフラッシュを発光します。
SLOW	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 ϟ（フラッシュ）ボタンを押して､フラッシュモードを切り替える



- 液晶モニター中央に、一瞬フラッシュモードのマークが大きく表示され消えた後、左上にフラッシュモードのマークが表示されます。
- フラッシュ充電中はオートフォーカス／フラッシュランプが点滅します。充電が完了すると消灯し、撮影が可能になります。

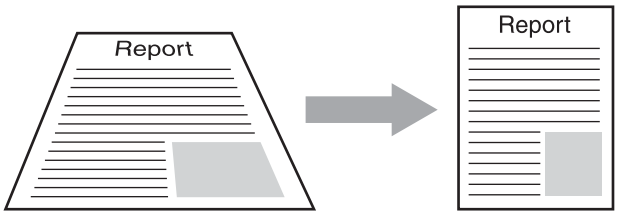
メモ----------

- ϟ（フラッシュ）ボタンを押して変更するまで、設定内容は保持されます。
- 動画、連写では、発光禁止になります。
- フラッシュ発光時は、AE ／ AF（自動露出／オートフォーカス）の精度を上げるため、2回発光します。
- 近距離の撮影でフラッシュを使用した場合、撮影した画像の左下にレンズ凸部による影が出ることがあります。

撮影シーンに合わせて撮る

シーンモードを使うと、5種類の静止画モードが選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

シーンモードの種類

 高感度	薄暗い場所で撮るときに使います。液晶モニターも見やすくなります。
 消防	火災現場の困難な状況で撮影するときなどに使用します。2.5m固定焦点で撮影するので、炎や煙、水蒸気などオートフォーカスの苦手な火災現場でボケることなく撮影できます。ISO感度アップにより遠くまでフラッシュが届き、フラッシュを使用しない場合でもシャッタースピードを制御して手ブレを防ぎます。その他、シャープネス処理描写、液晶モニターの感度をアップするなど消防対応のモードです。
 斜め補正	掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影する場合、撮影した画像を正面から撮影したように補正し、変換します。詳しい操作手順はP.41で説明しています。  斜め補正モードでは、[画質・サイズ]は、[F1280]、[N1280]、[N640]から選択できます。(☞P.61)
 文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。 文字の濃淡を変えることもできます。(☞P.57) 画像サイズは、3264×2448、2048×1536から選択できます。(☞P.61)
 ズームマクロ	通常のマクロ撮影よりも、被写体をより大きく撮影したい場合に使います。デジタルズームを使うことによって通常のマクロ撮影よりも、被写体をより大きく撮影できます。 詳しい操作手順はP.42で説明しています。 光学ズームは使用できません。 次の距離までのマクロ撮影ができます。 デジタルズーム未使用時：カメラ前端より約5mm (撮影範囲：約27×20mm) デジタルズーム4倍時：カメラ前端より約5mm (撮影範囲：約6.8×5mm)

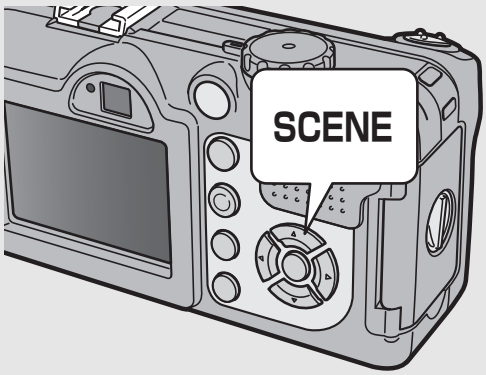
メモ----------

シーンモード時の撮影設定メニュー項目や、機能の制限については、付録を参照してください。(☞P.176)

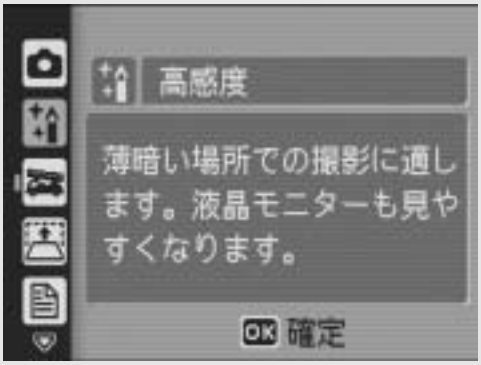
1 モードダイヤルを📷に合わせる

2 SCENEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。



3 ▲▼ボタンを押して、シーンモードを選ぶ



4 MENU/OKボタンを押す

- 液晶モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

5 シャッターボタンを押す

シーンモードを変更するには

SCENEボタンを押すと、シーンモード選択画面が表示されますので、変更するシーンモードを選びます。

通常の撮影モードに戻るには

1 SCENEボタンを押して、シーンモード選択画面を表示する

2 ▲▼ボタンを押して、[通常撮影]を選択する

3 MENU/OKボタンを押す

斜め補正モードを使うには

1 モードダイヤルを📷に合わせる

2 SCENEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、[斜め補正]を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 撮影直後に、補正対象として認識したエリアがオレンジの枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- 別の補正エリアを選択する場合は、▶ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。

6 MENU/OKボタンを押す

- 変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。
- 変換をキャンセルする場合は、▲ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。

メモ----------

[斜め補正]に設定した場合は、以下の点にご注意ください。

- 被写体がなるべく大きくなるように、被写体の全体が液晶モニターの表示に入るような構図で撮影してください。
- 以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
  - ピンぼけの画像
  - 被写体の4辺がはっきり見えない
  - 被写体と背景の区別がつきにくい
  - 背景が複雑な構図
- 通常、変換前と変換後、2枚の画像が記録されます。記録可能枚数が2枚未満の場合には、撮影できません。
- エリア検出に失敗した場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

ズームマクロで撮影するには

1 モードダイヤルを📷に合わせる

2 SCENEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、[ズームマクロ]を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 [🔼]（広角）ボタンや[🔼]（望遠）ボタンを押す

- 液晶モニターに倍率が表示されます。

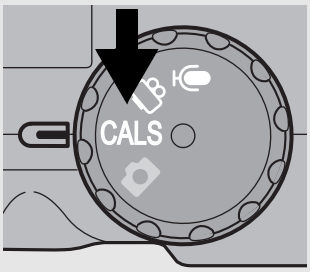
6 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

7 シャッターボタンを押し切る

CALSモードで撮る

CALSモードを選択すると、[画質・サイズ]が工事写真提出用(国土交通省、東・中・西日本高速道路株式会社提出準拠：1M、400K以下)に適した[N1280](Normal 1280×960)に固定されます。モードダイヤルの簡単な操作だけで、画質モードや画像サイズの設定に気を取られることなく、工事写真が撮影できます。

1 モードダイヤルをCALSに合わせる



- 液晶モニターにマークが表示されます。

2 シャッターボタンを押す

- 画像が[N1280]で記録されます。
- モードダイヤルを**CALS**以外に合わせると、[画質・サイズ]は他のモードでの設定値に戻ります。

メモ----------

CALSモードのときにS連写、M連写で撮影すると、[画質・サイズ]が[N3264](Normal 3264×2448)に固定されます。

セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10秒後、2秒後の2種類から選択できます。
手ブレを防ぎたいときには2秒に設定すると便利です。

1 モードダイヤルを/CALSに合わせる

2 (セルフタイマー) ボタンを押す

- セルフタイマーのマークが表示されます。
- マークの右側にある［10］は秒数を示しています。この状態でシャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。
- （セルフタイマー）ボタンは、1回押すごとに、10秒→2秒→セルフタイマー解除→10秒→2秒→･･･と切り替わります。

3 シャッターボタンを押す

- ピントが固定され、セルフタイマーがスタートするとAF補助光が点滅します。
- シャッターが切れると、セルフタイマーが解除されます。

メモ----------

2秒の場合は、AF補助光は点滅しません。

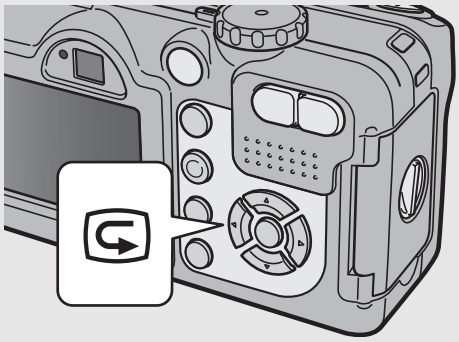
再生する

撮った静止画をすぐ確認する（クイックレビュー）

撮った静止画は、液晶モニターを使ってすぐに見ることができます。うまく撮れていなかったときは、その場で削除できます。

1 撮影モードのまま、⮌（クイックレビュー）ボタンを押す

- 液晶モニターに最後に撮った静止画が表示されます。



クイックレビュー時の動作	
⮌ボタン	撮影モードに戻ります。
Qボタン	静止画を拡大表示します。 拡大表示中は、▲▼◀▶ボタンで表示箇所を移動することができます。
▪▪ボタン	Qボタンで拡大した静止画を縮小表示します。
MENU/OKボタン	Qボタンで拡大した静止画を最大倍率で拡大して表示します。 最大倍率で表示されているときは、全体表示に戻します。
🗑ボタン	表示中のファイルを削除することができます。🗑ボタンを押すと削除を確認する画面が表示されますので、［削除］を選びMENU/OKボタンを押してください。

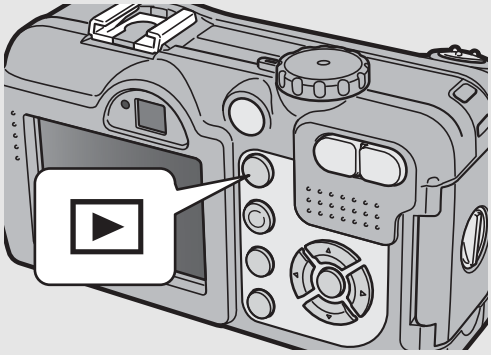
メモ----------

- いったん電源をオフにすると、静止画モードで⮌（クイックレビュー）ボタンを押しても、撮影した静止画は表示されません。
- シーンモードの［文字］（☞P.39）で撮影した静止画をクイックレビューで表示すると、実際に記録された静止画より若干画質が低い状態で表示されることがあります。

撮った静止画を見る

再生モードを使うと、撮った静止画を確認することができます。
削除、拡大表示もできます。

1 ▶（再生）ボタンを押す



- 再生モードに切り替わり、最後に撮った静止画が表示されます。
- ◀▶ボタンで、順番に静止画を見ることができます。
- 再生モードから撮影モード（または音声モード）に戻るには、もう一度▶（再生）ボタンを押します。

前へ　次へ

再生モードでの電源オンについて----------

電源がオフの状態で▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けると、電源がオンになり、再生モードの状態で起動します。
▶（再生）ボタンで電源をオンにした場合も、もう一度▶（再生）ボタンを押すと、撮影モードになります。

再生元について----------

SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーから再生され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカードから再生されます。

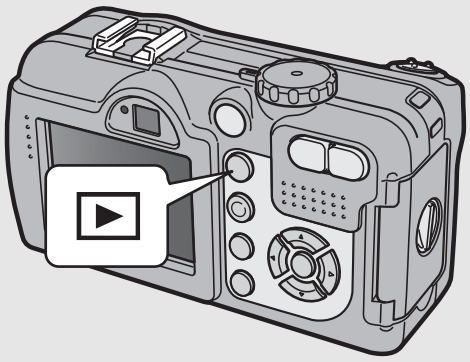
3コマ表示／一覧表示する（サムネイル表示）

再生画面は3コマ表示または一覧表示（12枚ずつ）にすることができます。3コマ表示／一覧表示では、静止画を選択して、その静止画を1枚表示にしたり、削除することができます。

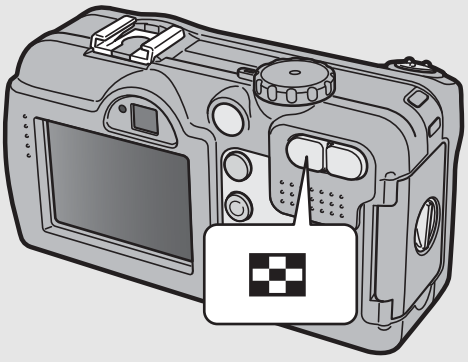
再生画面は次のように切り替わります。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮った静止画が表示されます。



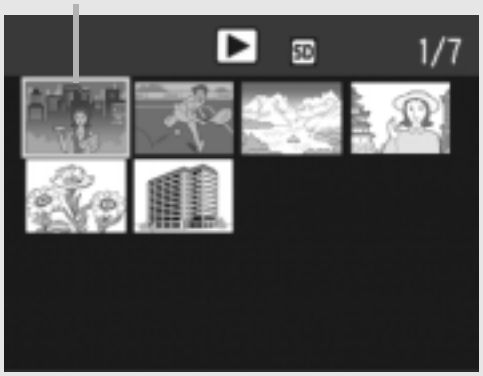
2 ▪（サムネイル表示）ボタンを押す



- 3 コマ表示に変わります。中央の大きなコマが現在選択されている静止画です。

3 3コマ表示時に再度▪（サムネイル表示）ボタンを押す

- 画面が12分割されて、静止画がサムネイル表示されます。



1枚表示するには

●3コマ表示の場合

1 ◀▶ボタンを押して静止画を選ぶ

2 🔍（拡大表示）ボタン、またはMENU/OKボタンを押す

●一覧表示の場合

1 ▲▼◀▶ボタンを押して静止画を選ぶ

2 🔍（拡大表示）ボタンを2回押す

メモ----------

3コマ表示で次の操作を行うと、通常の再生画面（1枚表示）に戻って操作を実行します。

- 削除する（☞P.50）
- メニューを表示する（☞P.92）
- 動画を再生する（☞P.89）
- 音声を再生する（☞P.91）

静止画を拡大表示する

表示している静止画を拡大表示することができます。

画像サイズ	拡大表示（最大倍率）
3264×2448、2592×1944、2048×1536	8倍
1280×960	6.7倍
640×480	3.4倍

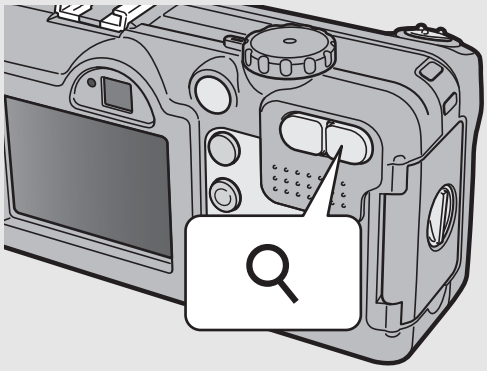
1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮った静止画が表示されます。

2 ◀▶ボタンを押して拡大表示したい静止画を表示する

3 Q（拡大表示）ボタンを押す

- 静止画が拡大されます。



画像拡大時の動作	
Qボタン	静止画を拡大表示します。 拡大表示中は、▲▼◀▶ボタンで表示箇所を移動することができます。
▪ボタン	拡大表示された静止画を元の大きさに戻します。
MENU/OKボタン	静止画を最大倍率で拡大して表示します。 最大倍率で表示されているときは、元の大きさに戻します。

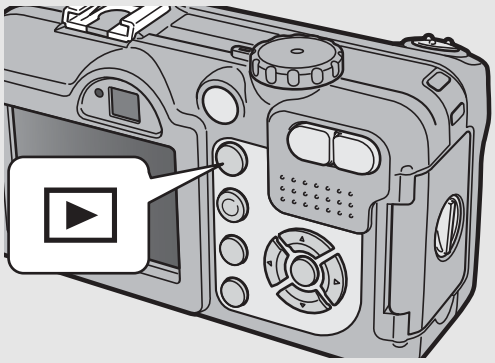
メモ----------

- クイックレビュー時にも拡大表示できます。
- 動画は拡大表示することができません。

削除する

不要なファイルや失敗したファイルを、SDメモリーカードまたは内蔵メモリー内から削除することができます。

1ファイルを削除する



1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ボタンを使って削除したいファイルを表示する

3 🗑（削除）ボタンを押す

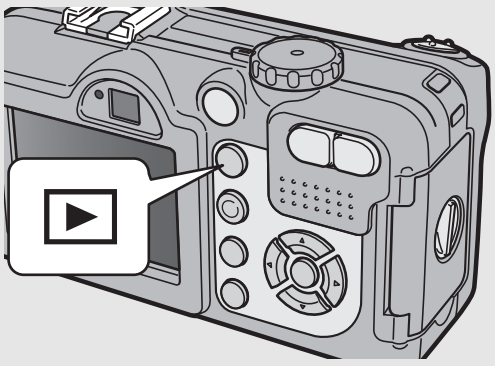
4 ▲▼ボタンを押して、[1ファイル削除]を選ぶ

- ◀▶ ボタンを使って削除するファイルを変更できます。

5 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、手順4の画面に戻ります。

すべてのファイルを削除する



1 ▶（再生）ボタンを押す

2 🗑（削除）ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[全削除]を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 削除の確認画面が表示されるので、▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押します。

メモ----------

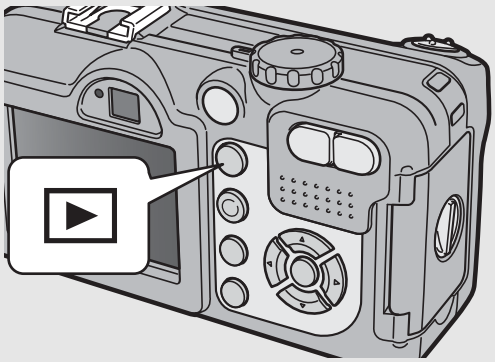
3コマ表示の状態（☞P.47）で、🗑（削除）ボタンを押しても、ファイルを削除できます。

複数のファイルを一度に削除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ▪（サムネイル表示）ボタンを2回押す

- 画面が12分割されて、ファイルがサムネイル表示されます。



3 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したいファイルを選び、🗑（削除）ボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

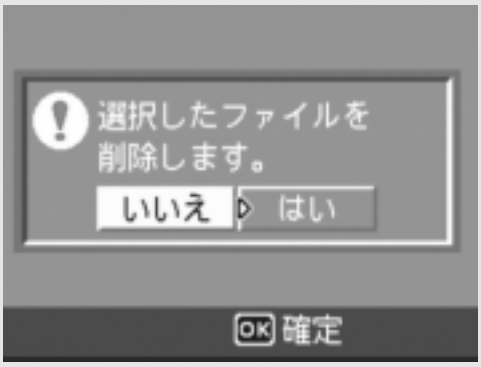
4 手順3を繰り返して、削除したいファイルをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、ファイルを選択して🗑（削除）ボタンを再度押すと解除できます。

5 MENU/OKボタンを押す

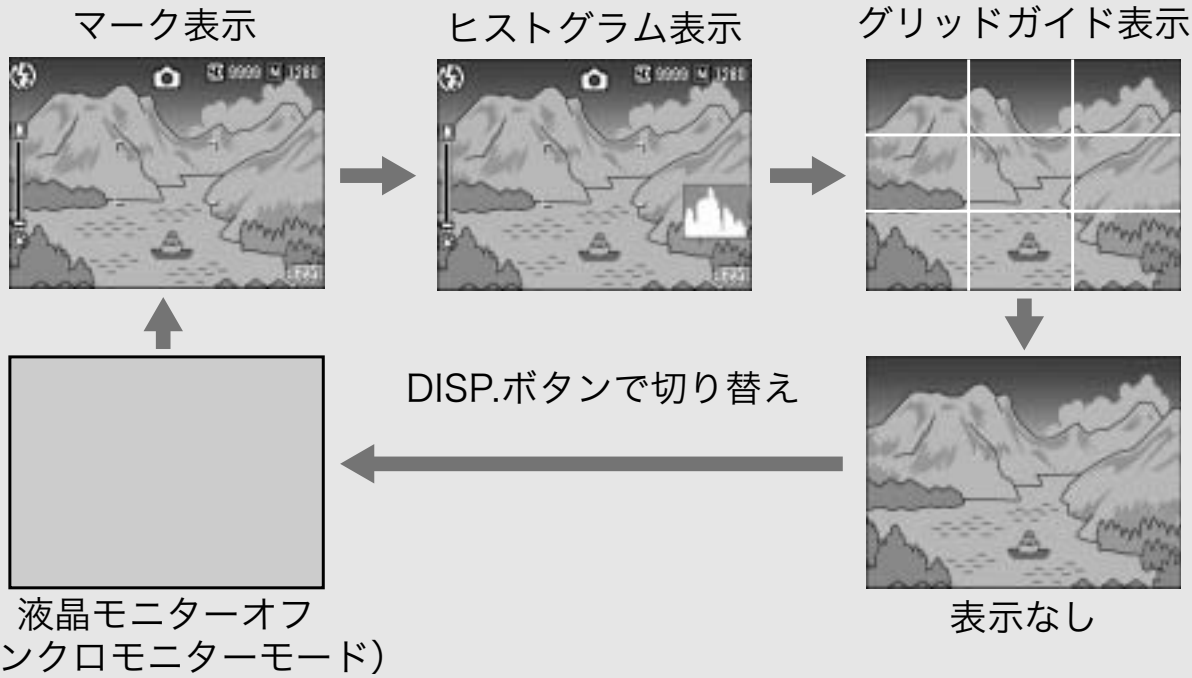
6 ◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。



DISP.ボタンで画面表示を切り替える

DISP.ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。
DISP.ボタンは、1回押すごとに、ヒストグラム表示→グリッドガイド表示→表示なし→液晶モニターオフ→通常のマーク表示→ヒストグラム表示→・・・と切り替わります。



グリッドガイド表示----------

液晶モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。

シンクロモニターモード----------

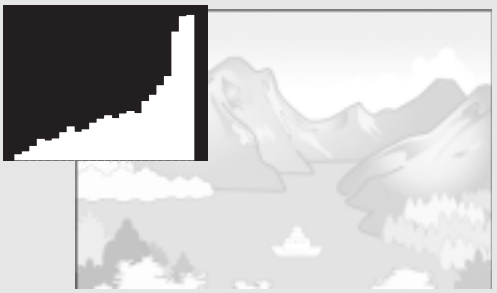
カメラ操作時以外は、液晶モニターをオフにする機能です。節電に効果のあるモードです。シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターがオンになり、押し切ったあとに確認画面が表示され、液晶モニターがオフになります。

画面の輝度を最大にする

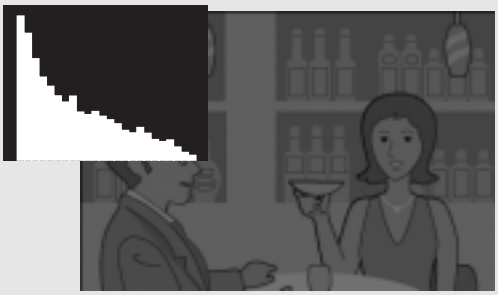
DISP.ボタンを押し続けると、画面の輝度が最大になります。
輝度が最大のときにDISP.ボタンを押し続けると、LCD輝度調節（☞P.117）で設定した明るさに戻ります。

ヒストグラム表示について

ヒストグラム表示にすると、液晶モニター画面の右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。
ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる液晶モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白とびや黒つぶれを防ぐ助けになります。



ヒストグラムで、右側だけにグラフの山が盛り上がり、ほかには何もないとすると、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。



左側だけにグラフの山があると、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。露出補正時の参考にお使いください。

メモ----------

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
  例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど
- 露出補正の操作については、P.82を参照してください。

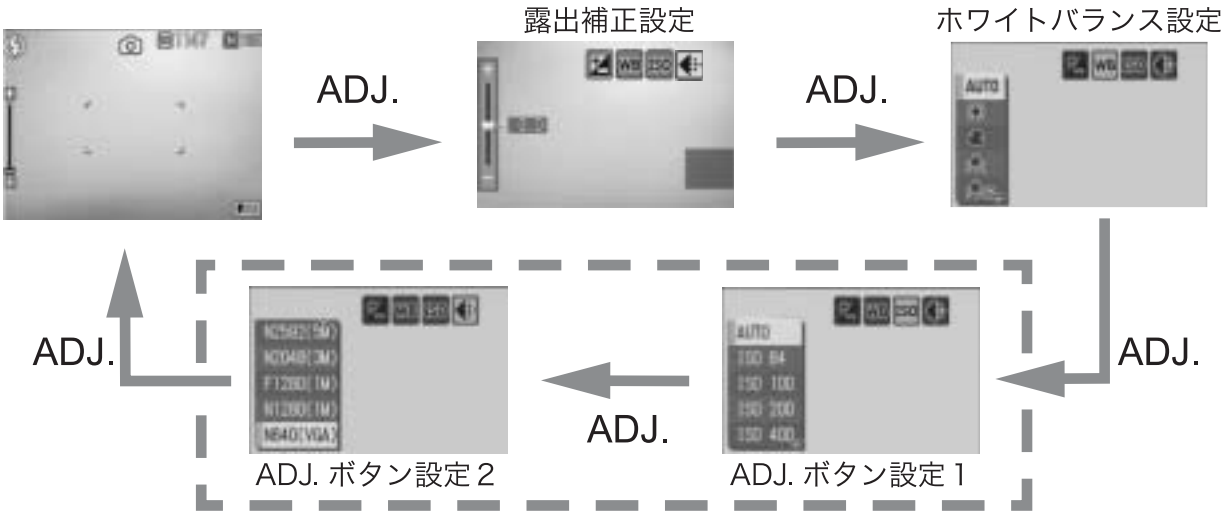
応用編

目的に応じて必要なときにお読みください

1　いろいろな撮影……56
2　動画を撮影・再生する……87
3　音声を記録・再生する……90
4　いろいろな再生……92
5　ダイレクトプリントで印刷する……104
6　カメラの設定を変える……112
7　画像をパソコンに取り込む……135
8　付録……160

ADJ.ボタンの機能

ADJ.ボタンを使うと、少ないボタン操作で、露出補正、ホワイトバランスなどの設定ができます。また、ADJ.ボタンには、露出補正、ホワイトバランス以外の機能を2種類登録することができます。使用頻度の高い機能を登録しておくと、少ないボタン操作で設定ができて便利です。



ADJ.ボタン設定1、設定2の機能を登録する操作は、セットアップメニューで行います。(☞P.118)

モード別設定可能な機能について

シーンモード、動画モード時は、ADJ.ボタンで設定できる機能が静止画モード時と異なります。ADJ.ボタンで設定できる項目は、以下のとおりです。

モード	設定できる項目
静止画モード	露出補正、ホワイトバランス、 [ADJ.ボタン設定]で登録した機能
動画モード	ホワイトバランス
シーンモード［文字］	文字濃度
シーンモード［文字］以外	露出補正、ホワイトバランス

ADJ.ボタン設定で登録できる機能

ISO（ISO感度）、画質（画質・サイズ）、フォーカス、シャープネス、測光方式、連写、オートブラケット、ブレ軽減（購入時の[ADJ.ボタン設定1]の設定）

メモ----------

カメラメモを使用しているときは、ADJ.ボタンでP.56の設定はできません。（☞『使用説明書（ソフトウェア編）』）

文字濃度を変える（SCENE）

シーンモードの［文字］で撮影する（☞P.39）場合の、文字の濃淡を変更することができます。
濃淡は［濃い］、［標準］、［淡い］から選択できます。

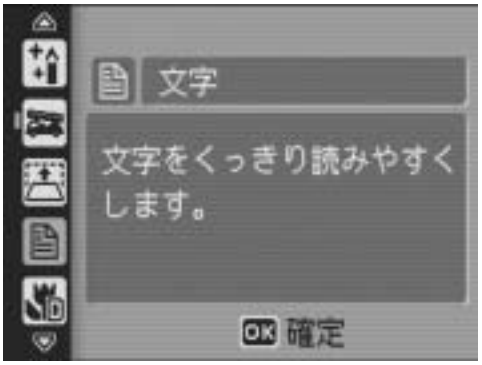
設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.ボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.ボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は、「メニューの操作方法」（☞P.60）、「シーンモードの撮影設定メニュー」（☞P.176）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルを📷に合わせる

2 SCENEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、[文字] を選び、MENU/OK ボタンを押す



4 ADJ.ボタンを押す

- 文字濃度のメニューが表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して、濃度を選ぶ

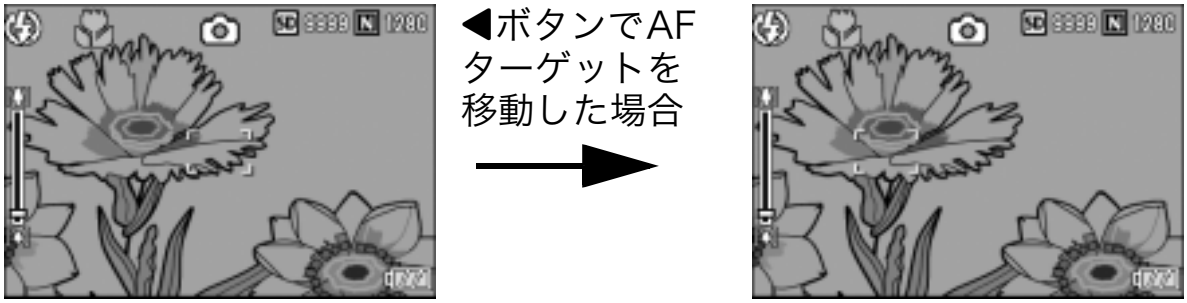
- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

6 MENU/OK ボタンを押す

- 文字濃度の設定値は画面上には表示されません。

AFターゲットを移動する（マクロ）

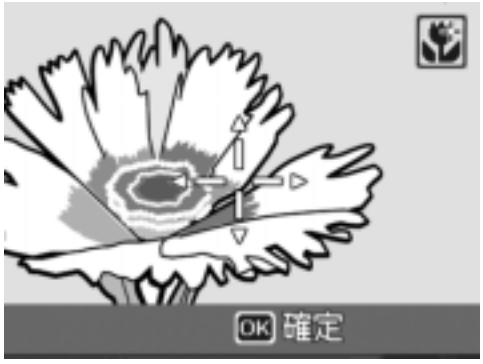
マクロ撮影時にAFターゲット移動機能を使うと、カメラを動かすことなく、カメラの▲▼◀▶ボタンでフォーカスロック（☞P.34）を行い、撮影ができます。三脚を使用していて、フォーカスロックでマクロ撮影する場合に便利です。
液晶モニター中央部に表示される十字を、▲▼◀▶ボタンでピントを合わせたい被写体に移動して撮影します。



1 撮影できる状態で、（マクロ）ボタンを押す
- 画面にマクロモードのマークが表示されます。

2 ADJ.ボタンを押す

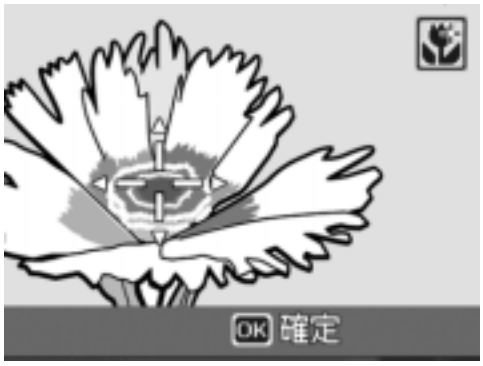
3 AF ターゲット移動画面（画面中央の十字）が表示されるまで、◀▶ボタンを押す



4 ▲▼◀▶ ボタンでピントを合わせたい被写体に十字を移動する

5 MENU/OK ボタンを押す

6 シャッターボタンを半押しする
- 十字の位置にピント合わせが行われます。



7 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる
- 以降、マクロモードを解除するまで、AF ターゲット移動機能で設定した位置にピント合わせが行われます。

撮影設定メニューについて

撮影モードでMENU/OKボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。撮影設定メニューでは、次の項目を設定して撮影することができます。

モードダイヤルが📷/CALSのとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
画質・サイズ	F3264(8M)、N3264(8M)、N2592(5M)、N2048(3M)、F1280(1M)、［N1280(1M)］、N640(VGA)	P.61
ブレ軽減	[OFF]、ON	P.63
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.64
測光方式	[マルチ]、中央、スポット	P.67
シャープネス	シャープ、[標準]、ソフト	P.68
連写	[OFF]、連写、S連写、M連写	P.69
色の濃さ	[普通]、濃い、薄い、白黒	P.73
オートブラケット	[OFF]、ON、WB-BKT	P.74
長時間露光	[OFF]、1秒、2秒、4秒、8秒	P.77
インターバル撮影	[0秒]、30秒～3時間	P.78
音声付き撮影	[OFF]、ON	P.80
日付入れ撮影	[OFF]、日付、日時	P.81
露出補正	-2.0～+2.0	P.82
ホワイトバランス	[AUTO]、(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(白熱灯2)、(蛍光灯)、[M](手動設定)	P.83
ISO感度	[AUTO]、ISO64、ISO100、ISO200、ISO400、ISO800、ISO1600	P.85
撮影設定初期化	――――――	P.86

- シーンモード時は、選択できる項目が限られます。(☞P.176)

モードダイヤルが🎥のとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
動画サイズ	[320]、160	P.61
フレームレート	[30コマ／秒]、15コマ／秒	P.88
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.64
ホワイトバランス	[AUTO]、(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(白熱灯2)、(蛍光灯)、[M](手動設定)	P.83

メモ----------

撮影設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。(☞P.112)

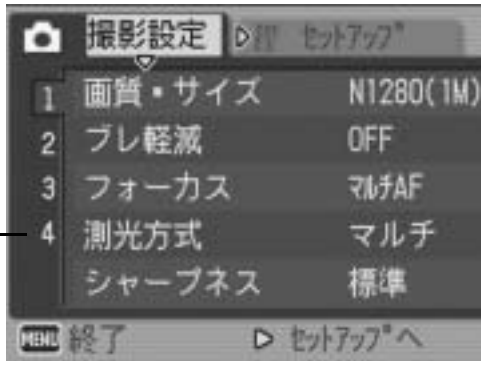
メニューの操作方法

各設定項目の設定方法について説明します。
▲▼▶ボタンとMENU/OKボタンを押して選択、設定します。

1 撮影モードで MENU/OK ボタンを押す

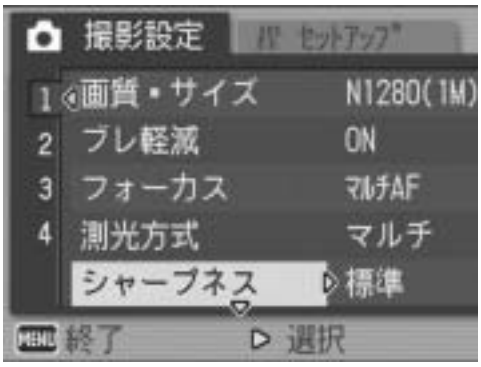
- 撮影設定メニューが表示されます。

設定画面が4画面あることを示しています。



2 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

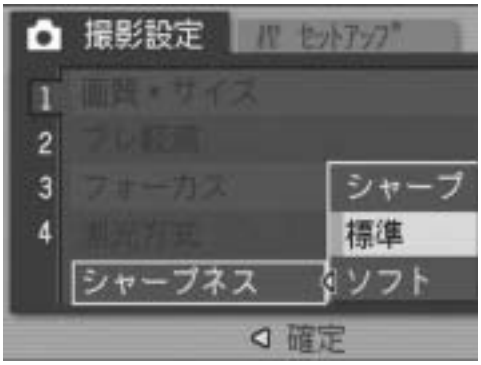


3 ▶ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ▲▼ボタンを押して、選択肢を選ぶ

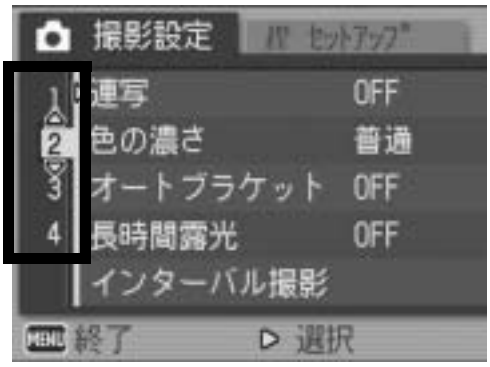
5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



- 設定が確定します。
- 撮影設定メニューが消え、撮影できる状態になります。

画面の切り替え

- 画面番号で画面を切り替えることができます。
  1 ◀ボタンを押すと、画面左にある画面番号が選択できる状態になります。
  2 ▲▼ ボタンを押して画面を切り替えます。
  3 ▶ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。



画質モード／画像サイズを選ぶ（画質・サイズ）

撮影した静止画のファイルの大きさは、画質モードと画像サイズの組み合わせによって決まります。動画の場合は動画サイズを選択します。太枠内は画面に表示されるときの名称です。

静止画の場合

画像サイズ	画質モード	画質・サイズ	用途
3264×2448	F(Fine) N(Normal)	F3264(8M) N3264(8M)	• パソコンに取り込んで画像を補正する • 大きくプリントする
2592×1944	N(Normal)	N2592(5M)	
2048×1536	N(Normal)	N2048(3M)	• 大きくプリントする
1280×960	F(Fine) N(Normal)	F1280(1M) N1280(1M)	• 工事写真提出用に使用する
640×480	N(Normal)	N640(VGA)	• 枚数を多く撮る • メールに添付 • ホームページ用の画像として使用

- CALSモード時は、1280×960に固定されます。
- シーンモードの［斜め補正］の場合は、1280 × 960、640 × 480から選択できます。
- シーンモードの [文字] の場合は、3264×2448、2048×1536から選択できます。

動画の場合

画像サイズ	動画サイズ
320×240	320
160×120	160

- 動画の場合、さらにフレーム数を選択することができます。（☞P.88）

メモ----------

- 画質モードは圧縮率によりNormalモード（N）とFineモード（F）があります。
  Normalモード：画像の圧縮率は高くファイルサイズは小さくなります。通常はこのモードで撮影します。
  Fineモード：画像の圧縮率は低くファイルサイズは大きくなります。Normalモードより高画質です。
- 内蔵メモリー／SDメモリーカードに記録できる枚数は、[画質・サイズ]によって異なります。（☞P.171）

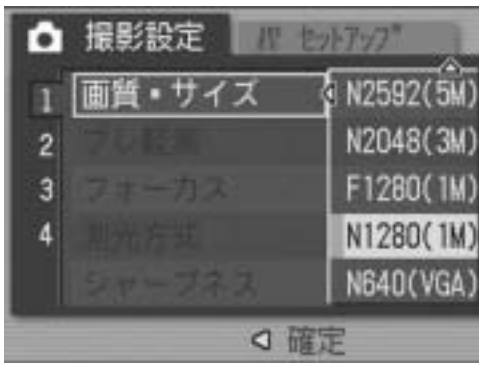
1 モードダイヤルを📷/🎥に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

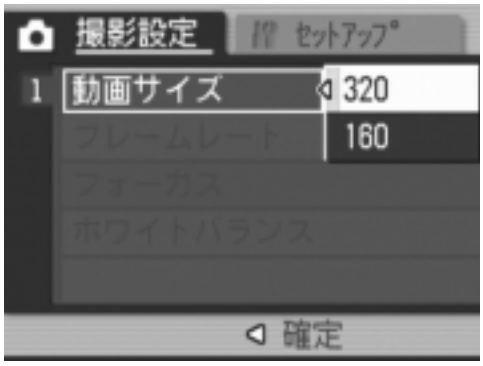
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して[画質・サイズ]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



静止画の場合



動画の場合

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

ブレ軽減機能で撮影する（ブレ軽減）

撮影時の手ブレと被写体ブレを軽減させることができます。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［ブレ軽減］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[ON]を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にブレ軽減マークが表示されます。

注意----------

- ISO感度が［AUTO］以外、または長時間露光が［OFF］以外に設定されていると、ブレ軽減機能は動作しません。ISO感度は［AUTO］に（☞P.85）、長時間露光は[OFF]に設定してください（☞P.77）。
- 暗い場所や被写体が大きく揺れているときは、ブレを軽減できないことがあります。

メモ----------

手ブレがしやすい状態だと📷マークが表示されます。（☞P.32）

ピント合わせの方式を変える（フォーカス）

ピント合わせの方式を初期設定のまま撮影すると、オートフォーカス（AF）でピント合わせが行われます。
ピント合わせ（フォーカス）の方式には、次の5種類があります。

選択できるピント合わせの方式

マーク	方式	内容
なし	マルチAF	17箇所のAFエリアから自動的に最大5箇所を測距し、最も近い位置にピントを合わせます。中抜けを防止し、ピンボケの少ない撮影ができます。
なし	スポットAF	このAFエリアを液晶モニター中央の1箇所に固定し、ピントを合わせます。
MF	MF（マニュアルフォーカス）	手動でピントを合わせるときに使います。
S	スナップ	近距離（約2.5m）にピントを固定します。
∞	∞（無限遠）	無限遠にピントを固定します。 無限遠は、遠くの風景などを撮影するときに使います。

1 モードダイヤルを📷/CALS/🎥に合わせる

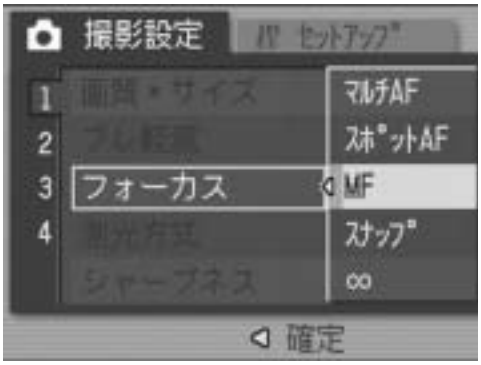
2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［フォーカス］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



手動でピントを合わせて撮影する（MF）

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせることができます（MF：マニュアルフォーカス）。
マニュアルフォーカスでは、撮影距離を固定して撮影することができます。

メモ----------

- シーンモードでは、[ズームマクロ] と [斜め補正] のときのみマニュアルフォーカスが使用できます。
- マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせることができます。

1 モードダイヤルを📷/CALS/🎥に合わせる

2 MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［フォーカス］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[MF] を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す

- 画面に［MF］と表示されます。

6 必要に応じて、▼ボタンを押す

- ▼ボタンを押すと拡大表示になり、ピントが合わせやすくなります。

7 ◀ボタンを押して、フォーカスバー／ズームバー表示をフォーカスバー表示にする

- ◀ボタンを押すたびに、フォーカスバー表示とズームバー表示が切り替わります。

8 [▲]（望遠）ボタンや[▲]（広角）ボタンを押してピントを合わせる

- [▲]（望遠）ボタンを押すと遠距離方向に移動します。
  [▲]（広角）ボタンを押すと近距離方向に移動します。

9 シャッターボタンを押して撮影する

メモ----------

ズームバー表示のときには、[▲]（望遠）ボタンや[▲]（広角）ボタンでズームバーを操作することができます。

測光方式を変える（測光方式）

露出値を決めるときの測光方式（どの範囲で測光するか）を変更することができます。
測光方式には、次の3種類があります。

選択できるモードの種類

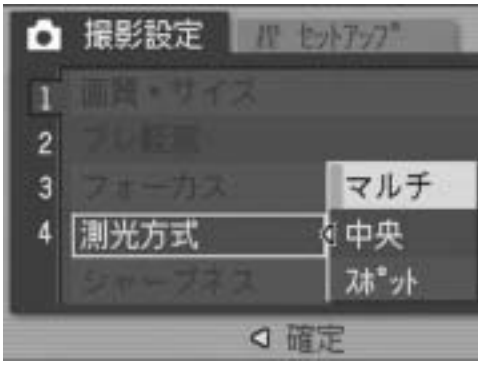
マーク	モード	内容
（マーク表示なし）	マルチ	撮影範囲全体を256に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
	中央	中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。 中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
	スポット	中央部分のみで測光して判断します。 中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［測光方式］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す
- 画面にマークが表示されます。

静止画の質感を変える（シャープネス）

静止画の質感をシャープにしたりソフトにしたりすることができます。

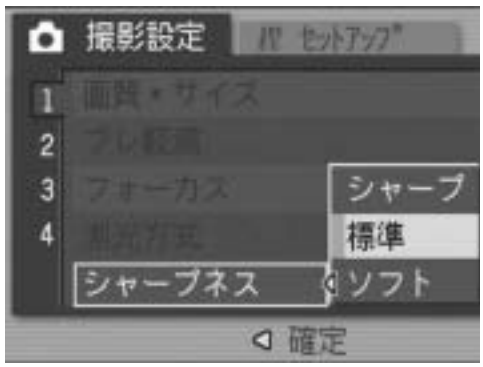
1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して[シャープネス]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

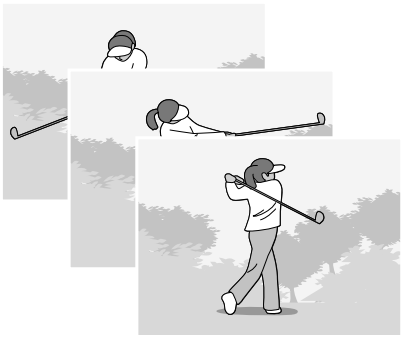
- 画面にマークが表示されます。

連写で撮る（連写／S連写／M連写）

連写に設定すると、連続撮影ができます。
連写には次の3種類があります。

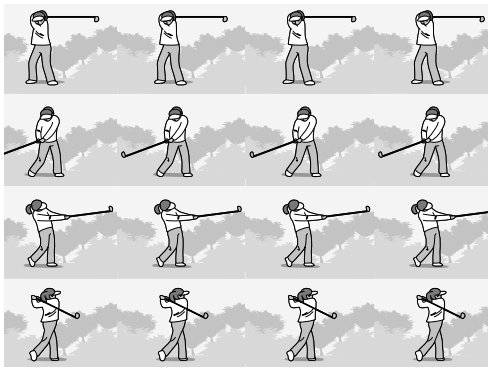
連写

シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。
静止画は通常の撮影時と同じように、1枚ずつ記録します。



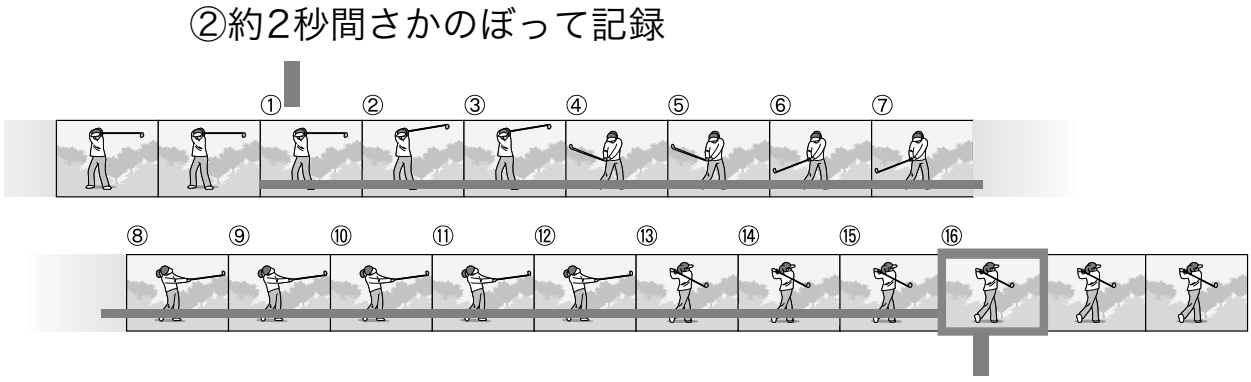
S（ストリーム）連写

シャッターボタンを押し切った瞬間から撮影間隔1/7.5秒で16枚（約2秒間）連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル（3264 × 2448ピクセル）として記録します。



M（メモリー逆戻り）連写

シャッターボタンを離した瞬間からさかのぼった約2秒を連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル（3264 × 2448ピクセル）として記録します。



メモ----------

- S連写／M連写のときは、ISO感度を［ISO 64］、［ISO 100］に設定しても［AUTO］になります。
- 連写を使って撮影するときの連続撮影可能枚数は、画像サイズにより異なります。
- 内蔵メモリーを使用した場合の連続撮影可能枚数は、下記の表のとおりです。

	F3264	N3264	N2592	N2048	F1280	N1280	N640
デジタルズームなし	4枚	4枚	4枚	4枚	13枚	13枚	13枚
デジタルズームあり	4枚	4枚	4枚	4枚	13枚	13枚	13枚

- SDメモリーカードを使用した場合は、メモリー容量いっぱいまで連写できます。ただし、連続撮影枚数が上記の表を超えると記録スピードが遅くなります。（画像サイズにより異なります）

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［連写］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［連写］、［S連写］、［M連写］のいずれかを選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

7 シャッターボタンを離して連写を終了する

- 連写で撮影した静止画を再生するには、再生モードにして（☞P.46）、◀▶ボタンで再生したい静止画を選択します。

S連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押す

- 自動的に16枚連続して撮影されます。

M連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- カメラが被写体を記憶（メモリー）します。

7 シャッターボタンを離す

- 連写が終了し、直前の約2秒間（16枚）を1枚の静止画として記録します。

メモ----------

- 通常の1枚ごとの撮影に戻したいときには、上記の手順1～3を行い、手順4で［OFF］を選択してMENU/OKボタンを押します。
- M連写では、シャッターボタンを押しはじめてから、2秒以内にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでが撮影記録され、連続撮影枚数は16枚より少なくなります。
- フラッシュは、発光禁止になります。
- 連写中は、液晶モニターはオフになります。

S連写／M連写した静止画を拡大して見る

S連写、M連写で撮影した静止画（16枚1組になった画像ファイル）を表示している際、16枚の中の1枚（コマ）を拡大表示することができます。拡大表示後は、1コマずつコマ送りすることもできます。

S連写、M連写で撮影した1コマを拡大表示して見るには、次のように操作します。

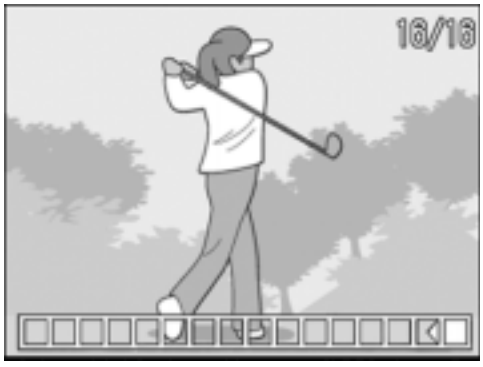
1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ◀▶ボタンを使ってS連写またはM連写で撮影した静止画を表示する

3 🔍（拡大表示）ボタンを押す

- 連写した先頭の1コマが拡大表示されます。液晶モニターの下部にはコマ位置を示すバーが表示されます。
- ◀▶ ボタンを押すと、コマを移動することができます。16枚の表示に戻すには、MENU/OKボタンを押します。



メモ----------

DISP.ボタンを押すたびに、液晶モニター下部のバーの表示、グリッドガイド表示、表示なしを切り替えることができます。（☞P.53）

色の濃さを設定する（色の濃さ）

撮影する静止画の色の濃さを［普通］、［濃い］、［薄い］、［白黒］の4種類から選択できます。

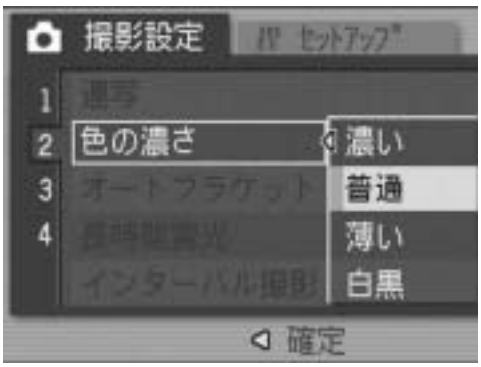
1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［色の濃さ］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- ［普通］以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

露出を変化させて連続撮影する（オートブラケット）

オートブラケットは、設定されている露出を基準に-0.5EV、±0、+0.5EVと3段階の露出で、自動的に3枚連続して撮影する機能です。

メモ

音声付き撮影時は、使用できません。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［オートブラケット］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[ON]を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に［AB］が表示されます。

6 シャッターボタンを押す

- 設定されている露出補正値を基準に、-0.5EV、±0、+0.5EVで3枚連続撮影されます。
  撮影直後に液晶モニターに表示される3枚の静止画は、左から-0.5EV（暗い）、基準の補正値、+0.5EV（明るい）です。

メモ

露出補正値は、ADJ.ボタンまたは撮影設定メニューで変更できます。（☞P.82）

ホワイトバランスを変化させて連続撮影する（WB-BKT：ホワイトバランスブラケット）

設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の3枚が自動的に記録されます。
適切なホワイトバランスが判断できない場合に使用すると便利です。

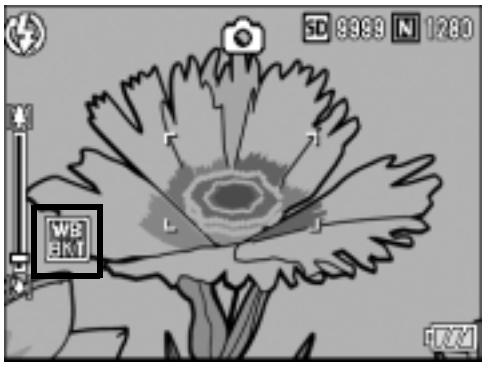
1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す
- 撮影設定メニューが表示されます。

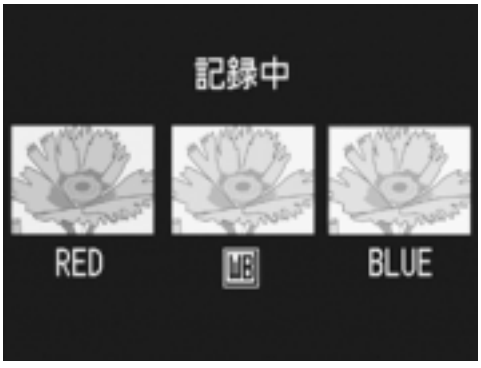
3 ▼ボタンを押して［オートブラケット］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[WB-BKT]を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す
- 画面にマークが表示されます。



6 シャッターボタンを押す
- 設定されているホワイトバランス値を基準に、赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像で3枚記録されます。



メモ

- 連写撮影時（☞P.69）、オートブラケット撮影時（☞P.74）には使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- ［長時間露光］（☞P.77）の設定は［OFF］になります。
- ［色の濃さ］を［白黒］に設定している場合、ホワイトバランスブラケットは、設定することはできますが、動作しません。
- ホワイトバランスは、ADJ. ボタンまたは撮影設定メニューで変更できます。（☞P.83）

長時間露光を設定する（長時間露光）

長時間露光は［1秒］、［2秒］、［4秒］、［8秒］から選択できます。長時間露光を設定すると、夜景を写したときに、花火や車などの被写体の軌跡を撮影することができます。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［長時間露光］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

メモ----------

- 長時間露光を設定したときには、シャッタースピードが遅くなり、手ブレを起こすことがあります。三脚等を使用して撮影してください。
- 長時間露光が［OFF］以外に設定されていると、ブレ軽減機能は動作しません。
- 長時間露光を設定して撮影した場合、撮影中は液晶モニターの表示が消えます。

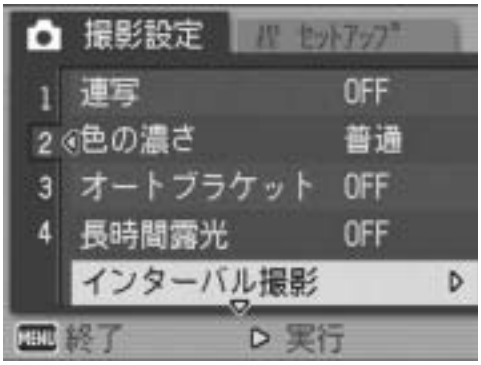
一定間隔で自動撮影する（インターバル撮影）

設定した時間間隔で、自動的に撮影することができます。
撮影間隔は、30秒～3時間の間で30秒単位で設定できます。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

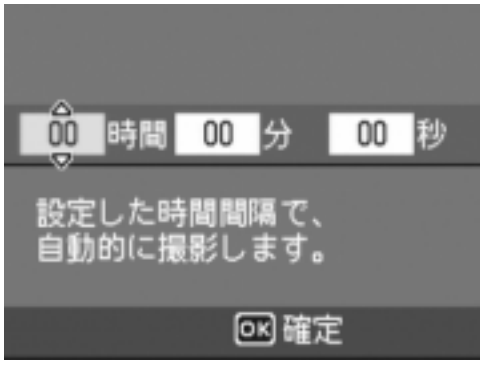
2 MENU/OKボタンを押す
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［インターバル撮影］を選び、▶ボタンを押す



4 ▲▼ ボタンを押して時間を設定する

5 ▶ボタンを押して分の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、分を設定する
- ▲▼ボタンを押し続けると、高速で分の数値を増減させることができます。



6 ▶ボタンを押して秒の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、秒を設定する

7 MENU/OKボタンを押す
- 画面に［インターバル］と表示されます。

8 シャッターボタンを押す
- 設定した間隔で、次々に撮影されます。

9 撮影を中止するときには、MENU/OKボタンを押す

注意----------

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなることがあります。その場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。

メモ----------

- 電池残量によっては、途中でバッテリー切れになることがあります。ACアダプター（別売り）の使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。ただし、インターバル撮影モードはそのまま保持されます。最後の撮影の後、インターバル撮影で設定した時間が経過すると次の撮影が行われます。
- インターバル撮影を設定すると、連写が［連写］または［M連写］に設定されていても、自動的に［OFF］に切り替わります。

音声付き撮影をするには（音声付き撮影）

静止画に音声を付けて撮影することができます。最大8秒まで記録できます。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して[音声付き撮影]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[ON]を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

6 シャッターボタンを押して撮影する

- もう一度シャッターボタンを押すか8秒経過すると、録音が終了します。

メモ----------

- 音声付きの静止画を再生する場合は、通常の音声なしの静止画と同じ操作で静止画を表示して（☞P.46）、ADJ.ボタンを押すと音声が再生されます。
- ▲▼ボタンを押すと、音量調整バーが表示され、▲▼ボタンの操作で音量調整ができます。

静止画に日付を入れるには（日付入れ撮影）

静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日時：分）を入れることができます。

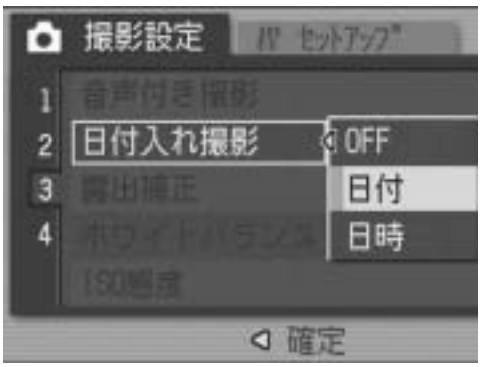
1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[日付入れ撮影]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

メモ----------

- 日付・時刻が設定されていないと［日付入れ撮影］はできません。まず、日付・時刻を設定してください。（☞P.125）
- 動画に日付を入れることはできません。
- サムネイル画像には、日付は表示されません。

露出を変える（露出補正）

静止画の写りを全体的に明るくしたり、暗くしたりするのが露出の設定です。通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動的に逆光補正を行い、適切な露出で撮影できます。
次のような場合や、意図的に露出を変えて撮影をしたいときは、露出を変更して撮影することができます。露出は、-2.0～+2.0の間で設定できます。露出は、+になるほど明るくなり、-になるほど暗くなります。

逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）なってしまうことがありますので、＋側に調整します。

白っぽい被写体を写す場合

全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、＋側に調整します。

黒っぽい被写体を写す場合

全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、－側に調整します。
スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.ボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.ボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は、「メニューの操作方法」（☞P.60）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 ADJ.ボタンを押す

3 露出補正バーが表示されるまで、◀▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

5 MENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

メモ----------

明るすぎる環境での撮影時などでは、露出オーバーとなり露出補正もできないことがあります。その場合は、[!AE] のマークが表示されます。

自然光や照明光を使う（ホワイトバランス）

白い被写体が白く写るように調整を行います。
購入時、ホワイトバランスは［オート］（自動）に設定されています。通常は変更の必要はありませんが、単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
AUTO	オート	自動的に調整します。
	屋外	屋外（晴天）での撮影時
	曇天	曇天や日影等での撮影時
	白熱灯	白熱灯の下での撮影時
	白熱灯2	白熱灯の下での撮影時（[白熱灯］に比べて赤みを残して撮影します）
	蛍光灯	蛍光灯の下での撮影時
	手動設定	手動設定を行います。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.ボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.ボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は、「メニューの操作方法」（☞P.60）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルを📷/CALS/🏔に合わせる

2 ADJ.ボタンを押す

3 ホワイトバランスのメニューが表示されるまで、◀▶ ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［M］以外の設定を選ぶ

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

5 MENU/OK ボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

ホワイトバランスを手動設定する（手動設定）

1 モードダイヤルを📷/CALS/🎨に合わせる

2 ADJ.ボタンを押す

3 ホワイトバランスのメニューが表示されるまで、◀▶ ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[M] を選ぶ

5 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける

6 DISP.ボタンを押す

- ホワイトバランスが設定されます。

7 MENU/OK ボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。
- 手順６で設定したホワイトバランスで画面が再表示されます。思いどおりにならなかった場合は、手順５と６を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。

メモ----------

- [AUTO] を選択している場合、被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、[AUTO] 以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。この場合は、[AUTO] を選択してフラッシュ撮影をしてください。

撮影感度を設定する（ISO感度）

ISO感度は、フィルムの光に対する敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。ただし、画像が荒くなりザラついた感じになります。

ISO感度は、次の設定から選択できます。

AUTO、ISO 64、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600

ISO感度が［AUTO］の場合には、距離／明るさ／ズーム／マクロによってカメラが自動的に感度を変化させます。通常は、［AUTO］のままで撮影します。

ISO感度の値を変化させたくない場合は、［AUTO］以外を選択します。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［ISO感度］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

メモ

- 広角ズームで ISO 感度に［AUTO］を選択している場合は、フラッシュを使用するとISO 125相当、フラッシュを使用しないとISO 64相当の感度になります。
- ISO感度が［AUTO］以外に設定されていると、ブレ軽減機能は動作しません。

撮影設定メニューの設定を元に戻す（撮影設定初期化）

撮影設定メニューの設定を初期値に戻すには、次のように操作します。

1 モードダイヤルを📷/CALSに合わせる

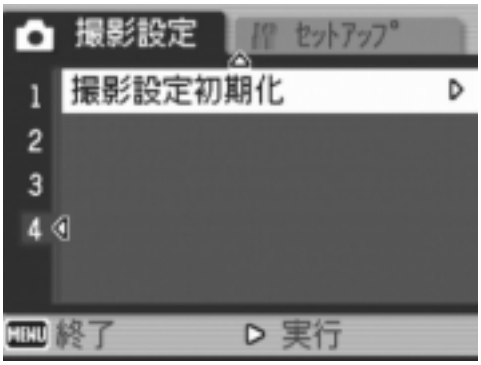
2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して［撮影設定初期化］を選び、▶ボタンを押す

4 ［はい］が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- 初期化中のメッセージが表示され、完了すると撮影モードの画面に戻ります。



メモ----------

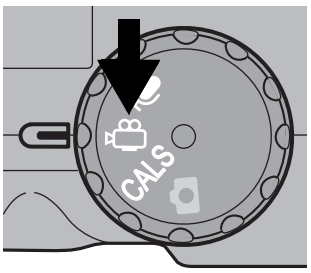
- 電源をオフにしても設定値が保持される機能については、付録を参照してください。（☞P.174）

2　動画を撮影・再生する

動画を撮影する

音声付き動画を撮影できます。
画像サイズは、320×240、160×120のいずれかが選択できます。
また、1秒間に撮影するフレーム数（フレームレート）は、30フレーム、15フレームのいずれかが選択できます。
撮影した動画は、1つのAVIファイルとして記録されます。

1　モードダイヤルを（動画モード）に合わせる



2　シャッターボタンを押す

- 動画の撮影が開始されます。
  次にシャッターボタンを押すまで撮影されます。

3　シャッターボタンを押して動画撮影を終了する

注意----------

- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 1回あたりの撮影可能時間は、お使いのカードにより異なります。(☞P.89)
  また撮影可能時間内でも、お使いのカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- 動画モード時は、ブレ軽減機能は使えません。

メモ----------

- フラッシュは発光禁止になります。
- 動画撮影中、ズーム機能は、デジタルズームのみ使用できます。（☞P.36）
- 手順2でシャッターボタンを押した時点で、ピント合わせが行われます。
- 残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、一様に変化しないことがあります。
- 動画の画像サイズ（☞P.61）やフレーム数（☞P.88）は、撮影設定メニューで設定します。
- 動画モード時には、撮影設定メニュー項目が異なります。（☞P.59）

フレーム数を設定する（フレームレート）

動画モードで1秒間に撮影されるフレーム数（フレームレート）を設定します。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

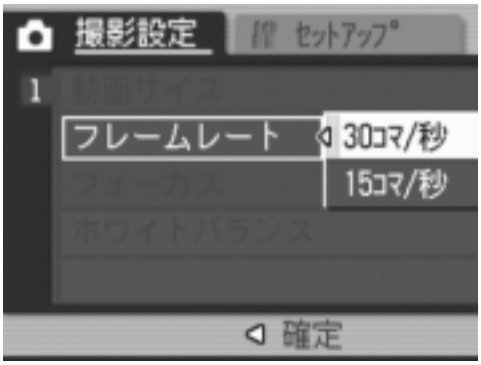
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［フレームレート］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［30コマ／秒］または［15コマ／秒］を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。



動画のフレーム----------

動画のフレームはコマともいいます。動画はたくさんのフレームで構成され、それらが高速で表示されるために動いているように見えます。

メモ

- 動画を記録できる時間は、SDメモリーカードの容量により異なります。
- 記録時間は、下表のようになります。

	内蔵	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB
320×240（15コマ／秒）	1分17秒	1分27秒	2分59秒	6分3秒	12分4秒	24分19秒	46分47秒
320×240（30コマ／秒）	39秒	44秒	1分31秒	3分4秒	6分7秒	12分19秒	23分42秒
160×120（15コマ／秒）	4分38秒	5分16秒	10分47秒	21分49秒	43分29秒	87分37秒	168分30秒
160×120（30コマ／秒）	2分26秒	2分46秒	5分40秒	11分27秒	22分50秒	46分1秒	88分31秒

動画を再生する

動画を再生するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。
- 動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

2 ◀▶ボタンで見たい動画にする

- ▶ボタンを押すと、次のファイルを表示できます。
- ◀ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示できます。

3 ADJ.ボタンを押す

- 再生が始まります。
  液晶モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

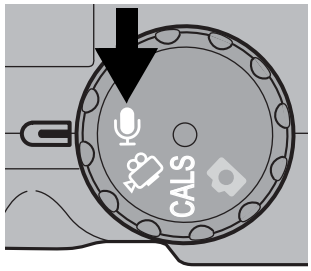
早送り	再生中に[▲]ボタンを押す
巻き戻し	再生中に[▲]ボタンを押す
一時停止／再生	ADJ.ボタンを押す
スロー再生	一時停止中に[▲]ボタンを押し続ける
スロー戻し	一時停止中に[▲]ボタンを押し続ける
次のフレームの表示	一時停止中に[▲]ボタンを押す
前のフレームの表示	一時停止中に[▲]ボタンを押す
音量を調節する	再生中に▲▼ボタンを押す

3　音声を記録・再生する

音声を記録する

音声を記録することができます。
記録した音声は、WAVファイルとして記録されます。

1 モードダイヤルを(音声モード)に合わせる



2 シャッターボタンを押す

- 音声の記録が開始されます。
  次にシャッターボタンを押すまで記録されます。

3 シャッターボタンを押して記録を終了する

メモ----------

- 音声を記録できる時間は、SDメモリーカードの容量により異なります。
- 記録時間は、下表のようになります。

内蔵	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB
56分 45秒	64分 36秒	132分 11秒	267分 15秒	532分 36秒	1073分 00秒	2063分 25秒

注意----------

長時間にわたって記録するときは、ACアダプター（別売り）のご使用をおすすめします。（☞P.27）

音声を再生する

音声を再生するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ◀▶ボタンで再生したい音声ファイル（スピーカーの絵の画面）にする

- ▶ボタンを押すと、次のファイルを表示できます。
- ◀ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示できます。

3 ADJ.ボタンを押す

- 再生が始まります。
  液晶モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

早送り	再生中に[▲]ボタンを押す
巻き戻し	再生中に[▼]ボタンを押す
一時停止／再生	ADJ.ボタンを押す
音量を調節する	再生中に▲▼ボタンを押す

再生設定メニューについて

再生モードでMENU／OKボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。再生設定メニューを使うと、次の項目の機能が設定できます。

設定項目	選択肢	参照先
スライドショー	――――――	P.93
プロテクト	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.94
DPOF	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.97
画像サイズ変更	1280、640	P.100
CARDへコピー	――――――	P.101

メモ----------

再生設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。(☞P.112)

メニューの操作方法

各設定項目の設定方法について説明します。

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする

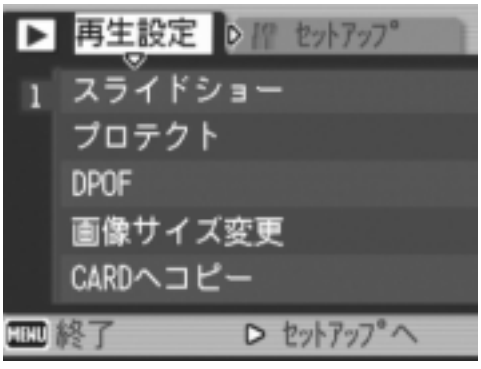
2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

4 ▶ボタンを押す

- 各設定項目の画面が表示されます。



自動的に順に表示する（スライドショー）

撮影した静止画や動画、音声を、順番に液晶モニターに表示することができます。この機能をスライドショーと呼びます。スライドショーで見るには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

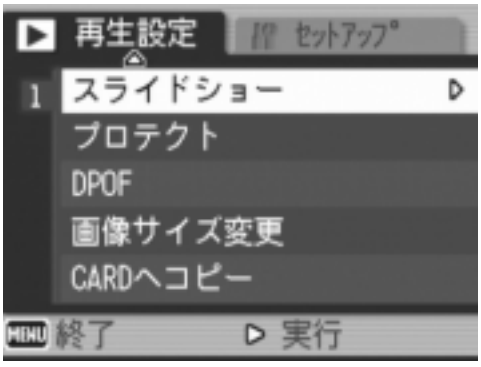
- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 MENU/OK ボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[スライドショー]を選び、▶ボタンを押す

- スライドショーが開始され、ファイルが順に再生されます。
- 途中で中止したいときには、カメラのいずれかのボタンを押します。
  中止するまで、繰り返しスライドショーが続きます。



メモ----------

- 静止画は3秒間表示されます。
- 動画は1フレームだけではなく、撮影した内容がすべて表示されます。
- 音声ファイルも再生されます。

削除できないように設定する（プロテクト）

記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。

注意----------

プロテクトしたファイルは、削除することはできませんが、初期化を行うとプロテクト設定の有無にかかわらず、すべて消去されます。

1ファイルをプロテクトする

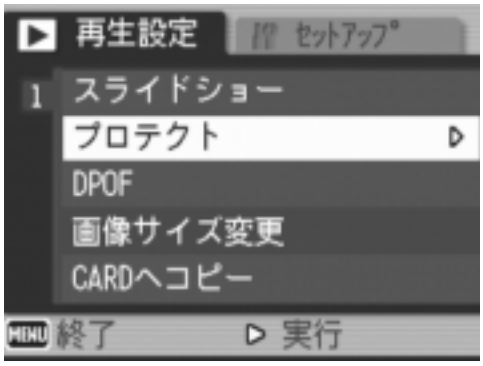
1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ◀▶ボタンを押してプロテクトしたいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。



4 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す

5 [1ファイル]が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。

メモ----------

プロテクトを解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。

すべてのファイルをプロテクトする

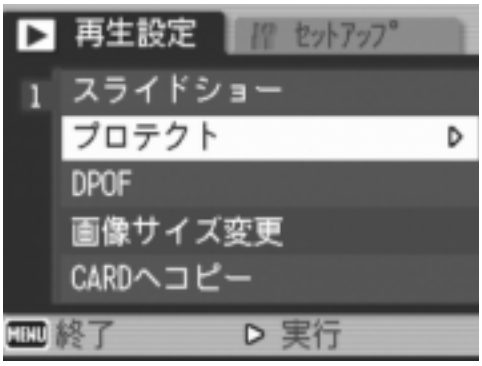
すべてのファイルにプロテクトを設定するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す



4 ▲▼ ボタンを押して、[全ファイル]を選ぶ

5 [選択]が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。

メモ----------

すべてのプロテクトを解除するには、手順5で［解除］を選択します。

複数のファイルを一度にプロテクトする

選択したファイルに対して、一度にプロテクトの設定を行うには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ▪▪（サムネイル表示）ボタンを2回押す

- 画面が12分割されて、ファイルがサムネイル表示されます。

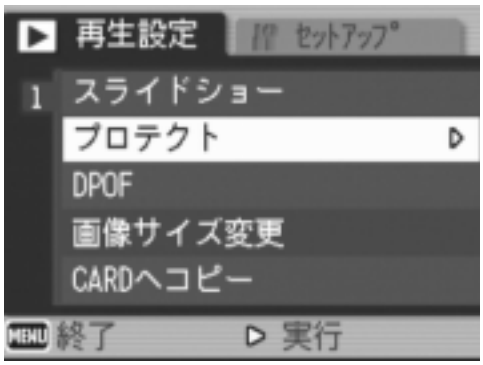
3 ▲▼◀▶ボタンを押して、プロテクトしたい1枚目のファイルを選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す

- ファイルの右上にプロテクト設定のマークが表示されます。



6 ▲▼◀▶ ボタンを押して、次にプロテクトの設定をしたいファイルを選び、MENU/OKボタンを押す

7 手順6を繰り返して、プロテクトの設定をしたいファイルをすべて選択する

- 間違えた場合は、そのファイルを選択した状態でMENU/OKボタンを再度押すとプロテクトを解除できます。

8 DISP.ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ----------

- 複数のファイルのプロテクトを解除するには、上記の手順で、解除したいファイルを選択してDISP.ボタンを押します。
- 一度にすべてのプロテクトを解除することもできます。（☞P.95）
- サムネイル表示の詳細については、P.47をご覧ください。

プリントサービスを利用する（DPOF：ディーポフ）

SDメモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお持ちいただくと、プリントすることができます。プリントサービスを利用するには、プリントに必要な情報を設定する必要があります。その設定をDPOF（ディーポフ）設定と呼びます。
DPOF設定を行うと、1静止画につき1枚印刷するという情報が設定されます。複数の画像にDPOF設定を行って、印刷枚数を指定することもできます。

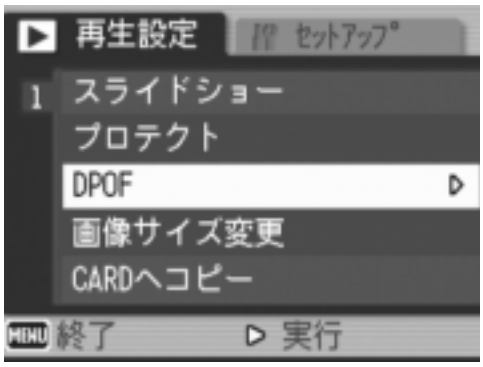
表示している静止画にDPOF設定する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ボタンを押して設定したい静止画を表示する

3 MENU/OKボタンを押す
- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ボタンを押して、[DPOF] を選び、▶ボタンを押す



5 [1ファイル] が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す
- DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。

メモ----------
DPOF設定を解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。

すべての静止画にDPOF設定する

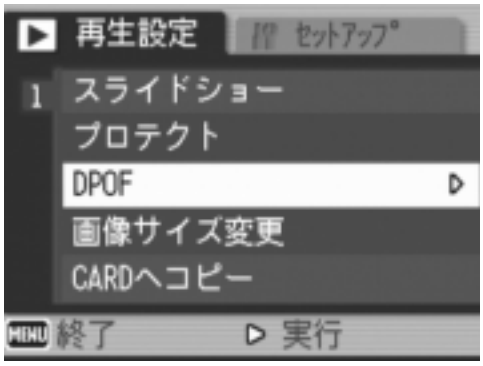
すべての静止画に対してDPOF設定をするには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[DPOF] を選び、▶ボタンを押す



4 ▲▼ ボタンを押して、[全ファイル] を選ぶ

5 [選択] が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。

メモ----------

すべてのDPOF設定を解除するには、手順5で［解除］を選択します。

複数の静止画にDPOF設定する

選択した静止画に対して、DPOF設定を行うには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ▪▪（サムネイル表示）ボタンを2回押す

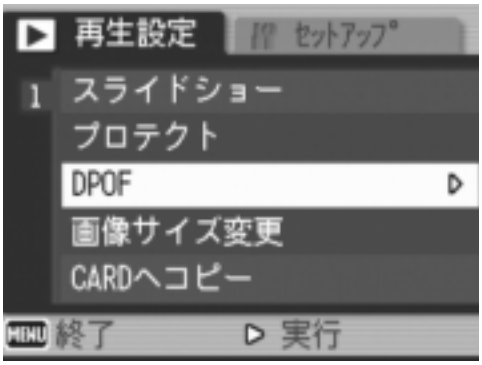
- 画面が12分割されて、ファイルがサムネイル表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、DPOF設定したい1枚目の静止画を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ▼ボタンを押して、[DPOF] を選び、▶ボタンを押す



6 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

7 ◀▶ボタンを押して、次にDPOF設定をしたい静止画を選ぶ

8 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

9 手順7～8を繰り返して、DPOF設定をしたい静止画をすべて選択する

10 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ----------

- 複数のファイルのDPOF設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を［0］に指定してMENU/OKボタンを押します。
- 一度にすべてのDPOF設定を解除することもできます。（☞P.98）

画像サイズを縮小する（画像サイズ変更）

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ	変更可能なサイズ	
F3264／N3264／N2592／N2048	N1280	N640
F1280／N1280	N640	

注意----------

画像サイズ変更ができるのは、静止画および音声付きの静止画です。動画は画像サイズ変更できません。

画像サイズを変更するには、次のように操作します。

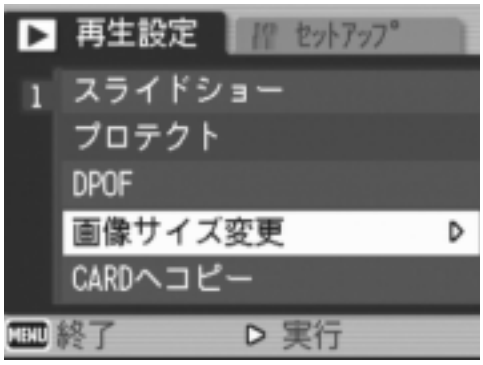
1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ ボタンを押して画像サイズを変更したいファイルを表示する

3 MENU/OK ボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ ボタンを押して、[画像サイズ変更] を選び、▶ボタンを押す



5 ▲▼ボタンを押して、[1280] または [640] を選ぶ

6 MENU/OK ボタンを押す

- 画像サイズ変更が行われ、追加作成された静止画が表示されます。

メモ----------

撮影時に画像サイズを変更することができます。（☞P.61）

内蔵メモリーの内容をカードへコピーする（CARDへコピー）

内蔵メモリーの内容をSDメモリーカードへコピーすることができます。

1 電源をオフにする

2 SDメモリーカードをセットする

3 電源をオンにする

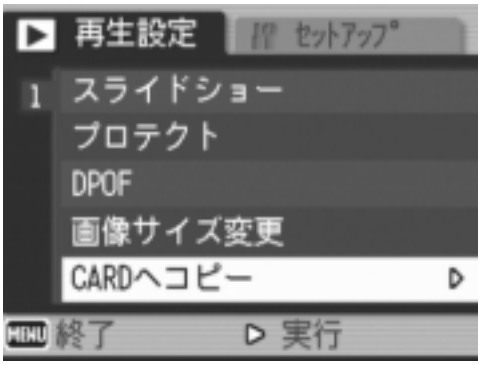
4 ▶（再生）ボタンを押す

5 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

6 ▼ボタンを押して、[CARDへコピー]を選び、▶ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、コピーが完了すると、再生画面に戻ります。



メモ----------

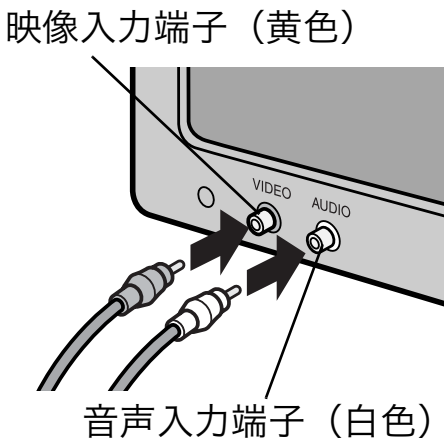
- コピー先のSDメモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。容量に収まる枚数だけコピーする場合は、[はい]を選んでMENU/OKボタンを押してください。コピーを取り消す場合は、[いいえ]を選んでMENU/OKボタンを押してください。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。

テレビの画面で見る

撮影したファイルを、テレビの画面に表示して見ることができます。テレビの画面には液晶モニターと同じ内容が表示されます。テレビの画面に表示するには、カメラに付属しているAVケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。ファイルをテレビで見るには、次のように操作します。

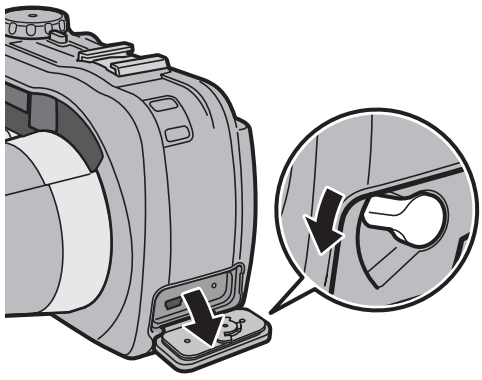
1 テレビのビデオ入力端子にAVケーブルをしっかり接続する

- AVケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

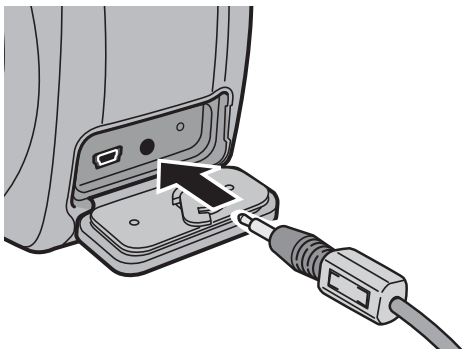


2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

3 カメラの端子カバーのつまみを矢印の方向に回してカバーを開ける



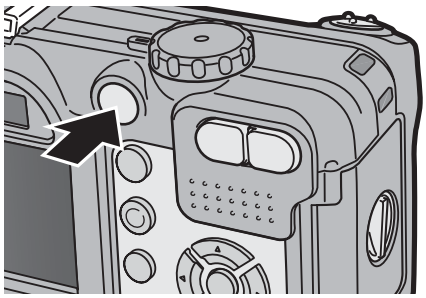
4 AV出力端子にAVケーブルをしっかり接続する



5 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

- 詳しくはテレビの説明書を参照してください。

6 電源ボタンを押す、または▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けて、電源をオンにする



注意----------

- AVケーブルで本機を接続している間は液晶モニターの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。
- バッテリー／カードカバー、端子カバーを開閉する場合、カメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所をさけて開閉してください。

メモ----------

- テレビのビデオ入力端子にAVケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- テレビなどの機器での再生方式はNTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、カメラのセットアップメニューでPAL方式に設定してから接続してください。（☞P.127）

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接USBケーブルで接続して、カメラ内の静止画をプリンターから印刷する機能です。撮影した静止画を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。

注意----------

- 動画（.AVI）は、印刷できません。音声付き静止画（.JPG と .WAV）の場合は、静止画（.JPG）のみ印刷されます。
- 文字モード（☞P.39）で撮影した画像（.TIFF）は、ご使用のプリンターによっては印刷できない場合があります。また、印刷できても印刷内容は保証できません。

メモ----------

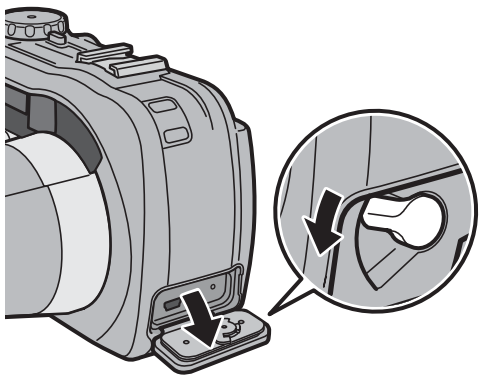
- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格であるPictBridge（ピクトブリッジ）を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターが PictBridge に対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。
- カメラのセットアップメニュー［USB 接続］（☞P.130）が［マスストレージ］に設定されていると、ご使用のプリンターによってはダイレクトプリントできない場合があります。その場合は、［オリジナル］を選択してください。

カメラとプリンターを接続する

カメラとプリンターの接続には、付属のUSBケーブルを使います。

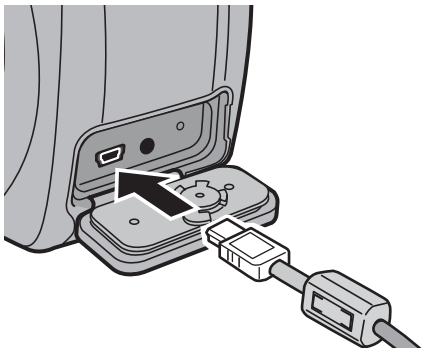
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 カメラの端子カバーのつまみを矢印の方向に回してカバーを開ける



3 付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。



注意----------

バッテリー／カードカバー、端子カバーを開閉する場合、カメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所をさけて開閉してください。

メモ----------

カメラとプリンターの接続を外すときは、カメラの電源がオフになっていることを確認し、USBケーブルをカメラから外してください。

静止画を印刷する

PictBridge対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。
SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリー内の静止画が印刷され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカード内の静止画が印刷されます。

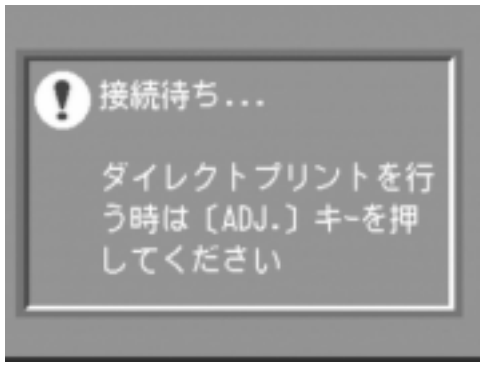
注意----------

印刷が完了するまで、USBケーブルを外さないでください。

メモ----------

送信中に［プリンターエラー］のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。

1枚またはすべての静止画を印刷する



1 **プリンターが印刷できる状態であることを確認する**

- ［接続待ち･･･］画面が表示されます。

2 **ADJ.ボタンを押す**

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 **◀▶ボタンで、印刷したい静止画を表示する**

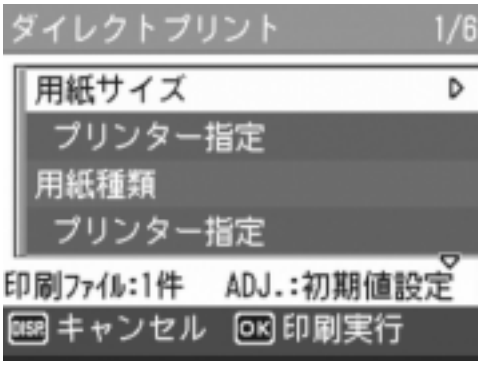
4 **ADJ.ボタンを押す**

5 **▲▼ ボタンを押して、［1ファイル］または［全ファイル］を選ぶ**

6 **MENU/OKボタンを押す**

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

7 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する



- [接続中・・・]と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると[接続中・・・]が消え、[ダイレクトプリント]と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目は次のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ表示されます。
※印の項目は、帳票印刷に対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ表示されます。

項目名	内容
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1枚に何コマ印刷するかを設定します。1枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップモードの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
帳票印刷※	帳票印刷を行います。（☞P.110）
帳票カメラメモ印字※	カメラメモが付いた画像を帳票印刷するときに、カメラメモの内容を帳票に印刷できます。（☞P.111） [帳票印刷]で選択されたレイアウトによっては、カメラメモ印字が欠ける場合があります。その場合は、カメラメモの文字数を減らしてください。

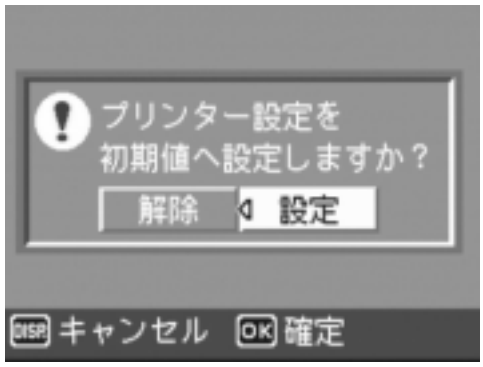
8 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

9 手順7と8を繰り返して、変更したい項目の値を設定する

メモ----------

- 手順7の画面でADJ.ボタンを押すと、設定した項目を次回接続時の初期値に設定することができます。右の画面が出たら、◀▶ボタンを押して［設定］を選び、MENU/OKボタンを押してください。
- ［解除］を選ぶと、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。



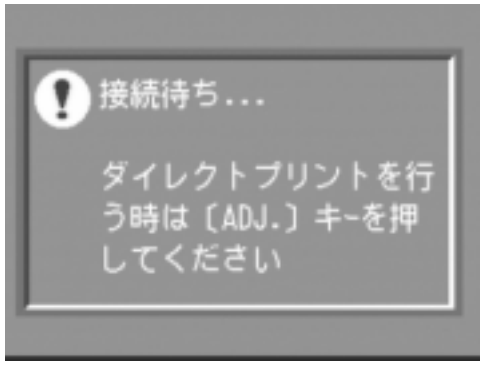
10 MENU/OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、［送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- 送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

複数の静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- ［接続待ち･･･］画面が表示されます。



2 ADJ.ボタンを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 ▪(サムネイル表示)ボタンを押す

- 画面が12分割されて、静止画がサムネイル表示されます。

4 ▲▼◀▶ボタンを押して、印刷したい静止画を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す

6 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

7 ◀▶ボタンを押して次に印刷したい静止画を選ぶ

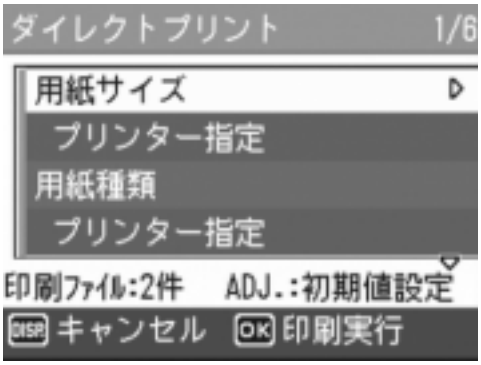
8 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

9 手順7と8を繰り返して、印刷したい静止画をすべて選択して、印刷枚数を指定する

10 MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

11 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する



- [接続中・・・]と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると「接続中・・・」が消え、[ダイレクトプリント]と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目については、P.107をご覧ください。

12 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

13 手順11と12を繰り返して、変更したい項目の値を設定する

14 MENU/OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、[送信中]画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- すべての静止画の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。

メモ----------

- プリンターのマーク（）が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はプリンターのマークの表示を確認してください。
- 1枚の用紙に、同じ静止画を複数枚印刷することもできます。
- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 詳細項目で［プリンター指定］を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

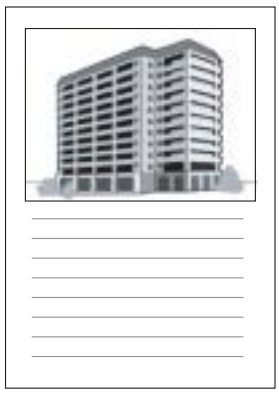
帳票印刷する

ダイレクトプリントのメニューで[帳票印刷]を設定してください。[帳票印刷]は、PictBridgeに対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ、選択することができます。リコーのプリンターについての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/office/）をご覧ください。
選択できるレイアウトは、接続するプリンターによって異なります。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

選択できるレイアウト

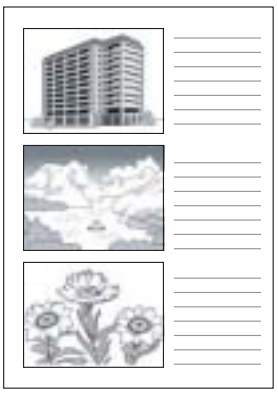
1コマ罫線あり	2コマ罫線あり	3コマ罫線あり	4コマ罫線あり
1コマ罫線なし	2コマ罫線なし	3コマ罫線なし	4コマ罫線なし
工事写真1	記事欄付1		

帳票印刷の例



1コマ罫線あり

2コマ罫線あり

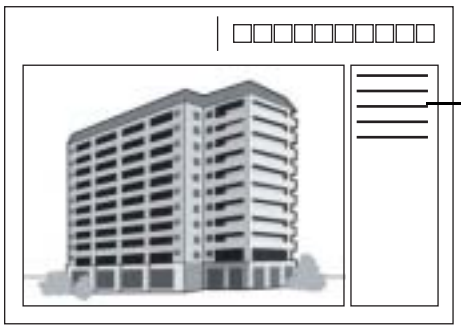


工事写真1

帳票印刷にカメラメモを印字する

ダイレクトプリントのメニューで［帳票印刷］を設定し、［帳票カメラメモ印字］を［ON］にすると、帳票印刷にカメラメモを付けて印刷できます。

帳票カメラメモ印刷の例



記事欄付1

カメラメモの内容が印刷されます。印刷される位置は、［帳票印刷］で設定したレイアウトによって異なります。

メモ----------

カメラメモについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』をご覧ください。

セットアップメニューについて

撮影設定メニュー（☞P.59）や再生設定メニュー（☞P.92）からセットアップメニューを表示して、カメラの設定変更ができます。
セットアップメニューを使うと、次の表にある項目を設定することができます。

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
初期化［カード］	――――――	P.115
初期化［内蔵メモリー］	――――――	P.116
LCD輝度調節	――――――	P.117
ADJ.ボタン設定1[*1] ADJ.ボタン設定2[*2]	[OFF][*2]、ISO、画質、フォーカス、シャープネス、測光方式、連写、オートブラケット、［ブレ軽減］[*1]	P.118
オートパワーオフ	OFF、［1分］、5分、30分	P.119
ブザー音	［すべて］、シャッター音	P.120
操作音音量設定	なし（□□□）、小（■□□）、 中［(■■□)］、大（■■■）	P.121
画像確認時間	OFF、0.5秒、［1秒］、2秒、3秒	P.122
CARD連続NO.	ON、［OFF］	P.123
日時設定	――――――	P.125
LANGUAGE／言語	［日本語］、ENGLISH	P.126
ビデオ方式	［NTSC］、PAL	P.127
ステップズーム	ON、［OFF］	P.128
撮影設定警告	［ON］、OFF	P.129
USB接続	マスストレージ、［オリジナル］	P.130
撮影アイコン拡大	ON、［OFF］	P.132
マイセッティング登録	設定1、設定2	P.133
起動時設定	［OFF］、設定1、設定2	P.134

セットアップメニューの操作方法

各設定項目の設定方法について説明します。
▲▼▶ボタンとMENU/OKボタンを押して選択、設定します。

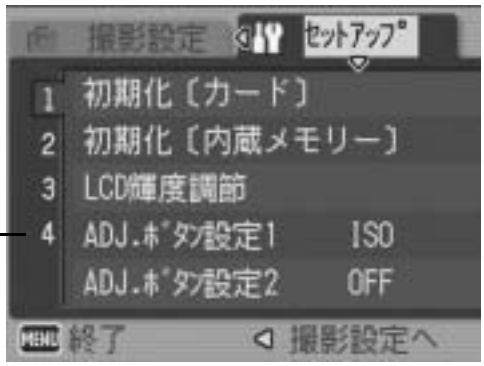
1 MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ▶ボタンを押す

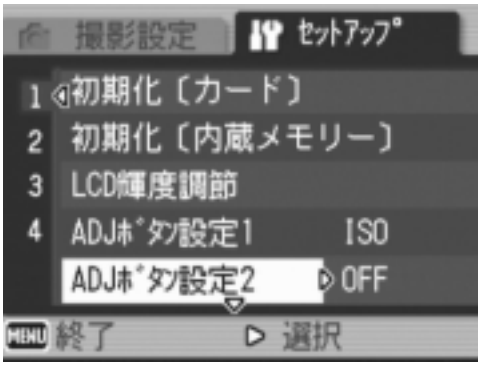
- セットアップメニューが表示されます。

設定画面が4画面あることを示しています。



3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

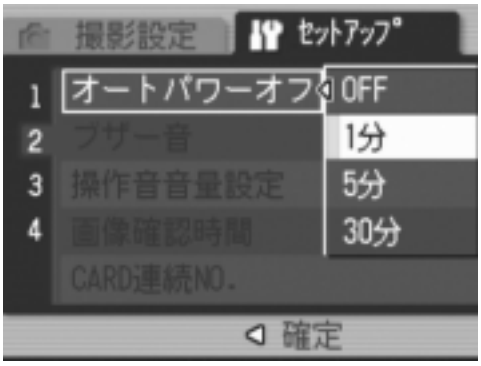


4 ▶ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して、選択肢を選ぶ

6 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す



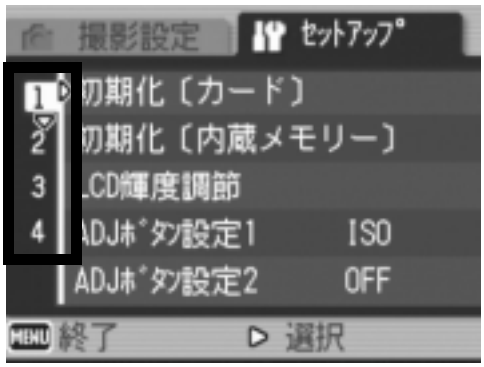
- セットアップメニューが消え、撮影または再生ができます。
- 設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、再度MENU/OKボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。

メモ----------

機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。

画面の切り替え----------

- 画面番号で画面を切り替えることができます。
  1 ◀ボタンを押すと、画面左にある画面番号が選択できる状態になります。
  2 ▲▼ボタンを押して画面を切り替えます。
  3 ▶ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。



SDメモリーカードを使えるようにする（初期化［カード］）

［使用できないCARDです。］等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンなど他の機器で使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。
初期化とは、画像データが書き込める状態にする処理のことです。

注意----------

画像が記録されているカードを初期化すると、内容がすべて消えてしまいます。

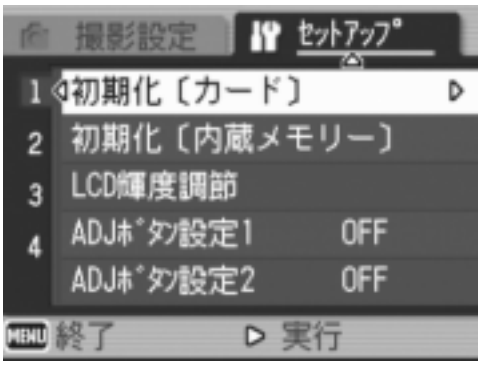
初期化するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［初期化［カード］］を選び、▶ボタンを押す

- 初期化の確認画面が表示されます。



3 ◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。
- SDメモリーカードが入っていない場合は、メッセージが表示されます。いったん電源をオフにしてから、SDメモリーカードをセットして、再度初期化の操作を行ってください。

4 MENU/OKボタンを押す

誤って画像を消さないようにするには----------

- カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、撮影や画像の削除、初期化ができなくなります。（☞P.22）
- 解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除も初期化もできるようになります。

内蔵メモリーを初期化する（初期化［内蔵メモリー］）

［内蔵メモリーを初期化してください。］というエラーメッセージが表示された場合は、内蔵メモリーを初期化する必要があります。

注意----------

内蔵メモリーを初期化すると、内蔵メモリーに記録されている画像はすべて消去されます。消去したくない画像があるときは、SDメモリーカードに画像をコピーしてから初期化を行ってください。（☞P.101）

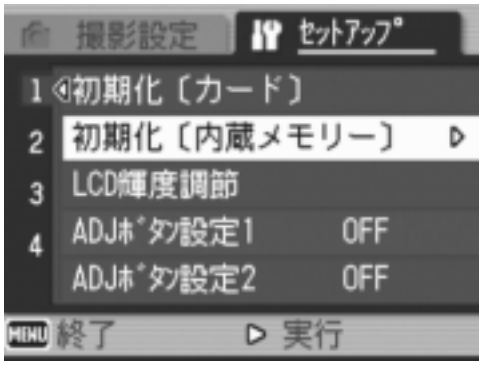
初期化をするには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［初期化［内蔵メモリー］］を選び、▶ボタンを押す

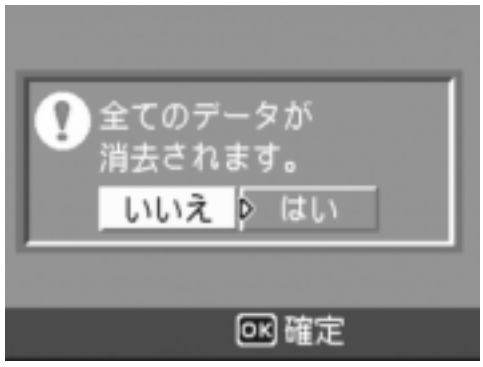
- 初期化の確認画面が表示されます。



3 ◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。

4 MENU/OKボタンを押す



液晶モニターの明るさを調節する（LCD輝度調節）

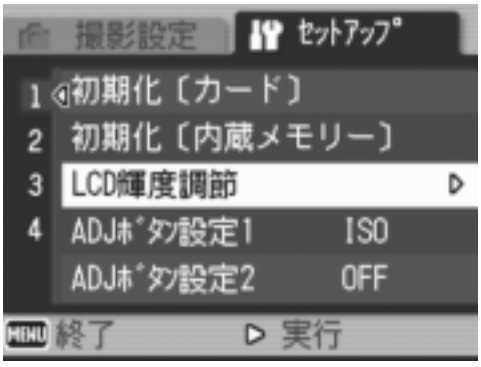
液晶モニターの明るさを調整するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

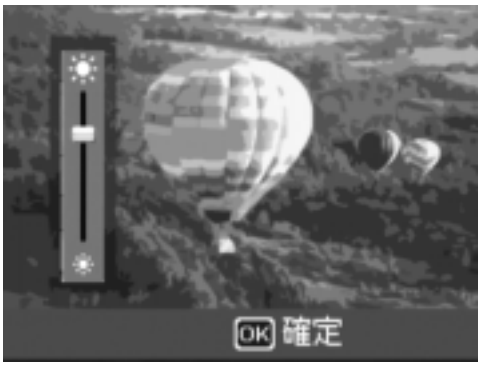
2 ▼ボタンを押して、[LCD輝度調節]を選び、▶ボタンを押す

- 輝度設定用の画面が表示されます。



3 ▲▼ボタンを押して、明るさを調節する

- LCD 輝度調節バーの目盛りを下側に変更すると、暗くなります。上側に変更すると、明るくなります。画面の明るさが、バーの目盛り位置にともなって変化します。



4 設定したい明るさになったら、MENU/OKボタンを押す

- セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す

DISP.ボタンで明るさを調整するには----------

撮影時にDISP.ボタンを押し続けると、画面の輝度が最大になります。輝度が最大のときにDISP.ボタンを押し続けると、[LCD輝度調節]で設定した明るさに戻ります。

ADJ.ボタンに機能を設定する（ADJ.ボタン設定）

ADJ.ボタンを使うと、撮影設定メニューを表示することなく、少ないボタン操作で露出補正やホワイトバランスの設定画面を表示できます。
[ADJ.ボタン設定1]［ADJ.ボタン設定2］では、ADJ.ボタンを押して表示できる機能を追加できます。

設定できる値	参照先
OFF ※購入時の［ADJ.ボタン設定2］の設定	ー
ISO（ISO感度）	P.85
画質（画質・サイズ）	P.61
フォーカス	P.64
シャープネス	P.68
測光方式	P.67
連写	P.69
オートブラケット	P.74
ブレ軽減 ※購入時の［ADJ.ボタン設定1］の設定	P.63

[ADJ.ボタン設定1]、[ADJ.ボタン設定2] に機能を設定するには、次のように操作します。

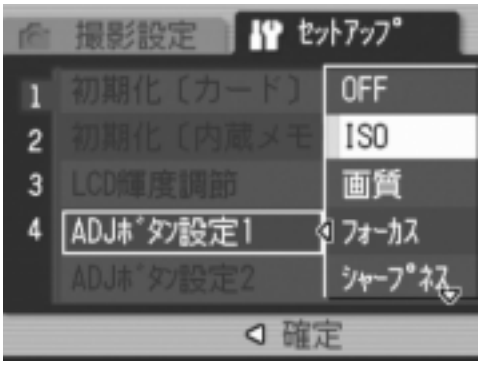
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ADJ.ボタン設定1］または［ADJ.ボタン設定2］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



メモ----------

ADJ.ボタンの操作方法は、P.56を参照してください。

オートパワーオフの設定を変える（オートパワーオフ）

設定した時間内にカメラの操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
購入時のオートパワーオフは1分に設定されていますが、この設定を変更することができます。

設定できる値
OFF（オートパワーオフ機能は働きません）
1分 ※購入時の設定
5分
30分

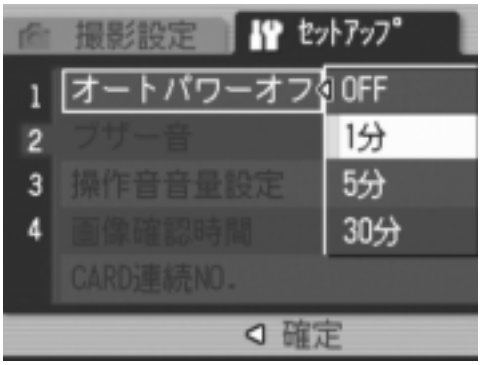
オートパワーオフの設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する
- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[オートパワーオフ] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



メモ----------
- オートパワーオフで電源がオフになったとき、引き続きカメラを使用したい場合は、電源ボタンを押して電源をオンにします。▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けても電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- オートパワーオフは、パソコンまたはプリンターと接続しているときは働きません。
- インターバル撮影をするときは、[オートパワーオフ] の設定は無効になり、オートパワーオフは働きません。

ブザー音の設定を変える（ブザー音）

カメラの操作中は、起動音、シャッター音、フォーカスが合ったときの音、警告音の4種類のブザー音が鳴ります。

起動音	：カメラの電源をオンにしたときに鳴ります。
シャッター音	：シャッターボタンを押したときに鳴ります。
フォーカスが合ったときの音	：シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったときに「ピピッ」という音が鳴ります。
警告音	：実行できない動作を行おうとしたときに「ピピピピピ」という音が鳴ります。

設定できる値
すべて（すべて鳴らす）※購入時の設定
シャッター音（シャッター音、警告音のみ鳴らす）

ブザー音の設定を変更するには、次のように操作します。

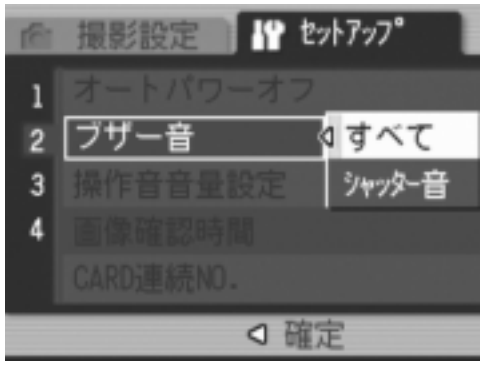
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ブザー音] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



ブザー音の音量を変える（操作音音量設定）

ブザー音の音量を変更できます。

設定できる値
□□□（なし）
■□□（音量小）
■■□（音量中）※購入時の設定
■■■（音量大）

ブザー音の音量を変更するには、次のように操作します。

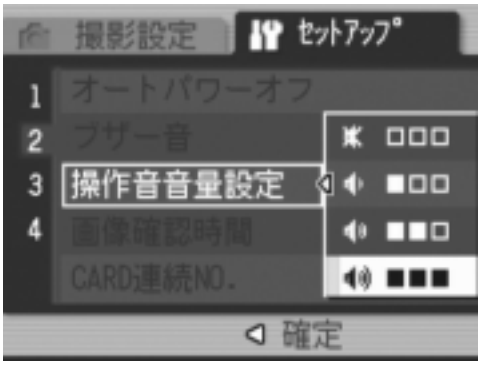
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[操作音音量設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



画像確認時間を変える（画像確認時間）

シャッターボタンを押した直後に、撮影した静止画が確認のために表示されます。確認時間は、購入時には1秒に設定されていますが、設定を変更することができます。

設定できる値
OFF（確認のための表示を行わない）
0.5秒
1秒 ※購入時の設定
2秒
3秒

確認時間を変更するには、次のように操作します。

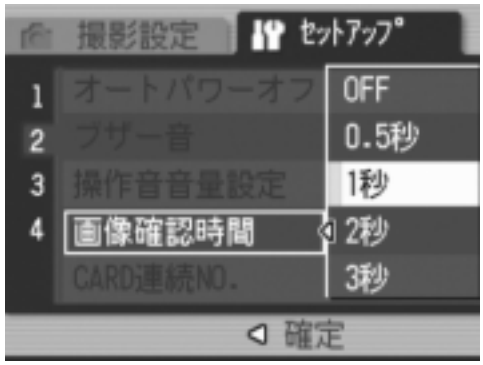
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[画像確認時間]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



注意----------

画像確認時間を0.5秒に設定した場合は、確認のための画像が表示されている間、ズームバー等のマークも表示されたままになります。

ファイル名の設定を変える（CARD連続NO.）

撮影した静止画には、自動的に連番のファイル名が付き、内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録されます。
SDメモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするか、しないかを設定できます。

設定できる値	
ON（連番にする）	撮影した静止画に、R0010001.jpg～R9999999.jpgまでの、「R」の後に7桁の通し番号が付いたファイル名が、自動的に付きます。 SDメモリーカードを別のカードに替えたときにも、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF（連番にしない） ※購入時の設定	新しいSDメモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg～RIMG9999.jpgまでのファイル名が付きます。 RIMG9999を超えると、それ以上は記録できません。

ファイル名の設定を変更するには、次のように操作します。

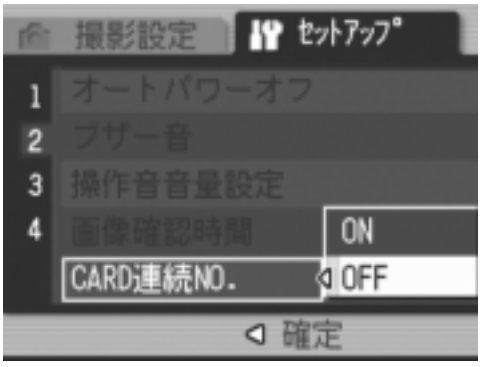
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[CARD連続NO.] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



メモ----------

- 内蔵メモリーに記録する場合には、常に［CARD連続NO.］が［OFF］の設定の場合と同じにファイル名が付けられます。
- RICOH Gate Laを使ってパソコンに転送する（☞P.156）際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。また、［CARD連続NO.］を［ON］に設定していても、ファイル名は「RIMG****.jpg」（****は番号）で保存されます。
- RIMG9999 を超えると、ファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。この場合、SDメモリーカードの内容を一度パソコンなどに移し、SDメモリーカードを初期化してお使いください。

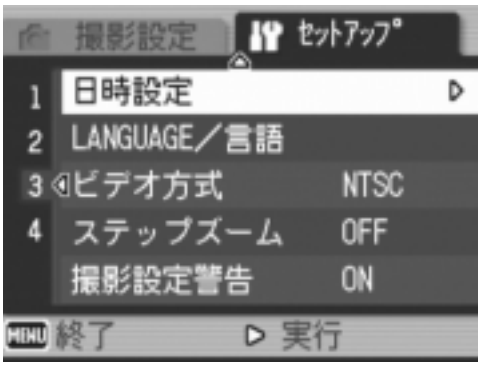
日付・時刻を設定する（日時設定）

静止画に日付や時刻を入れて撮影することができます。
ここでは、セットアップメニューからの日付・時刻の設定方法を説明します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[日時設定] を選び、▶ボタンを押す



3 ▲▼◀▶ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ▲▼ボタンを押し続けると、高速で数値を増減させることができます。
- ◀▶ ボタンを押すと、次の項目へ移動することができます。

4 [書式] で日時の書式を選ぶ

5 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- 日時が設定されて、セットアップメニューに戻ります。

6 MENU/OK ボタンを押す

メモ----------

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに2時間以上セットしてください。

表示言語を変える（LANGUAGE／言語）

液晶モニターに表示される言語を変更することができます。

設定できる値
日本語 ※購入時の設定
ENGLISH（英語）

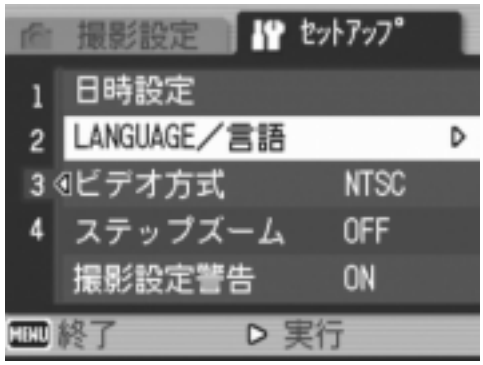
表示言語を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[LANGUAGE／言語] を選び、▶ボタンを押す

- 言語選択画面が表示されます。



3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す

- 言語が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OK ボタンを押す

テレビで見るときの再生方式を変える（ビデオ方式）

付属のAVケーブルでテレビにカメラを接続して、テレビの画面で静止画や動画を見ることができます。（☞P.102）
テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。

設定できる値
NTSC ※購入時の設定
PAL

ビデオ方式を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

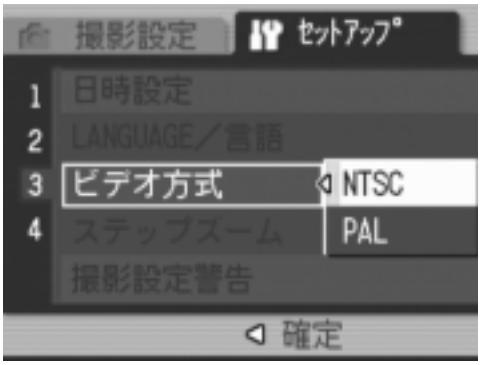
2 ▼ボタンを押して、[ビデオ方式] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンまたは◀ボタンを押す

- ビデオ方式が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OK ボタンを押す



ステップズームの設定を変更する（ステップズーム）

ズームの焦点距離を、4段階（28mm、35mm、50mm、85mm：35mmフィルムカメラ換算）に固定する設定をステップズームといいます。

設定できる値
ON（ステップズームを使用する）
OFF（ステップズームを使用しない）※購入時の設定

ステップズームを設定するには、次のように操作します。

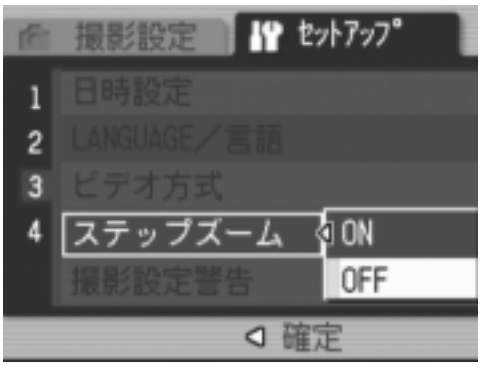
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ステップズーム] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



設定変更の警告を表示する（撮影設定警告）

次の機能の初期設定を変更した場合に、変更した機能のアイコンを点滅させたり、電源投入時に変更があったことを知らせる警告メッセージを約5秒間表示するように設定できます。

ホワイトバランス、フォーカス、ISO感度、露出補正、
長時間露光

アイコン点滅中にカメラのボタン操作を行うと、アイコンは点灯表示になります。警告メッセージ表示中にカメラのボタン操作を行うと、メッセージは消えます。

設定できる値
ON（撮影設定警告を行う）※購入時の設定
OFF（撮影設定警告を行わない）

撮影設定警告を設定するには、次のように操作します。

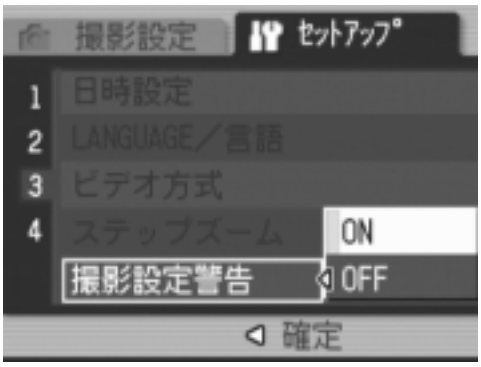
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[撮影設定警告]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



USB通信方式を変える（USB接続）

[USB接続]で［マスストレージ］を選択してUSB通信方式を変更すると、カメラからパソコンにUSBケーブルを使って画像を転送する際に、付属のアプリケーションやUSBドライバーなどをインストールしなくてもカメラの中のファイルを参照できるようになります。
通常は［オリジナル］を選択しておきます。付属のRICOH Gate Laを使って、パソコンへ画像の転送ができます。

モード	マスストレージ	オリジナル
取り込み方法	カメラ内のSDメモリーカード／内蔵メモリーのファイルを、外付けドライブとして直接操作できます。	RICOH Gate Laを使ったパソコンへの自動転送ができます。 Caplio Mounterによるパソコンへの転送ができます。(Mac OS)
Caplio Software CD-ROMからのインストール	必要ありません。	必要です。
対応OS（以下すべて日本語版）		
Windows 98/98SE	×	○
Windows 2000 Professional	○	○
Windows Me	○	○
Windows XP Home Edition	○	○
Windows XP Professional	○	○
Mac OS 8.6	×	○
Mac OS 9.0～9.2.2	○	○
Mac OS X 10.1.2～10.4.5	○	○
対象	• OSのファイル操作に慣れている方 • USBドライバーなどをインストールしたくない方	• パソコンへの取り込みを自動化したい方 • Windows98/98 Second Editionをお使いの方 • Mac OS 8.6をお使いの方

注意----------

- ［マスストレージ］に設定すると、RICOH Gate Laによる転送はできません。
- ［マスストレージ］に設定すると、行えるファイル操作はカメラからの読み込みのみです。カメラへの書き込みや削除はできません。
- ［マスストレージ］に設定すると、ご使用のプリンターによってはダイレクトプリントできない場合があります。その場合は、［オリジナル］を選択してください。

USB通信方式を変更するには、次のように操作します。

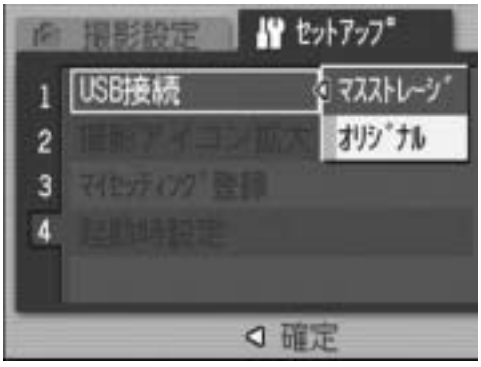
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［USB接続］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す



メモ----------

USBケーブルを使って画像をパソコンに転送する方法はP.155 ～P.159をご覧ください。

アイコンを大きく表示する（撮影アイコン拡大）

撮影画面の次のアイコンを大きく表示します。
この設定では、次のアイコンが大きく表示されます。
フラッシュ、マクロ撮影、セルフタイマー、ホワイトバランス、フォーカス、露出補正、ISO感度

アイコンを大きく表示すると、次のものは表示されません。
ズームバー／フォーカスバー、日付入れ撮影、シャープネス、色の濃さ

撮影画面のアイコンを大きく表示するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［撮影アイコン拡大］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

電源投入時の設定を登録する（マイセッティング登録）

マイセッティング機能を使うと、電源投入時の設定を任意に設定することができます。たとえば、1台のデジタルカメラを複数の人が使用するとき、電源をオフ／オンすると自分が設定した値に戻るので、前に使用した人の設定を気にすることなく、自分が設定した内容で使用することができます。
マイセッティングは、2種類登録できます。

現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録するには、次のように操作します。

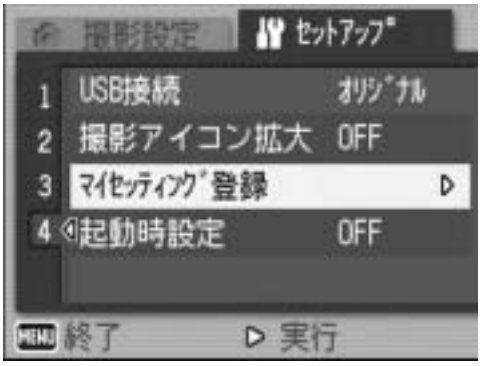
1 マイセッティングにしたい値に、カメラの設定を変更する

2 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

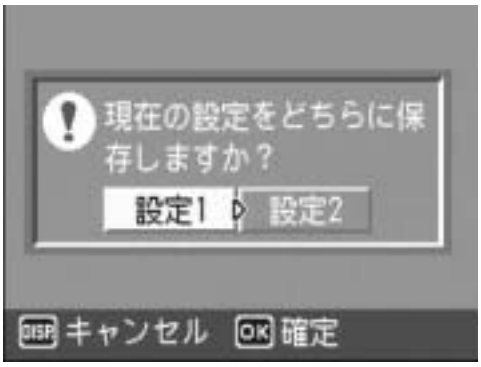
3 ▼ボタンを押して、[マイセッティング登録] を選び、▶ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。



4 [設定1] または [設定2] を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP. ボタンを押してください。



5 MENU/OK ボタンを押す

起動時の設定を変更する（起動時設定）

［マイセッティング登録］で登録した設定を、次回起動時の設定にすることができます。

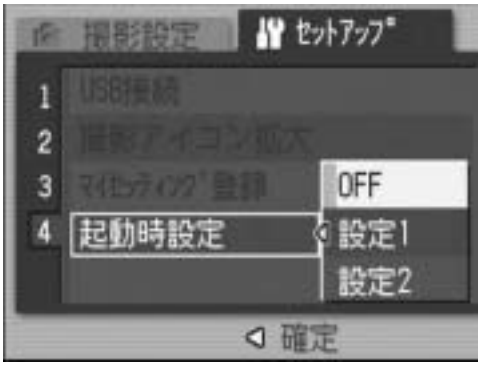
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.113を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［起動時設定］を選び、▶ボタンを押す

3 ［設定1］または［設定2］を選び、MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- マイセッティングを使用しないときは［OFF］を選びます。



4 カメラの電源をオフにする

- 次回電源をオンにしたときの設定が変更されます。

メモ----------

- ［起動時設定］を［OFF］にすると、通常の設定保持動作に戻ります。
- ［起動時設定］を［設定1］または［設定2］にすると、撮影設定メニューの［撮影設定初期化］を実行しても、電源投入時には［マイセッティング登録］で設定した値に戻ります。

マイセッティングで保持される内容

画質・サイズ	日付入れ撮影
ブレ軽減	ホワイトバランス
フォーカス	ISO感度
マニュアルフォーカス時のフォーカス位置	ズーム位置
測光方式	マクロ
シャープネス	フラッシュモード
連写	シーンモード
色の濃さ	DISP.モード
露出補正	文字濃淡
長時間露光	動画フレームレート
音声付き撮影	撮影アイコン拡大

画面の表示は、ご使用のパソコンのOS によって異なります。

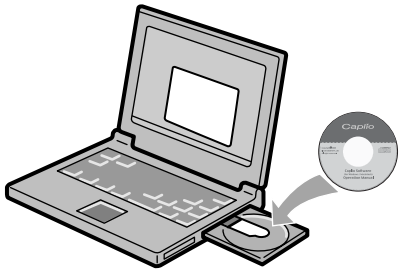
Windowsをご使用の場合

Macintoshをご使用の場合はP.148をご覧ください

画像をパソコンに取り込むためのソフトウェアをパソコンに入れます。この操作を「インストール」といいます。
自動的にカメラからパソコンに画像を取り込むためには、インストールが必要です。

注意

- カメラとパソコンをケーブルでつなぐ前に、必ずソフトウェアをパソコンにインストールしてください。(☞P.140)
- 転送先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。上書きしたくない場合は、別のフォルダに転送するか、転送先フォルダにあるファイルのファイル名を変更してください。



メモ

- カメラのセットアップメニューの［USB接続］の設定を［マスストレージ］に設定すると、付属のアプリケーションやUSBドライバーなどをインストールしなくてもカメラの中のファイルを参照できます。(☞P.157) ご購入時の設定は［オリジナル］です。
- 画像をパソコンに取り込む方法については、Caplio Software CD-ROMに収められている『使用説明書（ソフトウェア編)』を参照してください。『使用説明書（ソフトウェア編)』の表示方法については、P.137を参照してください。

Caplio Software CD-ROMの構成

Caplio Software CD-ROMをパソコンにセットすると、インストーラー画面が自動的に表示されます。

項目名	内容	参照先
ソフトウェアのインストール	カメラや画像を取り扱うために必要なソフトウェアをすべてインストールできます。	P.140
Caplioレスキューの起動	Caplioレスキューを起動することができます。	P.166
使用説明書（ソフトウェア編）を見る	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF）を表示することができます。	P.137
CD-ROMの内容を見る	付属のCD-ROM内のファイル一覧を表示することができます。	P.138
RICOHホームページへ	リコーのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	―
RICOHデジタルカメラホームページへ	リコーのデジタルカメラのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	―
お客様登録・変更	リコーのお客様登録のホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	―

[ソフトウェアのインストール]をクリックする（☞P.140）

次のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名	Windows		説明
	XP	98	
RICOH Gate La	○	○	画像を一括して取り込めます。
ImageMixer	○	○	撮影した画像を表示／編集したり、Video CDを作成することができます。 動画を扱うにはDirectX（☞P.143）が必要です。
USBドライバー	○	○	カメラとパソコンを接続するときに使います。
WIAドライバー	○	−	画像を取り込むときに使います。
Caplioレスキュー	○	○	パソコンのソフトウェアのトラブルシューティング（操作に困ったときのアドバイス）を表示します。
List Editor	○	○	カメラメモリストを作成するときに使います。

XP : Windows XP
98 : Windows 98/98SE/Me/2000

メモ----------

- 本機には、パソコン内の画像を表示、編集するソフトウェアImageMixerが付属しています。ImageMixerの使いかたについては、ImageMixerの画面上に表示される［?］ボタンをクリックして表示されるマニュアルを参照してください。
  ImageMixerについての最新の情報は、開発元の株式会社ピクセラのホームページ（http://www.imagemixer.com）を参照してください。
- ImageMixerのインストール中、WinASPIのインストールが起動します。WinASPIは、ImageMixerを利用してVideo-CD作成する際に必要なソフトウェアです。

[使用説明書（ソフトウェア編）を見る]をクリックする

CD-ROM内の『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）を表示します。
すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合は、クリックするだけで表示できます。Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Acrobat Readerをインストールする必要があります。（☞P.142）

[CD-ROMの内容を見る]をクリックする

CD-ROM内のフォルダやファイルを確認できます。CD-ROMには、Caplioソフトウェア以外に、次のソフトウェアが収められています。Windows環境では、これらのソフトウェアをご使用いただけます。
各ソフトウェアのインストールについては、下表の「参照先」に記載したページをご覧ください。

ソフトウェア名	説明	参照先
Acrobat Reader	『使用説明書（ソフトウェア編）』を読むために必要なソフトウェアです。	P.142
DirectX	ImageMixerで動画を再生するために必要なソフトウェアです。	P.143
Ridoc Desk Navigator Lt	ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。文書の更新を監視するAuto Documentリンクを使って、カメラ内の画像をRidocに登録することもできます。	P.143
Caplio Transfer Software	画像をRidocに登録したり、カメラメモつきの画像をカメラメモの内容によって分類し、パソコンのフォルダに転送・保存したりするためのソフトウェアです。	P.145

メモ----------

- Acrobat Readerについては、Acrobat Readerのヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltについては、Ridoc Desk Navigator Ltに付属の『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』（以上PDFファイル）、およびヘルプを参照してください。
- Auto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』（PDFファイル）を参照してください。
- ImageMixerは「ImageMixer」フォルダ内のsetup.exeをダブルクリックすると、ImageMixerのみをインストールすることができます。

Caplio Softwareを使うために必要な環境

Caplio Softwareを使うためには、次の環境が必要です。
ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

対応OS	Windows 98/98 Second Edition（日本語版） Windows 2000 Professional（日本語版） Windows Me（日本語版） Windows XP Home Edition（日本語版）/Professional（日本語版）
CPU	Pentium® III 500MHz 以上
メモリー	Windows 98/98SE：128MB 以上 Windows 2000：128MB 以上 Windows Me：128MB 以上 Windows XP：256MB 以上
インストール時のハードディスクの空き容量	Windows 98/98SE：500MB 以上 Windows 2000：500MB 以上 Windows Me：500MB 以上 Windows XP：500MB 以上
ディスプレイの解像度	800×600ドット以上
ディスプレイの表示色	65000色以上
CD-ROMドライブ	上記パソコン本体で使用可能なCD-ROMドライブ
USBポート	上記パソコン本体で使用可能なUSBポート

***注意*----------**

- OSをアップグレードしたパソコンの場合、正常にUSB機能が動作しないことがあるためサポートできません。
- OSのシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能（PCIバスなど）を利用して増設したUSBポートへの接続はサポートできません。
- HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお薦めします。

Caplioソフトウェアをインストールする

カメラとパソコンを接続する前に、ソフトウェアをインストールしてください。

注意----------

- ソフトウェアを入れる前にカメラとパソコンを接続して、[新しいハードウェアの追加ウィザード]画面が表示されてしまった場合には、[キャンセル]をクリックしてカメラとパソコンの接続を外してから、インストールの操作を行ってください。
- インストール中に、従来機種のCaplioソフトウェアをアンインストールしてから再インストールするようにメッセージが表示された場合は、メッセージに従って、従来機種のCaplioソフトウェアをアンインストールしてから、再度インストールしてください。新しいCaplioソフトウェアをインストールしても、画像の取り込みなど、従来機種もこれまでと同様にお使いいただけます。(アンインストール方法☞P.146)
- Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 [ソフトウェアのインストール]をクリックする

- しばらくすると[設定言語の選択]画面が表示されます。

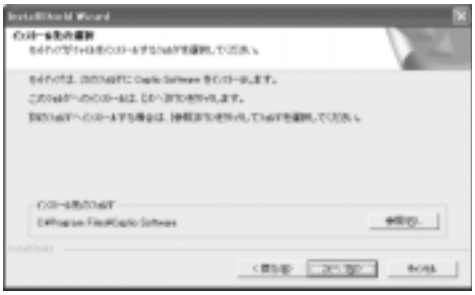
3 言語を選択し、[OK]をクリックする

- [Caplio Software用のInstallShield Wizardへようこそ]画面が表示されます。

4 [次へ]をクリックする

- [インストール先の選択]画面が表示されます。

5 インストール先を確認して［次へ］をクリックする



- ［プログラムフォルダの選択］画面が表示されます。

6 プログラムフォルダを確認して［次へ］をクリックする

- Caplioレスキュー（トラブルシューティングソフトウェア）を起動するショートカットをデスクトップに作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

7 ［はい］または［いいえ］をクリックする

- ［はい］［いいえ］のどちらを選択しても、［スタート］メニューの［プログラム］-［Caplio Software］-［Caplioレスキュー（トラブルシューティング）］にプログラムが登録されます。
- 続けてImageMixerのインストーラが起動します。
  画面の指示に従ってインストールしてください。

- ImageMixerのインストールが完了すると、すべてのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

8 ［完了］をクリックする

9 パソコンを再起動する

メモ----------

インストールしたソフトウェアをパソコンから削除（アンインストール）することができます。（☞P.146）

その他のソフトウェアをインストールする

注意----------

- インストールは、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続した状態では行わないでください。
- Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。

Acrobat Reader

Acrobat Readerは、使用説明書（PDFファイル）を表示をするためのソフトウェアです。
Windowsをご使用の場合には、Acrobat Readerをインストールすることができます。すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 [CD-ROMの内容を見る]をクリックする

- CD-ROM 内のファイル一覧が表示されます。

3 [Acrobat] フォルダをダブルクリックする

4 [Japanese] フォルダをダブルクリックする

5 [ar505jpn]（ar505jpn.exe）をダブルクリックする

6 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Acrobat Readerをインストールする

DirectX

DirectXは、ImageMixerで動画ファイルを再生するためのソフトウェアです。
DirectXのバージョンが8.1より古いと動画再生ができませんので、新しいものをインストールしてください。Windows XPには、新しいバージョンがインストールされていますので、改めてインストールする必要はありません。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

2 [CD-ROMの内容を見る]をクリックする

3 [DirectX]フォルダをダブルクリックする

4 [Japanese]フォルダをダブルクリックする

5 以下のファイルをダブルクリックする

Windows 98/98SE/Meの場合	[Win98Me]フォルダ内の[DX81xxx.exe]
Windows 2000の場合	[Win2000]フォルダ内の[DX81NTxxx.exe]

Ridoc Desk Navigator Lt

ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。デジタルカメラで撮影した静止画だけでなく、スキャナから読み取った文書やアプリケーションで作成した文書、イメージファイルなど、さまざまな文書を管理することができます。異なるファイル形式のものを1つの文書にまとめて保管することも可能です。
また、文書の更新を監視するAuto Documentリンクを使って、カメラから画像を取り込み、Ridocへ登録することもできます。

メモ----------

- Ridoc Desk Navigator Ltは日本国内向けのアプリケーションです。他の言語環境では使用できません。
  (Ridoc Desk Navigator Lt is only available in Japanese. Other languages are not supported.)
- Ridoc Desk Navigator Ltの使用方法については、Ridoc Desk Navigator Ltと同時にインストールされる『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』(以上PDFファイル)、およびヘルプを参照してください。

注意----------

- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクでカメラから画像を取り込む場合には、Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする前に、Caplio Softwareをインストールしてください。(☞P.140)
  Auto Documentリンクを使用するには、Caplio Softwareに含まれるドライバーソフトウェアが必要です。
- Auto Documentリンクの監視先に［Caplioデジタルカメラ］を指定したときは、カメラの［USB接続］を［オリジナル］に設定してください。(☞P.130)

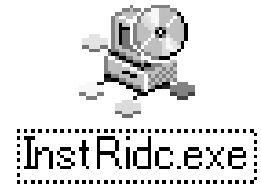
1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

2 ［CD-ROMの内容を見る］をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 ［Ridoc Desk］フォルダをダブルクリックする

4 ［InstRidc］（InstRidc.exe）をダブルクリックする



5 Ridoc Desk Navigator Ltのボタンをクリックする

6 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする

- インストールが完了すると、自動的にWindowsが再起動します。

注意----------

- Ridoc Desk Navigator Ltは、Ridoc Desk Navigator、Ridoc Desk 2000 Lt、Ridoc Desk 2000、Job Binderと共存することができません。Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする場合は、元のアプリケーションをアンインストールしてから行ってください。そのとき、元のアプリケーションで使用していたデータはそのまま保存され、引き続き使用することができます。ただし、元のアプリケーションがRidoc Desk 2000の場合、いくつかの機能が使用できなくなりますので、ご注意ください。
- Ridoc Desk Navigator LtのAuto Documentリンクで、カメラから画像を取り込む場合は、RICOH Gate Laの［オプション設定］画面で、［USB接続時、自動保存を行う］のチェックを外してください（☞『使用説明書（ソフトウェア編）』）。またカメラから画像を取り込む前に、カメラの日付設定で、日付を設定してください。（☞P.125）
- カメラを接続してRidoc Desk Navigator Ltを開いたままでカメラの電源をオフ／オンした場合は、パソコンを再起動して再度接続してください。

Caplio Transfer Software

画像をRidocに登録したり、カメラメモつき画像をカメラメモの内容によって分類してパソコンのフォルダに転送し、保存したりするためのソフトウェアです。

メモ----------

Caplio Transfer Softwareの使用方法については、CD-ROM内のReadmeファイル（Readme.txt）を参照してください。

注意----------

Ridoc Desk Navigator Ltで、カメラメモの検索、印刷を行う場合はAuto Documentリンクで取り込みます。詳しくはRidoc Desk Navigator Ltの『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、ヘルプを参照してください。

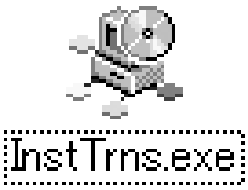
1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

2 ［CD-ROMの内容を見る］をクリックする

3 CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

4 ［Caplio Transfer］フォルダをダブルクリックする

5 [InstTrns]（InstTrns.exe）をダブルクリックする



6 Caplio Transfer Softwareのボタンをクリックする

7 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Caplio Transfer Softwareをインストールする

ソフトウェアを削除（アンインストール）する

注意----------

- Windows XP、Windows 2000の場合、アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

Caplio Software

1 Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする

2 [設定] - [コントロールパネル]（XPの場合は [コントロールパネル]）を選択する

3 [アプリケーションの追加と削除］アイコン（XPの場合は [プログラムの追加と削除] アイコン）をダブルクリックする

4 [Caplio Software］を選択し、[変更と削除］をクリックする

5 ファイル削除のメッセージを確認し、[OK］をクリックする

- ［共有ファイルの検出］ダイアログが表示されます。

6 [次回からこのメッセージを表示しない]のチェックボックスにチェックを入れて、[はい］をクリックする

- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

ImageMixer

1 Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする

2 ［設定］-［コントロールパネル］（XPの場合は［コントロールパネル］）を表示する

3 ［アプリケーションの追加と削除］アイコン（XPの場合は［プログラムの追加と削除］アイコン）をダブルクリックする

4 ［ImageMixer］を選択し、［変更と削除］をクリックする

5 ファイル削除のメッセージを確認し、［OK］をクリックする

- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

6 パソコンを再起動する

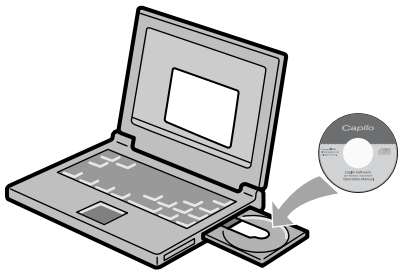
Macintoshをご使用の場合

Windowsをご使用の場合はP.135をご覧ください

画像をパソコンに取り込むためのソフトウェアをパソコンに入れます。この操作を「インストール」といいます。
自動的にカメラからパソコンに画像を取り込むためには、インストールが必要です。

注意----------

- カメラとパソコンをケーブルでつなぐ前に、必ずソフトウェアをパソコンにインストールしてください。



メモ----------

- 画像をパソコンに取り込む方法については、Caplio Software CD-ROMに収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。『使用説明書（ソフトウェア編）』の表示方法については、P.149を参照してください。

Caplio Software CD-ROMの構成

ソフトウェア名	Mac		説明
	9	X	
RICOH Gate La	○	ー	画像を一括して取り込めます。
USBドライバー	○	○	カメラとパソコンを接続するときに使います。
Caplio Mounter	○	○	カメラとパソコンを接続するときに使います。

9 : Mac OS 8.6～9.2.2
X : Mac OS X 10.1.2～10.4.5

メモ----------

- Mac OS 8.6～9.2.2の場合、カメラとパソコンを接続すると、自動的にRICOH Gate Laが起動し、画像の取り込みが始まります。詳しい使用方法については、『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。
- Caplio Mounterで画像を取り込む方法については、『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。

Mac OS 8.6～9.2.2では、[Installer]アイコンをダブルクリックすると、[ソフトウェアインストーラー]画面が表示されます。

メモ----------

Mac OS X 10.1.2～10.4.5では、[ソフトウェアインストーラー]画面は表示されません。(☞P.152)

項目名	内容
ソフトウェアのインストール	カメラや画像を取り扱うために必要なソフトウェアをすべてインストールできます。
使用説明書（ソフトウェア編）を見る	『使用説明書（ソフトウェア編）』(PDF）を表示することができます。

[ソフトウェアのインストール]をクリックする（☞P.151、P.152)

ソフトウェアがインストールされます。

[使用説明書（ソフトウェア編）を見る]をクリックする

CD-ROM内の『使用説明書（ソフトウェア編）』(PDFファイル)を表示することができます。
Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Acrobat Readerをインストールする必要があります。

Caplio Softwareを使うために必要な環境

Caplio Softwareを使うためには、次の環境が必要です。
ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

対応OS	Mac OS 8.6～9.2.2/Mac OS X 10.1.2～10.4.5	
Macintosh本体	本体USBポートを標準装備しているApple社製Macintoshシリーズ	
内蔵メモリー	Mac OS 8.6～9.2.2	96MB 以上 （推奨128MB 以上）
	Mac OS X 10.1.2～10.4.5	128MB 以上 （推奨256MB 以上）
アプリケーション割り当てメモリー（Mac OS 8.6～9.2.2の場合）	圧縮ユーティリティーを使用せずに、アプリケーションメモリーとして16MB 以上（推奨24MB 以上）	
ハードディスクの空き容量	Mac OS 8.6～9.2.2	10MB 以上 （インストール時）
	Mac OS X 10.1.2～10.4.5	100MB 以上 （インストール時）
	100MB 以上（動作時）	
ディスプレイの解像度	800×600ドット以上	
ディスプレイの表示色	32000色以上	
CD-ROMドライブ	上記Macintosh本体で使用可能なCD-ROMドライブ	
USBポート	上記Macintosh本体で使用可能なUSBポート	

注意----------

- OSのシステム環境の変化などにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能（PCIバスなど）を利用して後付されたUSBポートへの接続はサポートできません。
- HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。

メモ----------

- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用する事をお薦めします。
- Mac OS 8.6～9.2.2の場合、より大きなメモリー環境で利用するとともに、より多くのアプリケーションメモリーを割り当ててください。

Caplioソフトウェアをインストールする（Mac OS 8.6～9.2.2の場合）

カメラとパソコンを接続する前に、ソフトウェアをインストールしてください。

1 Macintosh の電源を入れ、CD-ROM ドライブに付属の Caplio Software CD-ROMを入れる

2 [Caplio Software] アイコンをダブルクリックする

3 [MacOS9] フォルダをダブルクリックする

- [Installer] のアイコンが表示されます。

4 [Installer] をダブルクリックする

- [ソフトウェアインストーラー]画面が表示されます。

5 [ソフトウェアのインストール] をクリックする

6 アップデートの場合は［OK］をクリックする

7 [インストール] をクリックする

- インストール終了後、Macintoshを再起動する必要があることを確認するメッセージが表示されます。

8 [続ける] をクリックする

- しばらくするとインストール完了のメッセージが表示されます。

9 [再起動] をクリックする

- Macintoshが再起動します。

Caplioソフトウェアをインストールする（Mac OS X 10.1.2～10.4.5の場合）

カメラとパソコンを接続する前に、ソフトウェアをインストールしてください。

1 Macintoshの電源を入れ、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMを入れる

2 [Caplio Software]アイコンをダブルクリックする

3 [Mac OS X]フォルダを開く

- [Mac OS X 10.1 - 10.3]と[Mac OS X 10.4]の2つのフォルダが表示されます。

4 ご使用のOSのフォルダをダブルクリックする

- Mac OS X 10.1～10.3をご使用の場合は[Mac OS X 10.1 - 10.3]フォルダを、Mac OS X 10.4以降をご使用の場合は[Mac OS X 10.4]フォルダをダブルクリックします。[Caplio Mounter]のアイコンが表示されます。

5 [Caplio Mounter]をダブルクリックする

- インストーラが起動します。管理者パスワードを要求する画面が表示されます。

6 鍵のアイコンをクリックする

- 認証ウィンドウが表示されます。

7 管理者の名前とパスワードを入力し、[OK]をクリックする

8 [続ける]をクリックする

- インストールの README ファイルが画面に表示されます。[続ける]をクリックすると、インストール先を選択する画面が表示されます。

9 インストールするディスクをクリックし、[続ける]をクリックする

10 [インストール]をクリックする

- インストール終了後、Macintoshを再起動する必要があることを確認するメッセージが表示されます。

11 [インストールを続ける]をクリックする

- インストールが行われ、しばらくするとインストール完了のメッセージが表示されます。

12 [再起動]をクリックする

- Macintoshが再起動します。

ソフトウェアを削除（アンインストール）する

注意----------

他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

Mac OS X 8.6～9.2.2の場合

1 システムフォルダにある以下のファイルを削除してください。

ファイル名	インストール先フォルダ
RICOH Gate La	コントロールパネル
RICOH Gate La Prefs	初期設定
Caplio Mounter	機能拡張
Caplio Mounter Prefs	初期設定
Caplio USB Driver	機能拡張
Caplio LIB	機能拡張

Mac OS X 10.1.2～10.4.5の場合

1 [アプリケーション] フォルダにある [Caplio Mounter] を起動する

2 [ファイル] メニューから [アンインストール] を選択する

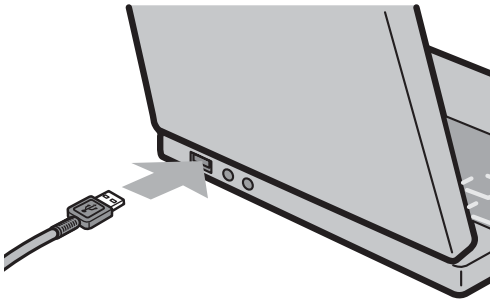
- 削除が始まります。

カメラとパソコンを接続する

ソフトウェアをパソコンにインストールしたら、カメラとパソコンを接続します。
なお、カメラのセットアップメニューの［USB接続］（☞P.130）が［オリジナル］（初期値）に設定されているものとして説明します。［マスストレージ］になっている場合は、［オリジナル］に設定変更してください。マスストレージモードで画像を取り込むこともできます。（☞P.157）

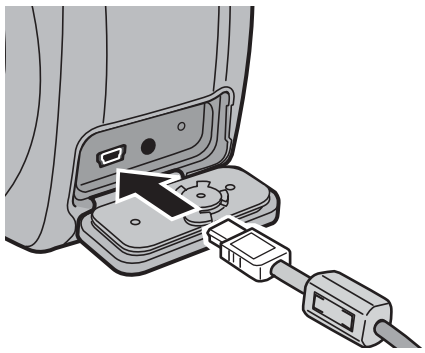
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する



3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

カメラの電源がオンになります。



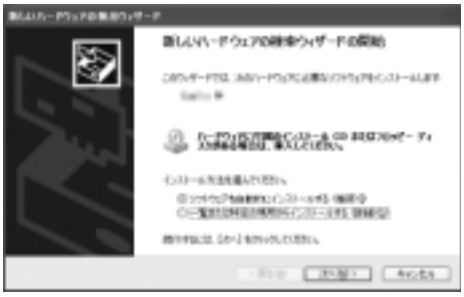
注意----------

バッテリー／カードカバー、端子カバーを開閉する場合、カメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所をさけて開閉してください。

ソフトウェアを使って画像を取り込む

Windowsでは、はじめてカメラとパソコンをUSBケーブルで接続すると［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示されます。（Macintoshでは表示されません。）
ここではWindows XPの画面例を使用しています。

1 ［ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨）］を選択する

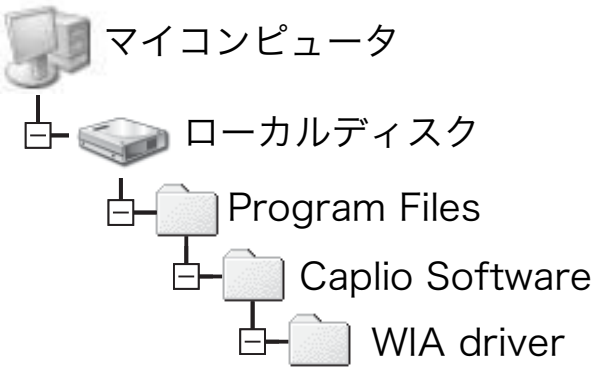


2 付属のCaplio Software CD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

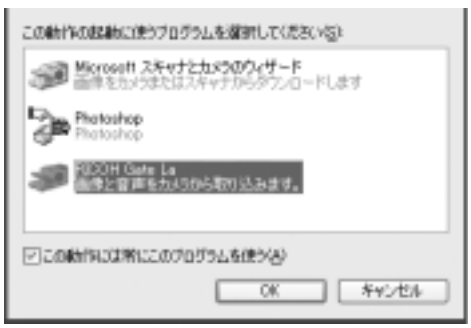
- 自動的にWIAドライバーのインストールが開始されます。［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示されたとき、すでにCD-ROMがパソコンにセットされていた場合は、［次へ］を選択するとインストールが開始されます。

メモ----------

WIAドライバーは、インストーラの初期設定では以下の場所にも保存されています。CD-ROMがお手元にない場合は、このフォルダを指定してください。



3 ［RICOH Gate La］を選択し、［この動作には常にこのプログラムを使う］にチェックを入れて、［OK］をクリックする



- Windows XPの「スキャナとカメラのウィザード」機能を使ってカメラから画像を取り込む場合は、[Microsoft スキャナとカメラのウィザード] を選択してください。
- [この動作には常にこのプログラムを使う]にチェックを付けないと、取り込みの際に毎回［Caplio 500Gwide］画面が表示され、取り込みの方法（RICOH Gate Laまたはスキャナとカメラのウィザード）が選択できます。
- Windows XP Service Pack2をお使いの方で、警告メッセージが表示された場合は、P.167をご覧ください。

メモ----------

- 接続がうまくいかないときは、ソフトウェアを削除し（☞P.146）、再度インストールを試してください。
- カメラから画像を取り込む場合は、十分に残量がある電池をセットしてください。または、電源にＡＣアダプター（別売り）を使用することをお勧めします。

カメラとパソコンの接続をやめるには

1 カメラの電源ボタンを押して電源をオフにする

2 USBケーブルを外す

マスストレージモードで画像を取り込む

ソフトウェアを使用せずに、カメラからパソコンに画像を取り込みます。

1 セットアップメニューの [USB接続] を [マスストレージ] に変更する

- 詳しくはP.130をご覧ください。ご購入時の設定は［オリジナル］です。

2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

3 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

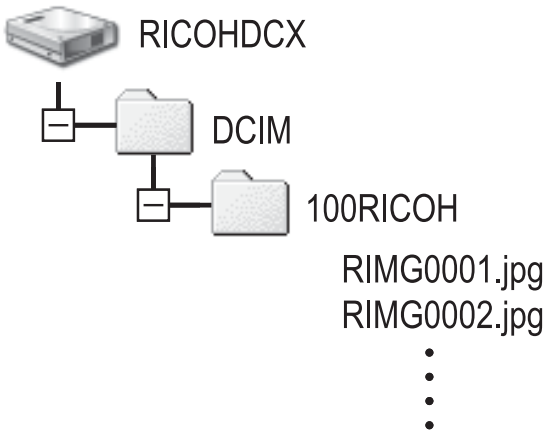
4 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

Windows XPでの表示例

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、Windowsの場合は[マイコンピュータ]に、Macintoshの場合はデスクトップにドライブとして表示されます。

5 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は右図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。



Windows XPでの表示例

注意----------

- Windows 98/98SE、Mac OS 8.6をご使用の場合、本カメラではマスストレージモードで接続できません。
- 転送中は電源をオフにしたりUSBケーブルを抜かないでください。
- 転送先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。上書きしたくない場合は、別のフォルダに転送するか、転送先フォルダにあるファイルのファイル名を変更してください。

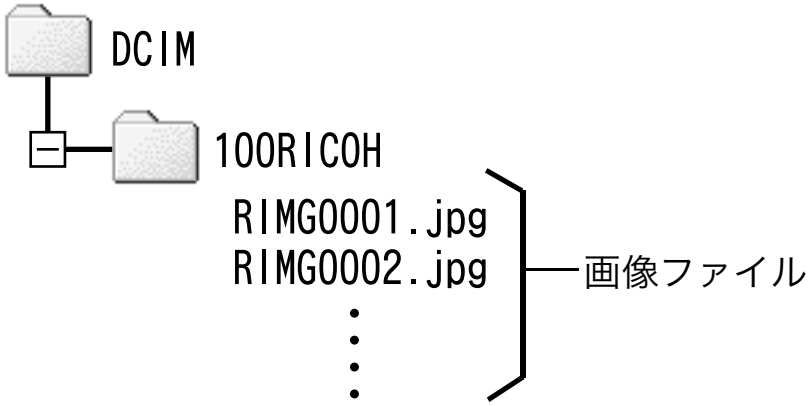
メモ----------

表示される内容は、SDメモリーカードがセットされているときはSDメモリーカードのファイル、SDメモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルになります。

SDメモリーカードから画像を取り込む----------

PCカードスロットやカードリーダーを使って、SDメモリーカードからパソコンへ画像を取り込むことができます。PCカードスロットやカードリーダーのタイプによっては、SDメモリーカードをセットするときにメモリーカードアダプターが必要です。SDメモリーカードがそのままセットできるタイプであれば、メモリーカードアダプターは必要ありません。

- SDメモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。



Windows XPでの表示例

カードリーダー
パソコンに接続して、カードの内容を読みとるための機器です。メモリーカードアダプタータイプの他に、SDメモリーカードがそのままセットできる各種のカードに対応したカードリーダーがあります。

カメラとパソコンの接続を解除する

Windowsの場合

表示はWindows XPの例です。他のOSでは用語が異なりますが、操作は同じです。

1 タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックする

2 [USB大容量記憶装置デバイス]を選び、[停止]をクリックする

3 [USB 大容量記憶装置デバイス]が選ばれていることを確認して、[OK]をクリックする

4 [OK]をクリックする

5 USBケーブルを取り外す

Macintoshの場合

1 表示されたドライブを「ゴミ箱」に入れる

2 USBケーブルを取り外す

メモ----------
Mac OS 9の場合は［特別］メニューで、Mac OS Xの場合は［ファイル］メニューで［取り出し］を選択して接続を解除することもできます。

お困りのときは

エラーメッセージが表示されたら

液晶モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の方法で対処してください。

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
CARDを入れてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.25
セットアップメニューから日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.125
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.123
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	−
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.22
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.94
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.22
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル(動画など)です。	−
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.50 P.115 P.116
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を0にしてください。	−
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.116
CARDを初期化してください。	カードが初期化されていません。本機でカードを初期化してください。	P.115
使用できないCARDです。	再度初期化し直してください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.115
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	−
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	−
記録できません。	撮影可能枚数が0になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.22

カメラ本体のトラブル

電源

症　状	原　因	処　置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	リチャージャブルバッテリーを正しくセットする。または充電する。必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.25 P.24 P.27
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、またはアルカリ乾電池を使う。他の電池は使用しないでください。	P.20
	ACアダプターが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.27
	オートパワーオフで電源が切れている。	電源を再投入する。	P.29
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.25
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.29
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、ACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.24 P.27 P.25
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、またはアルカリ乾電池を使う。他の電池は使用しないでください。	P.20
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.25 P.27
充電したばかりなのに： • 電池残量が少ないことを示す電池マークが表示される。 • 電源が切れる。	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、またはアルカリ乾電池を使う。他の電池は使用しないでください。	P.20
バッテリーを充電できない。	バッテリーの寿命。	新しいバッテリーに交換する。	P.25
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	ー	ー
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多い。	ー	ー

撮影

症　状	原　因	処　置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、ACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.24 P.27 P.25
	電源が入っていない。または撮影モードになっていない。	電源を入れ、モードダイヤルを撮影モードに合わせる。	P.29 P.16
	再生モードになっている。	▶（再生）ボタンを押して撮影モードにする。	P.46
	シャッターボタンを押し切っていない。	シャッターボタンを押し切る。	P.33 P.34
	SDメモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.115
	SDメモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.50 P.25
	SDメモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.25
	フラッシュが充電中。	オートフォーカス／フラッシュランプの点滅が終了するまで待つ。	P.38
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.22
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	ー
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.122
液晶モニターに映らない。	電源が入っていない。または液晶モニターが暗い。	電源を入れる。または液晶モニターの明るさを調整する。	P.29 P.117
	ビデオケーブル／AVケーブルをさした状態になっている。	ビデオケーブル／AVケーブルを抜く。	P.102
	画面表示が「シンクロモニターモード」になっている。	DISP.ボタンを押して表示を切り替える。	P.53
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズまたはAF窓が汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	P.14
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.34
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.34 P.65

症　状	原　因	処　置	参照先
手ブレになる。	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両肘を身体につけて構える。 三脚を使用する。 ブレ軽減機能を使う。	P.31 P.63
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO感度を上げる。 ブレ軽減機能を使う。	P.38 P.85 P.63
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	次の状態では、フラッシュは発光禁止になっている。 • ホワイトバランスブラケットを使用する設定 • 連写モード • 動画モード また、シーンモードでは、初期設定が発光禁止になっている。	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.38 P.75 P.69 P.87 P.176
	フラッシュが発光禁止になっている。	ϟ（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.38
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、必要に応じて AC アダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.24 P.27 P.25
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が、望遠時で約6.5m以上、広角時で約10m以上離れている。	被写体に近づいて撮影する。	P.38
	黒っぽい被写体である。	露出補正を行う（フラッシュの光量も露出補正値に連動します）。	P.82
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	被写体から少し離れて撮影するか、被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.38
	露出がオーバーしている。	露出補正を行う。 長時間露光を解除する。	P.82 P.77
	液晶モニターの明るさが適切でない。	液晶モニターの明るさを調整する。	P.117
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	ϟ（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.38
	露出が不足している。	露出補正を行う。 長時間露光を設定する。	P.82 P.77
	液晶モニターの明るさが適切でない。	液晶モニターの明るさを調整する。	P.117
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはオートモード以外のホワイトバランスを使用する。	P.83

症　状	原　因	処　置	参照先
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示の機能で、表示なしになっている。	DISP.ボタンを押して表示を切り替える。	P.53
AF動作中、液晶モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なるとき、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	―
縦に尾を引いた画像になる。	明るい被写体を写したときに起こる現象。スミア現象という。	故障ではありません。	―

再生／削除

症　状	原　因	処　置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶（再生）ボタンを押す。	P.46
	ビデオケーブル／AVケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.102
	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.127
SDメモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SDメモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていないSDメモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	P.25
	本機で初期化していないSDメモリーカードを再生した。	本機で初期化し、記録したカードをセットする。	P.25 P.115
	正常に記録されていないSDメモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	―
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	―
	使用中のSDメモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	―
画面が消えた。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、必要に応じて AC アダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.24 P.27 P.25
	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.29

症　状	原　因	処　置	参照先
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.94
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.22
SDメモリーカードを初期化できない。	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.22

その他

症　状	原　因	処　置	参照先
SDメモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.25
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.24 P.27 P.25
	カメラの誤動作。	電源ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度電源ボタンを押して、電源をオンにする。	P.29
		電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.25 P.27
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.125
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態が約1週間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定し直す。	P.125
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが[OFF]になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.119
ブザー音が鳴らない。	消音が設定されている。	[操作音音量設定]で音量なし以外を設定する。	P.121
テレビに映らない。	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.127
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.102
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	－

ソフトウェア／パソコンのトラブル

ソフトウェアについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）をご覧ください。

Caplioレスキューについて（Windowsをご使用の場合）

パソコンにインストールされているトラブルシューティングソフトウェア（Caplioレスキュー）をお試しください。Caplioレスキューでは、画面のメッセージに従って操作すると、パソコンとの接続やソフトウェアに関するトラブルへの対処方法が表示できます。
Caplioレスキューは、［ソフトウェアのインストール］ボタンで付属ソフトウェアのインストールが完了していれば、パソコンにインストールされています。インストール時にショートカットを作成した場合は、デスクトップ上にショートカットが表示されています。

Caplioレスキューを使うには

Caplioレスキューは、次のように操作して起動します。

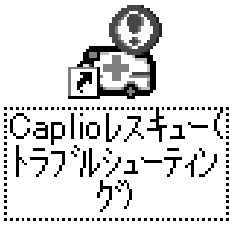
起動方法1： Windowsの［スタート］メニューから起動する

1 Windowsのタスクバーにある［スタート］をクリックして［スタート］メニューを表示します。

2 ［プログラム］を選択し、［Caplio Software］を選択します。

3 ［Caplioレスキュー（トラブルシューティング）］を選択します。

起動方法2： デスクトップ上に作成した Caplio レスキューのショートカットをダブルクリックする



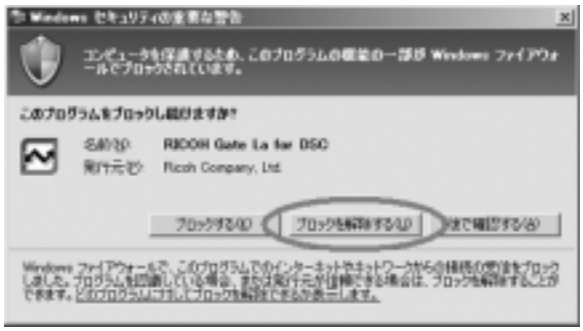
起動方法3： CD-ROMドライブに付属のCaplio Software CD-ROMをセットし、［Caplioレスキューの起動（トラブルシューティング）］をクリックする

Windows XP Service Pack2での警告メッセージについて

Windows XP Service Pack2がインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB接続時）等に以下の警告メッセージが表示される場合があります。
こちらをご理解の上、以下を参考にしてください。

警告メッセージが表示されたら

1 名前、発行元を確認し［ブロックを解除する］ボタンをクリックする



注意----------

プログラムの名前や発行元に心当たりが無い場合、ウイルスプログラムである可能性がありますので［ブロックする］をクリックしてください。ブロックすると、そのプログラムによる外部からの接続が利用できなくなります。

［ブロックする］ボタンをクリックした場合

Windowsファイアウォールの設定を確認します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］の順にクリックする

2 ［Windowsファイアウォール］をダブルクリックする

- ［Windowsファイアウォール］がない場合はウィンドウ左上の［クラシック表示に切り替える］をクリックしてください。

3 [例外] タブをクリックする

4 [プログラムおよびサービス] 内に設定したソフトウェアがあることを確認する

5 [プログラムの追加] ボタンをクリックし、ネットワークを使うソフトウェアを追加する

[後で確認する] ボタンをクリックした場合

プログラムを起動するたびに、[Windows セキュリティの重要な警告] ウィンドウが表示されるので、その際に [ブロックを解除する] を選択できます。

主な仕様

総合

ビデオ信号方式	NTSC方式、PAL方式
電源電圧	リチャージャブルバッテリー DB-43（3.7V）× 1本
	外部（ACアダプター）：3.8V
	単三アルカリ乾電池、ニッケル水素乾電池×2本
外形寸法	133.0mm（幅）× 74.0mm（高さ）× 78.5mm（奥行き） （突起部含まず）
質量	本体 約400g（電池／ストラップを除く） 付属品 約50g（電池／ストラップ）
三脚ねじ穴形状	1/4-20UNC
使用温度範囲	-10°C～40°C
使用湿度範囲	85%以下
保存温度範囲	-20°C～60°C
防水	JIS保護等級7
防塵	JIS保護等級6

カメラ部

使用撮像素子	総画素数830万画素（有効画素数813万画素）、1/1.8型原色CCD
レンズ	
レンズ	3.0倍光学ズームレンズ 明るさ（F値）：F2.5（W)～4.3（T)
焦点距離	5.8～17.4mm（35mm換算28～85mm）
撮影距離	約0.3m～∞（広角）、約1.0m～∞（望遠）
マクロ撮影距離 （カメラ前端より）	約0.005m～∞（広角）、約0.1m～∞（望遠）、 約0.005m～∞（ズームマクロ）
デジタルズーム	4倍
モニター表示部	
画面サイズ	2.5型
種類	透過型アモルファスシリコンTFT液晶
画素数	約15万画素
ホワイトバランス	AUTO／固定（屋外、曇天、白熱灯、白熱灯2、蛍光灯、手動設定）
露出調整	
測光感度分布	マルチ測光（256分割）、中央重点測光、スポット測光
露出補正	マニュアル露出補正±2.0EV（1/3EVステップ）
測光方式	TTL-CCD測光方式
フラッシュ AE	あり（日中シンクロ　あり）
シャッター	静止画：8、4、2、1～1/2000秒 動画：1/30～1/2000秒
ISO感度	AUTO、ISO64、ISO100、ISO200、ISO400、ISO800、ISO1600

距離調節	
AF方式	通常撮影領域：外部パッシブ・CCD方式 マクロ領域：CCD方式
AF測距範囲	通常撮影領域：約0.3m～∞、マクロ時：約0.005m～∞
内蔵フラッシュ	
方式	外部調光センサー方式とプリ発光方式併用
撮影距離	約0.2～10m（広角）、約0.2～6.5m（望遠）（ISO: AUTO）
動作モード	発光禁止／オート／赤目軽減／強制発光／スローシンクロ
デート保持時間	約1週間

画像データ録再部

画素数（ピクセル）	
静止画	3264×2448、2592×1944、2048×1536、 1280×960、640×480
文字	3264×2448、2048×1536
動画	320×240、160×120
ファイルフォーマット	
静止画	圧縮：JPEG（Exif Ver.2.21）
文字	TIFF（MMR方式ITU-T.6）
動画	AVI（Open DML Motion JPEGフォーマット準拠）
音声	WAV（Exif Ver.2.21 μ law）
カメラファイルシステム規格	DCF ※DCFはJEITAで標準化された『Design rule for Camera File System』規格の略称です。
圧縮方式	JPEGベースライン方式準拠（静止画、動画）
画像サイズ	
3264×2448	N：約1665KB／画面、F：約2894KB／画面
2592×1944	N：約1060KB／画面
2048×1536	N：約672KB／画面
1280×960	N：約356KB／画面、F：約686KB／画面
640×480	N：約83KB／画面

入出力端子

電源入力	3.8V（ACアダプター）
ビデオ出力	1.0Vp-p（75Ω）
USB端子	mini-B USB Ver.2.0

記録再生可能なメモリーカードの種類

メモリー種類	SDメモリーカード、マルチメディアカード

内蔵メモリー／SDメモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画質	画像サイズ	内蔵	32MB	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB
静止画	F	3264×2448	8	9	19	39	78	158	305
	N	3264×2448	14	16	33	68	136	275	530
	N	2592×1944	22	25	53	107	213	430	828
	N	2048×1536	36	41	84	170	339	683	1314
	F	1280×960	33	38	79	159	318	641	1233
	N	1280×960	63	72	148	301	600	1209	2324
	N	640×480	277	315	645	1304	2599	5237	10072
文字		3264×2448	51	59	121	244	487	982	1889
		2048×1536	87	99	203	412	821	1654	3181
動画	320×240 15コマ／秒		1分 17秒	1分 27秒	2分 59秒	6分 3秒	12分 4秒	24分 19秒	46分 47秒
	320×240 30コマ／秒		39秒	44秒	1分 31秒	3分 4秒	6分 7秒	12分 19秒	23分 42秒
	160×120 15コマ／秒		4分 38秒	5分 16秒	10分 47秒	21分 49秒	43分 29秒	87分 37秒	168分 30秒
	160×120 30コマ／秒		2分 26秒	2分 46秒	5分 40秒	11分 27秒	22分 50秒	46分 1秒	88分 31秒
音声			56分 45秒	64分 36秒	132分 11秒	267分 15秒	532分 36秒	1073分 0秒	2063分 25秒

メモ----------

- 液晶モニターに表示される残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画・音声の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。

別売り品について

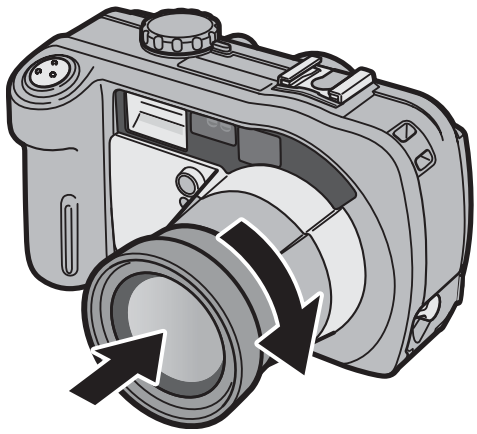
Caplio 500Gwideでは、下記の別売り品が使用できます。

商品名	型名	備考
ワイドコンバージョンレンズ	DW-5	さらに広角に撮影したいときに使用します。
ACアダプター	AC-4d	家庭用コンセントから直接電源を供給するときに使用します。
リチャージャブルバッテリー	DB-43	本カメラで使用できる充電池です。
バッテリーチャージャー	BJ-2e	リチャージャブルバッテリー（DB-43）を充電するための充電器です。
リチャージャブルバッテリーセット	BS-3e	リチャージャブルバッテリー(DB-43)とバッテリーチャージャー（BJ-2e）のセットです。
ソフトケース	SC-500	本カメラのケースです。

ワイドコンバージョンレンズの使い方

ワイドコンバージョンレンズ（DW-5）を取り付けると、レンズ倍率を0.8倍（35mm換算=広角側で22mm相当）で撮影できます。

1 ワイドコンバージョンレンズを、本機のレンズの先端に取り付ける



注意----------

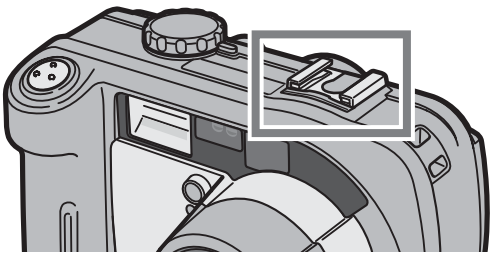
- レンズを付けた状態で撮影をする場合は、必ず本体の液晶モニターの画像を見ながら撮影してください。ファインダーでは実際に撮影される範囲は異なります。
- ワイドコンバージョンレンズを装着時は、ズームの位置を広角端でご使用ください。望遠側ではピントが合わない場合があります。
- ワイドコンバージョンレンズ装着時は、内蔵フラッシュおよび外部フラッシュを使用しても、フラッシュの光が周辺に届かないため、撮影した画像の一部が暗くなります。

メモ----------

お手入れ方法や保存方法などは、ワイドコンバージョンレンズに付属の説明書をご覧ください。

外部フラッシュの使いかた

アクセサリーシューには、外部フラッシュ（市販）などを取り付けてご使用になれます。



注意----------

- アクセサリーシューは、JIS B7101に準拠しています。
- 外部フラッシュなどで、バネ機構もしくはロック機構のないものはご使用になれません。
- プレ発光を解除することができない外部フラッシュは、ご使用になれません。

メモ----------

シンクロナイザ接点には対応していません。

電源オフで設定値が初期値に戻る機能

電源をオフにすると、機能によって設定値がリセットされ、初期値に戻るものがあります。
次の表は、電源をオフにしたときの設定値の保持／リセットについて示しています。

設定値の保持：○　　初期設定値に戻る：×

メニュー	機能		初期値
撮影設定	画質・サイズ	○	N1280 (1M)
	ブレ軽減	○	OFF
	フォーカス	○	マルチAF
	測光方式	○	マルチ
	シャープネス	○	標準
	連写	×	OFF
	色の濃さ	○	普通
	オートブラケット	×	OFF
	長時間露光	○	OFF
	インターバル撮影	×	0秒
	音声付き撮影	×	OFF
	日付入れ撮影	○	OFF
	露出補正	○	0.0
	ホワイトバランス	○	AUTO
	ISO感度	○	AUTO
	マクロ	×	OFF
	フラッシュ	○	発光禁止
	セルフタイマー	×	OFF
	最大輝度	○	ー
	文字濃度	○	標準
	サイズ（文字）	○	2048 (3M)
	動画サイズ	○	320
	フレームレート	○	30コマ／秒
再生設定	音量	○	ー
セットアップ	LCD輝度調節	○	ー
	ADJ.ボタン設定1	○	ブレ軽減
	ADJ.ボタン設定2		OFF
	オートパワーオフ	○	1分
	ブザー音	○	すべて
	操作音音量設定	○	中（■■□）

設定値の保持：○　　初期設定値に戻る：×

メニュー	機能		
セットアップ	画像確認時間	○	1秒
	CARD連続NO.	○	OFF
	日時設定	○	ー
	LANGUAGE／言語	○	日本語
	ビデオ方式	○	NTSC
	ステップズーム	○	OFF
	撮影設定警告	○	ON
	USB接続	○	オリジナル
	撮影アイコン拡大	○	OFF
	マイセッティング登録	○	ー
	起動時設定	○	OFF

シーンモードについて

シーンモードの種類によっては、通常の撮影モードと機能の働きが異なる場合があります。下表を参照してください。

モード名	フラッシュ	マクロ撮影
高感度	初期値：発光禁止	使用可
消防	初期値：発光禁止	使用可
斜め補正	初期値：発光禁止	使用可
文字	初期値：発光禁止	使用可
ズームマクロ	初期値：発光禁止	常時マクロ撮影

シーンモードの撮影設定メニュー

設定項目	高感度	消防	斜め補正	文字	ズームマクロ	参照先
画質・サイズ	○	○	○	ー	○	P.61
ブレ軽減	ー	ー	○	ー	○	P.63
文字濃度	ー	ー	ー	○	ー	P.57
サイズ	ー	ー	ー	○	ー	P.61
フォーカス	○	○	○	ー	○	P.64
測光方式	ー	ー	○	ー	○	P.67
シャープネス	ー	ー	○	ー	○	P.68
連写	ー	ー	ー	ー	○	P.69
色の濃さ	ー	ー	○	ー	○	P.73
オートブラケット	ー	ー	ー	ー	○	P.74
長時間露光	ー	ー	ー	ー	○	P.77
音声付き撮影	○	○	○	○	○	P.80
日付入れ撮影	○	○	○	○	○	P.81
露出補正	○	○	○	ー	○	P.82
ホワイトバランス	○	○	○	ー	○	P.83
ISO感度	ー	ー	○	ー	○	P.85

○ 設定可能　　ー 設定不可

各項目の選択肢については、P.59を参照してください。

海外でお使いのときは

ACアダプター（型名：AC-4d）について

交流100～240V、50Hz/60Hzの地域でご使用になれます。
電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。

保証書について

本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生等で現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生することができます。
付属のAVケーブルをご使用ください。
本機では、テレビ方式はNTSCとPALに対応しています。現地のテレビ環境にあわせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。
海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

使用上のご注意

防水機能について

- 本機はJIS保護等級7に対応しています。
- 雨中撮影や水洗いした後に、レンズ部の鏡筒部と底面の三脚ネジ部から水がしみ出てくる場合がありますが、この部分は２重構造になっているため心配ありません。
- カメラ内部は、防水、防塵構造になっていません。
- 万一カメラ内部に浸水したときは、すぐに電池を抜き取り、リコー修理受付センターにご連絡ください。
- 特殊環境下で使用される場合は、リコーお客様相談センターにご相談ください。

使用上のご注意

- 本機の開閉を行う場合は、本機についた水滴や汚れが内部に入らないよう注意してください。また、海水や砂が入ることがあるため、浜辺、海上、砂地では本機の開閉はできるだけ避けてください。
- バッテリー／カードカバー、端子カバーを開閉する場合は、軍手をしたままで操作しないでください。またカメラに付着した水、砂、泥などの汚れを確実に除去し、これらの汚れが入りやすい場所を避けて開閉してください。
- カバーを開けたときは、内部に水滴がついていることがあります。きれいに拭き取ってからご使用ください。
- 本機は機密性が高いため、気圧が変化するとバッテリー／カードカバー、端子カバーが開きにくくなることがあります。
- モードダイヤルは防水構造のため、長い時間放置しておくと動作が重くなることがあります。数回動作させると元に戻ります。
- 砂浜やホコリの多いところ（工事現場等）では、砂やホコリがカメラにつかないよう十分に注意してください。
- 密閉した自動車の中や海辺、浴室など、異常に温度の上がるところや湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
- AC アダプター（別売り）は、必ずカメラの電源が切れている状態で接続してください。
- バッテリー／カードカバー、端子カバーを無理に引っぱらないでください。
- バッテリー／カードカバー、端子カバーを持ってカメラを持ち上げないでください。
- カメラ内部に水滴が入ったときは、すぐに使用をやめてください。次に電源を切り、電池を取り出して各部のカバーを開けたままにしてください。水滴の入ったままで使用なさらずに、お買い上げ店またはリコー修理受付センターにご相談ください。

- 寒冷地では、カメラに水滴が付着していると凍結することがあります。凍結したまま使用すると故障の原因になります。水滴が付着したまま放置しないでください。
- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 液晶モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなることがあります。
- 液晶モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- カメラを持ち運ぶときは、レンズや液晶モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針等を通さないでください。

結露の発生しやすい状態----------

- 本機を急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接あたるとき

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れがつくと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れがついたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 本機が汚れたときは、バッテリー／カードカバーや端子カバーが確実に閉まっていることを確認し、バケツなどにためた水道水で洗い、砂や塩分を落として乾いた柔らかい布で水分をふき取ってください。
- ゴムパッキンが汚れたときは、乾いた柔らかい布でふき取ってください。汚れが落ちないときは、新しいものとの交換を、お買い上げ店またはリコー修理受付センターに依頼してください。
- 海辺や薬品を使う場所で使用したあとは、特に入念にふいてください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 液晶モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 液晶モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナーを、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

使用／保管場所について

- 次のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。

  振動の激しいところ
  防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
  強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）

  また、バッテリー／カードカバー、端子カバーを開けたままの状態で、以下の場所での使用および保管は避けてください。

  高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
  砂、ほこり、ちりの多い場所
  水のかかる場所
- 長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

ゴムパッキンの交換について

- 防水効果を維持するため、ゴムパッキンは汚れ、異常の有無にかかわらず、２年ごとに交換してください。頻繁に水、砂、ほこりの中で使用する場合は、１年ごとの交換をおすすめします。ゴムパッキンの交換は、リコー修理受付センターでお引き受けいたします（有料）。

お手入れ時のご注意

（1）必ず電源をオフにしてください。
（2）電池やACアダプターを取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保障期間内で無料修理いたしますので、リコー修理受付センターかお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
   ① 使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障。
   ② 使用説明書に記載されている当社指定の修理取り扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除等による故障。
   ③ 火災、天災、地変等による故障。
   ④ 保管上の不備（高温多湿や防虫剤の入った場所での保管、電池等の液漏等、カビ発生等）による故障。
   ⑤ バッテリー／カードカバー、端子カバーを開けた状態での、浸水、落下、泥、砂等により生じた故障。
3. 保証書に記載された保障期間経過後は、本製品に関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証書の添付のない場合や、販売店名、ご購入年月日の記入がない場合ならびに記載事項を訂正された場合には、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。
5. 保証期間内であっても、本製品について各部点検、精密検査等を特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
6. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップ等の付属品類および本製品に付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
7. 無償修理期間中であると否とにかかわらず、本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および得べかりし利益の損失）等については補償いたしかねます。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   ＊ 以上の保証規定は無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
   ＊ 以上の保証規定は本製品に関する保証書にも同様の趣旨で記載されています。
9. 本製品の補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5年を目安に保有しております。
10. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下等で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの等は修理できない場合もあります。ご了承ください。

- 修理にお出しになる前に、バッテリーの消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
- 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合もございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
- 修理にお出しになる際は、故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理にお出しになる際は、修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださるとともに、使用説明書や予備のバッテリーの携帯等をお勧めいたします。
- 修理にお出しになった場合、メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについては保証できません。

索引

記号・英数字

3コマ表示……47
Acrobat Reader……138, 142
ACアダプター……13, 27
ADJ./MEMOボタン……15, 56, 89, 91
ADJ.ボタン設定1、2……118
AFターゲット移動……58
AF補助光……14, 44
AF窓……14
AVIファイル……87
AVケーブル……12, 102
AV出力端子……14, 102
CALSモード……16, 43
Caplio Mounter……148
Caplio Software CD-ROM……13, 136, 148
Caplio Transfer Software……138, 145
Caplioレスキュー……137, 166
CARDへコピー……101
CARD連続NO.……123
DirectX……138, 143
DISP.ボタン……15, 53
DPOF……97
ImageMixer……137, 138, 147
ISO感度……85
LANGUAGE/言語……126
LCD輝度調節……117
List Editor……137
MENU/OKボタン……15, 60, 92, 113
M（メモリー逆戻り）連写……69
PictBridge……104
RICOH Gate La……137, 148, 156
Ridoc Desk Navigator Lt……138, 143
SCENEボタン……15, 40
SDメモリーカード……22, 25, 46
S（ストリーム）連写……69
USBケーブル……12, 104
USB接続……130
USB端子……14, 105, 155
USBドライバー……137, 148
WAVファイル……90
WIAドライバー……137

あ

アクセサリーシュー……14, 173
一気押し……33
色の濃さ……73
印刷……104
インターバル撮影……78
液晶モニター……15, 17
エラーメッセージ……160
オートパワーオフ……29, 119
オートフォーカス/フラッシュランプ……15, 34, 38
オートフォーカス（AF）……64
オートブラケット……74
音声付き撮影……80
音声モード……16, 90

か

カードリーダー……159
外部フラッシュ……173
拡大表示……49
画質・サイズ……61
画像確認時間……122
画像サイズ変更……100
カメラメモ……111
起動時設定……134
逆光撮影……82
記録可能枚数……171
クイックレビューボタン……15, 45
グリッドガイド表示……53
広角/サムネイル表示ボタン……15, 36, 47
高感度……39

さ

再生設定メニュー……92
再生ボタン……15, 46
再生モード……29, 46
削除……50
削除/セルフタイマーボタン……15, 44, 50

撮影アイコン拡大 132
撮影可能枚数 21
撮影設定警告 129
撮影設定初期化 86
撮影設定メニュー 59
サムネイル表示 47
三脚ネジ穴 15
シーンモード 39
シャープネス 68
シャッターボタン 14, 31
消防 39
充電 24
初期化［カード］ 115
初期化［内蔵メモリー］ 116
シンクロモニターモード 53
ズーム 36
ズームマクロ 39, 42
ステップズーム 128
スピーカー 15
スライドショー 93
静止画モード 16, 33
セットアップメニュー 112
セルフタイマー 44
操作音音量設定 121
測光方式 67

た

ダイレクトプリント 104
単三アルカリ乾電池 20, 25
端子カバー 14, 102, 105, 155
調光窓 14
長時間露光 77
帳票印刷 110
デジタルズーム 36
手ブレ 32
電源ボタン 15
電池 20
電池の残量表示 19
動画サイズ 61
動画モード 16, 87

な

内蔵メモリー 22, 46
斜め補正 39, 41
日時設定 30, 125
ニッケル水素電池 20
ネックストラップ 12

は

バッテリーチャージャー 12, 24
バッテリー /カードカバー 15, 25, 27
半押し 34
ヒストグラム表示 54
日付入れ撮影 81
ビデオ方式 127
ファインダー 14, 15
フォーカス 64
フォーカスロック 34
ブザー音 120
フラッシュ 38
フラッシュボタン 15, 38
フラッシュ発光部 14
フレームレート 88
ブレ軽減 63
プロテクト 94
望遠/拡大表示ボタン 15, 36, 48
ホワイトバランス 83
ホワイトバランスブラケット（WB-BKT) 75

ま

マイク 15
マイセッティング登録 133
マクロボタン 15, 37
マスストレージモード 130, 157
マニュアルフォーカス（MF) 65
モードダイヤル 14, 16
文字 39
文字濃度 57

ら

リチャージャブルバッテリー 12, 20, 24, 25
連写 69
レンズ 14
露出補正 82

わ

ワイドコンバージョンレンズ 13, 172

リコー修理受付センター

万一、本製品がご使用中に故障した場合は、下記のサービスメニューからお客様がご希望のサービス方法をお選びいただき、記載されているリコー修理受付センターまでお申し込みください。

＊本製品の保証書に記載された保証期間内は、無料修理となりますが、保証書裏面の保証規定第2項の記載に該当する場合は、保証の対象にはなりません。

＊各サービスメニューの対象は、製品本体のみとさせていただきます。

＊本サービスは、日本国内のみ有効です。

●たくはいサービス●

着払い宅配便にてお送りいただくサービスです。

●ひきとりサービス●

運送業者がお客様のご自宅（事務所）に訪問し、機械を梱包してお預りします。

時間帯指定サービス

たくはいサービス、ひきとりサービスの各サービスで、修理完成品の配達日の時間帯指定ができます。時間帯は10：00～20：00までの間で、時間帯区切りは2時間です。
1)10：00～12：00　2)12：00～14：00　3)14：00～16：00
4)16：00～18：00　5)18：00～20：00
＊リコー修理受付センターへご連絡の際、お申し込みください。

●持ち込み修理について●

お買い上げのご販売店、カメラサービスセンター（裏表紙）のいずれかにお持ちいただいた場合も、修理の受付を行います。

お願い

1. 修理に際し、メモリー等記憶装置内のデータの保存については保証いたしかねますのでご了承ください。
2. 修理におだしになる前に、バッテリーのチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いします。
3. 修理個所によっては規定以上の日数がかかる場合がございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
4. 修理ご依頼の際は、故障内容と故障個所をできるだけ詳しくお申し出ください。
5. 「リコー修理受付センター」は上記取扱商品の故障に関する修理方法、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。

修理以外の製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せ、ご相談は巻末に記載のリコーお客様相談センターまでお願い申し上げます。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。
デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含有される「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。

困ったときには

本書の「お困りのときは」（☞P.160）をご覧ください。また、付属のCD-ROMに収められている**Caplioレスキュー（トラブルシューティング）**もお試しください。それでも問題が解決しないときには、「リコーお客様相談センター」にご連絡ください。

リコーお客様相談センター	
0120 FreeDial	電話0120-000475 FAX 0120-479417 受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日を除く） ※なお、対応状況の確認と対応品質の向上のため、ご相談内容を録音をさせていただいております。
インターネットでもご相談をお受けしています。 http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/index.html	
デジタルカメラ修理受付	
リコー修理受付センター （リコーロジスティックス株式会社）	0120 FreeDial 電話0120-053956 受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日を除く） 宅配便を利用した修理品の受付センターです。
リコー銀座カメラサービスセンター	〒104-0061東京都中央区銀座6-14-7（リコー三愛ビル別館） 電話03-3543-4187 受付時間：9:30～17:00（土、日、祝日を除く）
デジタルカメラサービスセンター （リコーテクノシステムズ株式会社）	〒222-0033神奈川県横浜市港北区新横浜1-2-1 （新横浜ファーストビル3階） 電話045-474-2586 受付時間：9:30～17:00（土、日、祝日を除く）
ImageMixerについて	
株式会社ピクセラ ユーザーサポートセンター	電話06-6633-3900 受付時間：月曜日～日曜日10:00～17:00 （年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）

株式会社リコー
〒104-8222
東京都中央区銀座8-13-1リコービル
電話：0120-000475（フリーダイヤル）
2006年5月

Jp JA Printed in China

L733 1971A